

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	コリツカ'イ'ク'ホジ'ン コチダ'イ'ク 国立大学法人 高知大学									
フリガナ大学の名称	コチダ'イ'ク 高知大学 (Kochi University)									
大学本部の位置	高知県高知市曙町二丁目5番1号									
大学の目的	<p>高知大学は、人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する「環境・人類共生」（以下「環・人共生」）の精神に立脚し、地域を基盤とした総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、普遍的で幅広い教養を持った専門職業人を養成する。研究では、南国土佐を中心とした東南アジアから日本にかけての黒潮の影響を受ける地域、すなわち黒潮流域圏の特性を活かした多様な学術研究を推進する。もって地域社会の課題解決を図り、その成果を国際社会に発信する。そのため以下の基本目標を掲げる。</p> <p>1. 教育 高知大学は、幅広い教養と高度で実践的な専門能力を身に付け、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成する。とりわけ、地域が直面する諸課題を自ら探求し、学際的な視点で考えたとともに、「環・人共生」の精神に立ってその解決策を提案できる人材の輩出を今期中期目標期間の重点的教育目標とする。 このために、学士課程教育では人文科学・社会科学・自然科学・生命科学にわたる普遍的で幅広い教養と各分野の専門基礎力及び社会で活躍するために不可欠な人間性・社会性・国際性を涵養する。また、大学院教育においては、自らの専門分野において、国際的に通用する知識・技術・表現力を持った人材を育成する。</p> <p>2. 研究 高知大学は、高知県を中心とした南四国や近縁の黒潮流域圏の地域特性に根ざした先導的、独創的、国際的な研究を推進し、そこで培われた知見やノウハウや人材を国内外の諸地域にも敷衍させることにより、地域社会、近隣社会と国際社会に貢献する。具体的には、自然及び環境保全と、住民の安全・健康とクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上を目指した研究を推進し、人と環境との調和のとれた発展に貢献する。研究のキーワードは、「海」、「環境」、「生命」とする。 研究体制としては、個々人の自由な発想に基づく個人研究をベースとしつつ、1) 研究拠点で行う研究拠点プロジェクト、2) 自然科学系・人文社会科学系・医学系・総合科学系の各学系が行う学系プロジェクト、3) 海洋コア総合研究センターや総合研究センター等で行う組織的研究において、研究者間交流を活性化して研究水準の高度化を図る。</p> <p>3. 地域連携・国際化 高知大学が有する人的資源（教職員・学生）、知識、情報、研究成果などの知的資源を駆使することで、高知県を中心とした地域社会への貢献を深化・発展させ、地域に欠くことのできない大学として存立基盤を強化する。 これまでに培ってきた教育研究上の成果をアジア・太平洋地域の諸国、特に、開発途上国へ還元することにより、国際社会への積極的な貢献を図る。また、地域に根ざした特色ある国際交流の推進を通して、高知大学の国際化のみならず、活力ある地域社会の発展にも寄与する。</p>									
新設学部等の目的	<p>本学部は、「キャンパスは地域、テキストは人」という考えの下、「地域力を学生の学びと成長に活かし、学生力を地域の再生と発展に活かす教育研究の推進」を基本理念とし、「地域協働型産業人材」を組織的・体系的に育成する。 また、高知県を中心的な教育研究のフィールドとして、地域との「協働」というアプローチによって、地域と真摯に向き合い、地域とともに課題解決を実践する中で、教育・研究・地域貢献を実現するとともに、高知県における課題解決のみならず、我が国社会全体の発展にも寄与する。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	地域協働学部 [Faculty of Regional Collaboration] 地域協働学科 [Department of Regional Collaboration]	年	人	年次人	人	学士（地域協働学）	年 月 第 年次	高知県高知市曙町二丁目5番1号		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>・入学定員の変更等 人文学部社会経済学科 (△20) 教育学部学校教育教員養成課程[定員増] (30) 教育学部生涯教育課程 (廃止) (△70) (平成27年4月募集停止)</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	地域協働学部	講義	演習	実験・実習	計					
		219科目	67科目	23科目	309科目	124 単位				
教員	学部等の名称				専任教員等					兼任教員
	新設分	地域協働学部 地域協働学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手		
		計	9 (9)	8 (7)	4 (4)	1 (1)	22 (21)	0 (0)	2 (2)	

組	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼任 教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		
既 組 織 の 設 概 要 分	人文学部	人間文化学科	19 (19)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	4 (4)
	人文学部	国際社会コミュニケーション学科	12 (12)	13 (13)	3 (3)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	3 (3)
	人文学部	社会経済学科	7 (7)	9 (9)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	10 (10)
	教育学部	学校教育教員養成課程	40 (40)	21 (21)	16 (16)	2 (2)	79 (79)	0 (0)	19 (19)
	理学部	理学科	21 (21)	12 (12)	4 (4)	3 (3)	40 (40)	0 (0)	7 (7)
	理学部	応用理学科	17 (17)	12 (12)	5 (5)	5 (5)	39 (39)	0 (0)	4 (4)
	医学部	医学科	38 (38)	29 (29)	45 (45)	129 (129)	241 (241)	0 (0)	113 (113)
	医学部	看護学科	7 (7)	4 (4)	9 (9)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	22 (22)
	農学部	農学科	30 (30)	26 (26)	7 (7)	0 (0)	63 (63)	0 (0)	5 (5)
	計		191 (191)	135 (135)	94 (94)	143 (143)	563 (563)	0 (0)	187 (187)
合 計		200 (200)	143 (142)	98 (98)	144 (144)	585 (584)	0 (0)	189 (189)	
教員以外の 職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		272 (272)		320 (320)		592 (592)		
	技 術 職 員		65 (65)		313 (313)		378 (378)		
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)		32 (32)		42 (42)		
	そ の 他 の 職 員		17 (17)		38 (38)		55 (55)		
計		364 (364)		703 (703)		1,067 (1,067)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体
	校 舎 敷 地	451,584㎡	0 ㎡		0 ㎡		451,584㎡		
	運 動 場 用 地	65,901㎡	0 ㎡		0 ㎡		65,901㎡		
	小 計	517,485㎡	0 ㎡		0 ㎡		517,485㎡		
	そ の 他	1,573,795㎡	0 ㎡		0 ㎡		1,573,795㎡		
	合 計	2,091,280㎡	0 ㎡		0 ㎡		2,091,280㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体
		106,400㎡ (106,400㎡)	0 ㎡		0 ㎡		106,400㎡ (106,400㎡)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
	75室	170室	855室		14室 (補助職員0人)		8室 (補助職員2人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		地域協働学部			21 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数
	地域協働学部	731,591 [194,317] (731,591 [194,317])	19,501 [10,959] (19,501 [10,959])		8,048 [8,045] (8,048 [8,045])	2,709 (2,709)	3,381 (3,381)	0 (0)	
	計	731,591 [194,317] (731,591 [194,317])	19,501 [10,959] (19,501 [10,959])		8,048 [8,045] (8,048 [8,045])	2,709 (2,709)	3,381 (3,381)	0 (0)	
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体
		9,649㎡		683		799,195			
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		3,700㎡		柔・剣道場，弓道場，テニスコート，プール等を有している					

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による	
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円		
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—						
既設大学等の状況	大学の名称	高知大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	人文学部	年	人	年次人	人		倍	平成15	高知県高知市曙町二丁目5番1号
	人間文化学科	4	94		376	学士(文学) 学士(学術)	1.00		
	国際社会コミュニケーション学科	4	83		332	学士(学術)	1.06		
	社会経済学科	4	118		472	学士(経済学) 学士(学術)	1.08		
	(学科共通)		—	3年次 10	20				
	教育学部							平成15	高知県高知市曙町二丁目5番1号
	学校教育教員養成課程	4	100	—	400	学士(教育)	1.03		
	生涯教育課程	4	70	—	280	学士(教養) 学士(学術)	1.05		*平成27年度募集停止 *平成19年度改組に伴い募集停止
	理学部							平成15	高知県高知市曙町二丁目5番1号
	物質科学科	4	—	—	—	学士(理学)	—		
	自然環境科学科	4	—	—	—		—		
	理学部							平成19	高知県高知市曙町二丁目5番1号
	理学科	4	135		540	学士(理学)	1.04		*平成19年度改組
	応用理学科	4	135		540		1.03		*2学科一括募集
	(学科共通)		—	3年次 10	20				
	医学部							平成15	高知県南国市岡豊町小蓮
	医学科	6	110	2年次 5	672	学士(医学)	1.00		*医学部医学科の収容定員のうち30名は、平成29年までの措置。 *医学部医学科の収容定員のうち60名は、平成31年までの措置。
	看護学科	4	60	3年次 10	260	学士(看護学) 学士(学術)	1.01		
	農学部							平成15	高知県南国市物部乙200
	生産環境工学科	4	—	—	—	学士(農学)	—		*平成19年度改組に伴い募集停止
	生物資源科学科	4	—	—	—		—		
	農学部							平成19	高知県南国市物部乙200
	農学科	4	170	—	680	学士(農学) 学士(学術)	1.06		*平成19年度改組
	医学系研究科							平成15	高知県南国市岡豊町小蓮
生命医学系専攻	4	—	—	—	博士(医学)	—		*平成20年度改組に伴い募集停止	
神経科学系専攻	4	—	—	—		—			
社会医学系専攻	4	—	—	—		—			
黒潮圏海洋科学研究科							平成16	高知県南国市物部乙200	
黒潮圏海洋科学専攻	3	—	—	—	博士(学術)	—			

既設大学等の状況	大学の名称		高知大学						開設年度	所在地	*平成20年度改組
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率				
	総合人間自然科学研究科							平成20			
	人文社会科学専攻	2	10	—	20	修士(文学) 修士(学術) 修士(経済学)	0.90		高知県高知市曙町二丁目5番1号		
	教育学専攻	2	30	—	60	修士(教育学) 修士(学術)	1.19		高知県高知市曙町二丁目5番1号		
	理学専攻	2	75	—	150	修士(理学) 修士(学術)	0.89		高知県高知市曙町二丁目5番1号		
	医科学専攻	2	15	—	30	修士(医科学) 修士(学術)	0.60		高知県南国市岡豊町小蓮		
	看護学専攻	2	12	—	24	修士(看護学) 修士(学術)	1.03		高知県南国市岡豊町小蓮		
	農学専攻	2	59	—	118	修士(農学) 修士(学術)	0.83		高知県南国市物部乙200		
	応用自然科学専攻	3	6	—	18	博士(理学) 博士(学術)	0.77		高知県高知市曙町二丁目5番1号		
	医学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	0.60		高知県南国市岡豊町小蓮		
	黒潮圏総合科学専攻	3	6	—	18	博士(学術)	0.66		高知県南国市物部乙200		
	<p>名称：高知大学教育学部附属幼稚園 目的：幼児を保育し、適正な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-26 設置年月：昭和30年7月 規模等：敷地面積：7,847.23㎡ 延べ建物面積：1,065㎡</p> <p>名称：高知大学教育学部附属小学校 目的：心身の発達に応じて初等普通教育を施すとともに、高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-13 設置年月：昭和26年4月 規模等：敷地面積：21,777.41㎡ 延べ建物面積：6,621㎡</p> <p>名称：高知大学教育学部附属中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等教育を施すとともに、高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-91 設置年月：昭和26年4月 規模等：敷地面積：25,503.94㎡ 延べ建物面積：6,527㎡</p> <p>名称：高知大学教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害児に対して、小学校・中学校及び高等学校に準ずる教育を行い、併せて、その能力に応じて、社会的自立に必要な知識、技能、態度を養うとともに、高知大学教育学部における障害児教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市曙町二丁目5-3 設置年月：昭和45年4月 規模等：敷地面積：13,156.1㎡ 延べ建物面積：3,567㎡</p> <p>名称：高知大学医学部附属病院 目的：診療を通じて、医学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地：高知県南国市岡豊町小蓮185-1 設置年月：昭和56年4月（開設：昭和56年10月） 規模等：敷地面積：66,717㎡ 延べ建物面積：44,667.79㎡</p> <p>名称：高知大学農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター 目的：フィールドサイエンスに関する実践的教育研究を推進するとともに、共同研究、人的交流等の促進を通して、地域社会及び国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：高知県南国市物部乙200、高知県香美市土佐山田町上穴内 設置年月：平成15年4月 規模等：敷地面積：1,459,651㎡ 延べ建物面積：7,038㎡</p>										

(別紙)

国立大学法人高知大学 設置認可等に関する組織の移行表

改組前

平成27年度

学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員
高知大学			
人文学部	295		1,200
人間文化学科	94	3年次 ⁶	
国際社会コミュニケーション学科	83	3年次 ²	
社会経済学科	118	3年次 ²	
教育学部	170		680
学校教育教員養成課程	100	—	
生涯教育課程	70	—	
理学部	270		1,100
理学科	135	3年次 ⁵	
応用理学科	135	3年次 ⁵	
医学部	170		932
医学科	110	2年次 ⁵	
看護学科	60	3年次 ¹⁰	
農学部	170		680
農学科	170	—	
計	1,075	3年次 ³⁰ 2年次 ⁵	4,592

学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
高知大学				
人文学部	275		1,120	収容定員変更
人間文化学科	94	3年次 ⁶		
国際社会コミュニケーション学科	83	3年次 ²		
社会経済学科	98	3年次 ²		収容定員変更
教育学部	130		520	収容定員変更
学校教育教員養成課程	130	—		収容定員変更
生涯教育課程	0	—		平成27年4月学生募集停止
理学部	270		1,100	
理学科	135	3年次 ⁵		
応用理学科	135	3年次 ⁵		
医学部	170		942	
医学科	110	2年次 ⁵		* 医学部医学科の収容定員18名の増加については、平成31年度までの措置。(平成22年12月認可済)
				* 医学部医学科の収容定員のうち42名の増加については、平成31年度までの措置。(平成21年12月認可済)
				* 医学部医学科の収容定員のうち30名は、平成29年度までの措置。(平成20年8月認可済)
看護学科	60	3年次 ¹⁰		
農学部	170		680	
農学科	170	—	—	
地域協働学部	60		240	学部の設置(認可申請)
地域協働学科	60	—	—	
計	1,075	3年次 ³⁰ 2年次 ⁵	4,602	

高知大学大学院			
総合人間自然科学研究科			
人文社会科学専攻	10	—	20
教育学専攻	30	—	60
理学専攻	75	—	150
医科学専攻	15	—	30
看護学専攻	12	—	24
農学専攻	59	—	118
応用自然科学専攻	6	—	18
医学専攻	30	—	120
黒潮圏総合科学専攻	6	—	18
計	243	—	558

高知大学大学院			
総合人間自然科学研究科			
人文社会科学専攻	10	—	20
教育学専攻	30	—	60
理学専攻	75	—	150
医科学専攻	15	—	30
看護学専攻	12	—	24
農学専攻	59	—	118
応用自然科学専攻	6	—	18
医学専攻	30	—	120
黒潮圏総合科学専攻	6	—	18
計	243	—	558

教育課程等の概要															
(地域協働学部地域協働学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次科目	大学基礎論	1・1学期	2			○			3	1					
	学問基礎論	1・2学期	2			○			1	2	1				共同
	課題探求実践セミナー	1・1学期	2				○		4	3	1				共同
	英会話	1・1学期	2				○								兼6
	大学英語入門	1・2学期	2				○								兼4
	情報処理	1・1学期	2				○								兼1
	小計（6科目）	—	—	12	0	0	—	—	7	5	2				兼11
共通教育科目 教養科目 人文分野	倫理を考える	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	核時代の倫理	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	食の哲学	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	哲学を学ぶ	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	哲学を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	哲学	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	文化人類学入門	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	リラクゼーションの哲学	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼1
	心理学を学ぶ	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	心理学を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○									兼2
	対人コミュニケーション論を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	Psychology for beginners	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	総合恋愛学実践セミナー準備講座	1・2・3・4・通年	2				○								兼1
	地理学を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	地理学を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	歴史を考える	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1 ※COC科目
	映画を通して考える中国近世・近現代史の諸問題	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	風景と空間の科学	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	土佐の自由民権運動	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1 ※COC科目
	基礎から学ぶ日本近代史	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	「名場面」から読み解く中国古代史	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼1
	空想の博物学	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	文学を考える	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	文学を考える	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	日本語の世界—五十音図をめぐる	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	四国方言	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼1
	外国文学	1・2・3・4・1学期	2			○									兼5 オムニバス
	桃太郎の表現史	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	日本語の探究	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	文学と社会	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	彫刻の魅力	1・2・3・4・1学期	2				○								兼1
	グラフィックデザイン入門	1・2・3・4・1学期	2				○			1					
音楽解剖学入門	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1	
マスメディアと音楽	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1	
ピアノ連弾を楽しもう	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1	
デッサンの世界	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1	
近代美術への接近	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1	
文化財保存科学概論	2・3・4・2学期	2			○									兼1	

教育課程等の概要														
（地域協働学部地域協働学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文分野	スポーツ科学実技（ゴルフ）	1・2・3・4・1,2学期	1					○						兼1
	スポーツ科学実技（バレーボール）	1・2・3・4・1学期	1					○						兼1
	スポーツ科学実技（フィットネス）	1・2・3・4・1学期	1					○						兼1
	スポーツ科学実技（一から学べる筋力トレーニング）	1・2・3・4・2学期	1					○						兼1
	スポーツ科学実技（剣道）	1・2・3・4・2学期	1					○						兼1
	スポーツ科学実技（バスケットボール）	1・2・3・4・2学期	1					○						兼1
	スポーツ科学実技（硬式テニス）	1・2・3・4・1,2学期	1					○						兼2
	スポーツ科学実技（バドミントン）	1・2・3・4・1,2学期	1					○						兼2
	スポーツ科学実技（スキー・スノーボード）	1・2・3・4・2学期	1					○						兼2 共同集中
	小計（47科目）	—	0	85	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼42
共通教育科目 教養科目 社会分野	社会起業論	1・2・3・4・2学期	2			○					1			※COC科目
	食と農の経済学	1・2・3・4・2学期	2			○				1				※COC科目
	まちづくり論	1・2・3・4・2学期	2			○					1			※COC科目
	社会的経営論	1・2・3・4・2学期	2			○			1	1	1			オムニバス ※COC科目
	スポーツ文化論	1・2・3・4・2学期	2			○				1				※COC科目
	国際関係を考える	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	政治を考える	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1
	政治を考える	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	社会学を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	社会学を学ぶ	1・2・3・4・2学期	2			○			1					※COC科目
	法を学ぶ	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1
	法を学ぶ	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1
	憲法を学ぶ	1・2・3・4・1,2学期	2			○								兼1
	憲法を学ぶ	1・2・3・4・1,2学期	2			○								兼1
	企業経営を考える	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1
	企業経営を考える	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	男女共同参画社会を考える	1・2・3・4・1学期	2			○								兼5 オムニバス 集中
	企業と労働を考える	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1
	経済を考える	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	経済を考える	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	女性とライフコース	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1
	子どもの発達と生活	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	魚食文化で世界を見る	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1 ※COC科目
	社会調査データの分析	1・2・3・4・1学期	2			○			1	2				オムニバス ※COC科目
	森との共生を探る	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1 ※COC科目
	市民生活と法	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	平和と軍縮	1・2・3・4・1学期	2			○								兼5 オムニバス
	日本の刑事司法を考える	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	メディア社会論	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
	英語レクチャー（Culture and Society）	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1
環境社会論入門	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
消費者問題と法	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
現代日本の社会と政治	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
福島原発事故を考える	1・2・3・4・1学期	2			○								兼8 オムニバス	

教育課程等の概要																	
(地域協働学部地域協働学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	社会分野	大学政策論入門	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1		
		非営利法人経営論入門	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1		
		サービスラーニング演習	1・2・3・4・通年	2				○		1							集中 ※COC科目
		中山間地域の生活と環境Ⅰ	1・2・3・4・通年	2				○			1						集中 ※COC科目
		中山間地域の生活と環境Ⅱ	1・2・3・4・通年	2				○			1						集中 ※COC科目
		地域協働企画立案	1・2学期	2				○				1					集中 ※COC科目
		地域協働実習Ⅰ	2・1学期	2				○				1					集中 ※COC科目
		地域協働自己分析	2・3・4・通年	2				○				1					集中 ※COC科目
		社会協働実践	1・2・3・4・通年	2				○			1						集中 ※COC科目
		協働実践自己分析	1・2・3・4・通年	2				○			1						集中 ※COC科目
		ソーシャルキャピタル論入門	1・2・3・4・通年	2				○			1						集中 ※COC科目
		地域の中で武道を育てる	1・2・3・4・1学期	2				○								兼1	集中 ※COC科目
		スポーツ科学講義A	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1	
		スポーツ科学講義B	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1	
	スポーツ科学講義C	1・2・3・4・2学期	2				○			1							
	スポーツ科学講義D	1・2・3・4・1学期	2				○								兼1		
	小計（50科目）	—	—	0	100	0	—	—	—	3	4	3		0	兼40		
	生命・医療分野	健康A	1・2・3・4・1学期		2			○								兼6	オムニバス
		健康B	1・2・3・4・1学期		2			○								兼7	オムニバス
		健康C	1・2・3・4・1学期		2			○								兼8	オムニバス
		健康D	1・2・3・4・1学期		2			○								兼8	オムニバス
		アルコール学概論	1・2・3・4・1学期		2			○								兼3	オムニバス ※COC科目
	小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼23		
	自然分野	数理の世界	1・2・3・4・2学期		2			○								兼1	
		数理の世界	1・2・3・4・2学期		2			○								兼1	
		数理の世界	1・2・3・4・1学期		2			○								兼1	
		自然の法則	1・2・3・4・1学期		2			○								兼6	オムニバス
フードサイエンスの世界		1・2・3・4・1学期		2			○		1						兼14	オムニバス	
ライフサイエンスの世界		1・2・3・4・2学期		2			○								兼14	オムニバス	
物質の科学		1・2・3・4・2学期		2			○								兼13	オムニバス	
地球と宇宙		1・2・3・4・2学期		2			○								兼2	オムニバス	
自然科学の歴史		1・2・3・4・2学期		2			○								兼3	オムニバス	
花粉を科学する		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
土佐の自然と農業		1・2・3・4・1学期		2			○			1					兼14	オムニバス ※COC科目	
サイエンスリテラシーの化学		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
渚の自然史		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
色彩の世界		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
環境を考える		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1	※COC科目	
黒潮圏科学の魅力		1・2・3・4・1学期		2			○								兼12	オムニバス	
生物科学		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
心の仕組みと脳発達障害		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
初学者の為の物理入門		1・2・3・4・1学期		2			○								兼1		
大地の災害		1・2・3・4・1学期		2			○								兼2	オムニバス	
地震の災害	1・2・3・4・1学期		2			○								兼1	※COC科目		
流れと波の災害	1・2・3・4・2学期		2			○								兼2	オムニバス ※COC科目		

教育課程等の概要																
(地域協働学部地域協働学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	自然分野	災害と生きる	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
		魚と食と健康	1・2・3・4・2学期	2			○								兼9	オムニバス
		海洋生物学	1・2・3・4・2学期	2			○								兼4	オムニバス ※COC科目
		自然環境と人間	1・2・3・4・2学期	2			○								兼15	オムニバス
		生態系への人為的インパクト	1・2・3・4・2学期	2			○								兼2	オムニバス
		森林と地球環境	1・2・3・4・2学期	2			○			1					兼12	オムニバス
		生物時計のはなし	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
		体験する数学	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
		みのまわりの科学	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	
		高知の自然と地質資源	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1	※COC科目
		高知の農業と自然を実践して学ぶ	1・2・3・4・1学期	2					○						兼10	オムニバス 集中 ※COC科目
		土佐の海の環境学Ⅰ：柏島海から考える	1・2・3・4・通年	2					○		1				兼6	オムニバス 集中 ※COC科目
		木の旅を辿る	1・2・3・4・1学期	2					○						兼8	オムニバス 集中 ※COC科目
		小計（35科目）		—	0	70	0	—			2	1	0	0	0	兼110
共通教育科目	外国語分野	TOEIC英語	1・2・3・4・1,2学期	2			○							兼4		
		国際英語	1・2・3・4・1学期	2				○						兼2		
		教養英会話	2・3・4・1,2学期	2				○						兼2		
		リーディング・スキル	1・2・3・4・1,2学期	2				○						兼2		
		ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4・1,2学期	2				○						兼4		
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4・2学期	2				○						兼2		
		フランス語Ⅰ	1・2・3・4・1学期	2				○						兼1		
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4・2学期	2				○						兼1		
		中国語Ⅰ	1・2・3・4・1学期	2				○						兼4		
		中国語Ⅱ	1・2・3・4・2学期	2				○						兼3		
		韓国語（朝鮮語）Ⅰ	1・2・3・4・1,2学期	2				○						兼1		
		韓国語（朝鮮語）Ⅱ	1・2・3・4・2学期	2				○						兼1		
		スペイン語Ⅰ	1・2・3・4・1学期	2				○						兼1		
		スペイン語Ⅱ	1・2・3・4・2学期	2				○						兼1		
小計（14科目）		—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼21		
共通専門科目	基礎科目	基礎教育英語	2・3・4・1,2学期	2			○							兼9		
		基礎教育英語（リスニング）	2・3・4・2学期	2			○							兼1		
		基礎教育英語EPI C 1 A	2・3・4・1学期	1			○							兼1		
		基礎教育英語EPI C 1 B	2・3・4・1学期	1			○							兼1		
		基礎教育英語EPI C 2 A	2・3・4・1学期	1			○							兼1		
		基礎教育英語EPI C 2 B	2・3・4・1学期	1			○							兼1		
		基礎教育英語EPI C 3 A	2・3・4・1学期	1			○							兼1		
		基礎教育英語EPI C 3 B	2・3・4・1学期	1			○							兼1		
		基礎教育英語（CBLT英語）	2・3・4・1学期	2			○							兼1		
		基礎教育ドイツ語	2・3・4・1,2学期	2			○							兼3		
		基礎教育中国語	2・3・4・1,2学期	2			○							兼1		
		日本古典文学の基礎	1・2・3・4・2学期	2			○							兼1		
		地誌学	1・2・3・4・2学期	2			○							兼1		
		日本語文化研究の基礎	1・2・3・4・1学期	2			○							兼1		
		歴史研究の基礎	1・2・3・4・1学期	2			○							兼1		
		西洋史研究の基礎	1・2・3・4・1学期	2			○							兼1		
哲学と科学	1・2・3・4・2学期	2			○							兼1				
人間関係論／社会心理学入門	1・2・3・4・1学期	2			○							兼1				
比較文化論入門	1・2・3・4・2学期	2			○							兼3	オムニバス			

教育課程等の概要															
(地域協働学部地域協働学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 基礎科目	日本語表現技法	2・3・4・1学期		2		○								兼2	オムニバス
	生涯教育論	1・2・3・4・2学期		2		○			1						※COC科目
	ファシリテーション演習	1・2・2学期		2			○				1				※指定科目
	企画立案事業計画基礎演習	1・2学期		2			○				1				※指定科目
	非営利組織経営基礎演習	1・2学期		2			○		1						※指定科目
	商品開発基礎演習	1・2・1学期	2				○				1				※指定科目
	社会調査論	1・1学期	2			○				1					※指定科目
	社会調査方法論	1・1学期	2			○				1					※指定科目
	統計解析の基礎	1・2・3・4・2学期	2			○				1					※指定科目
	多変量解析	1・2・3・4・2学期	2			○				1					※指定科目
	質的調査法	1・2・3・4・2学期	2			○					1				※指定科目
	社会調査実習	1・2・3・4・通	2				○							専任補充予定	※指定科目
	憲法I	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	政治学概論	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	法学入門	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	現代の企業行動	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	民法I	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	社会学概論	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	地域経済概説	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	微分・積分学の基礎	1・2・3・4通	2			○									兼1
	物理学の基礎	1・2・3・4通	2			○									兼1
	化学の基礎	1・2・3・4通	2			○									兼2
	生物学の基礎	1・2・3・4通	2			○									兼12
	地球科学の基礎	1・2・3・4通	2			○									兼1
	微分積分学概論AI	1・2・3・4・1学期	2			○									兼2
	微分積分学概論AII	1・2・3・4・2学期	2			○									兼2
	微分積分学概論BI	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	微分積分学概論BII	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	微分積分学概論C	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	線形代数学概論A	1・2・3・4・1学期	2			○									兼2
	線形代数学概論B	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼2
	論理と集合	1・2・3・4・1学期	2			○									兼2
	確率・統計学概論	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	物理学概論I	1・2・3・4・1学期	2			○									兼2
	物理学概論II	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	化学概論I	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼3
	化学概論II	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼2
	生物学概論I	1・2・3・4・1,2学期	2			○									兼3
	生物学概論II	1・2・3・4・2学期	2			○									兼3
	地球科学概論I	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	地球科学概論II	1・2・3・4・2学期	2			○									兼3
	情報科学概論I	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
	情報科学概論II	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1
	基礎物理学実験	1・2・3・4・1,2学期	2					○							兼3
	基礎化学実験	1・2・3・4・1,2学期	2					○							兼7
	基礎生物学実験	1・2・3・4・1,2学期	2					○							兼19
	基礎地学実験	1・2・3・4・1,2学期	2					○							兼21
	海洋生物学基礎実習	1・2・3・4・2学期	2					○							兼4
	環食同源論入門	1・2・3・4・2学期	2			○				1					兼12
	微生物学概論	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1
植物遺伝学概論	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1	
植物生態学概論	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1	
分析化学概論	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1	
生命の科学	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1	
遺伝資源の利用と保全	1・2・3・4・1学期	2			○									兼2	
植物バイオテクノロジー概論	1・2・3・4・2学期	2			○									兼2	

教育課程等の概要																	
(地域協働学部地域協働学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	基礎科目	教育学概論D	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1		
		教育心理学概論B	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1		
		教育心理学概論C	1・2・3・4・2学期	2			○								兼1		
		教育心理学概論D	1・2・3・4・1学期	2			○								兼1		
	小計（79科目）		—	6	146	0		—		3	4	3			兼109		
	キャリア形成支援科目	CBI実習I	2・1学期	2					○	1						集中	
		CBI実習II	2・1学期	2					○	1						集中	
		CBI実習III	2・1学期	2					○	1						集中	
		CBI実習IV	2・1学期	2					○	1						集中	
		CBIキャリア開発講座A	2・1学期	2			○			1						集中	
		CBIキャリア開発講座B	2・1学期	2			○			1						集中	
		CBI自己分析	2・1学期	2				○		1						集中	
		CBI企画立案	1・2学期	2				○		3						兼2 集中	
		キャリアパス演習—プライベートデザイン講座— チームワークを考える	1・2・3・4・2学期 1・2・1学期	2 2				○ ○									兼1 兼1 ※指定科目
		地域政策演習（ふるさと活性ゼミ）	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1	
小計（11科目）		—	0	22	0		—		3					兼4			
日本語	日本語I	1・2・3・4・1学期	2				○								兼1		
	日本語II	1・2・3・4・1学期	2				○								兼1		
	日本語III	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1		
	日本語IV	1・2・3・4・2学期	2				○								兼1		
	小計（4科目）		—	0	8	0		—							兼1		
日本事情	日本事情I	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1		
	日本事情II	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1		
	日本事情III	1・2・3・4・1学期	2			○									兼1		
	日本事情IV	1・2・3・4・2学期	2			○									兼1		
	小計（4科目）		—	0	8	0		—							兼2		
専門科目	総合科目	地域協働論	1・1学期	2			○		9	6	3				オムニバス		
		産業論	1・1学期	2			○			1							
		地域社会学概論	1・1学期	2			○		1								
		地域組織論	1・2学期	2			○		1								
		プロジェクトマネジメント演習	2・2学期	2				○	1	3	1				オムニバス		
		地域協働マネジメント演習I	3・1学期	1				○	9	8	3	1			専任補充予定 共同 集中		
		地域協働マネジメント演習II	3・1学期	1				○	9	8	3	1			専任補充予定 共同 集中		
	小計（7科目）		—	12	0	0		—	9	8	3	1					
	必修科目	演習科目	地域協働研究I	1・通年	4				○	9	7	3	1			専任補充予定 共同	
			地域協働研究II	2・通年	4				○	9	8	3	1			専任補充予定 共同	
			地域協働研究III	3・通年	4				○	9	8	3	1			専任補充予定 共同	
			地域協働実践・卒業研究	4・通年	4				○	9	8	3	1			専任補充予定 共同	
	小計（4科目）		—	16	0	0		—	9	8	3	1					
	実習科目	地域理解実習	1・2学期	4					○	9	7	3	1			専任補充予定 共同 集中	
		地域協働企画立案実習	2・1学期	4					○	9	8	3	1			専任補充予定 共同 集中	
事業企画プロジェクト実習		2・2学期	4					○	9	8	3	1			専任補充予定 共同 集中		
地域協働マネジメント実習		3・1学期	4					○	9	8	3	1			専任補充予定 共同 集中		
教えるプロジェクト実習		3・2学期	4					○	9	8	3	1			専任補充予定 共同 集中		
小計（5科目）		—	20	0	0		—	9	8	3	1						
専門選択科目	組織学習論	2・3・4・1学期	2			○			1								
	地域計画論	2・3・4・1学期	2			○				1							
	非営利組織マネジメント論	2・3・4・1学期	2			○											
	地域資源管理論	2・3・4・2学期	2			○											
	行財政論	2・3・4・2学期	2			○			1								
	会計学概論	2・3・4・2学期	2			○									兼1		
	ナレッジマネジメント論	3・4・1学期	2			○					1						
	社会教育論	3・4・1学期	2			○						1					
起業・経営実務講座	3・4・1学期	2			○						2			共同			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域協働学部地域協働学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	地域協働マ ネジメン ト分野	行政実務講座	3・4・1学期		2		○			1					兼1 兼1 集中 集中
		金融・税務実務講座	3・4・2学期		2		○								
		実践情報処理	3・4・2学期		2		○								
		海外特別演習	3・1学期		2			○			1				
		外国語特別演習	3・1学期		2			○			1				
		小計（14科目）	—	0	28	0	—	—	—	4	2	3	1		兼3
		地域産 業分 野科 目	地域デザイン論	2・3・4・1学期		2		○			1				兼1 兼1 兼1
	フードビジネス論		2・3・4・2学期		2		○								
	六次産業化論		2・3・4・2学期		2		○				1				
	農業振興論		2・3・4・2学期		2		○				1				
	地域産業政策論		2・3・4・2学期		2		○				1				
	食品生化学		3・4・1学期		2		○								
	国際ビジネス展開論		3・4・1学期		2		○			1					
	森林経営学		3・4・1学期		2		○								
地域産業連関論	3・4・2学期			2		○				1					
中心市街地活性化論	3・4・2学期			2		○					1				
国際農林水産物市場論	3・4・2学期		2		○										
	小計（11科目）	—	0	22	0	—	—	—	2	5	1			兼3	
	地域生 活分 野科 目	生涯学習論	2・3・4・1学期		2		○			1				専任補充予定 兼1	
環境社会学		2・3・4・1学期		2		○									
ダンス		2・3・4・1学期		1				○							
地域スポーツ振興論		2・3・4・1学期		2		○			1						
地域スポーツ社会学		2・3・4・2学期		2		○				1					
地域福祉論		2・3・4・2学期		2		○			1						
コミュニティ振興論		2・3・4・2学期		2		○					1				
地域防災論		3・4・1学期		2		○					1				
比較地域社会論		3・4・1学期		2		○				1					
ソーシャルキャピタル論		3・4・2学期		2		○				1					
非営利組織論		3・4・2学期		2		○			1						
環境文化論		3・4・2学期		2		○									
家庭経営学	3・4・2学期		2		○										
	小計（13科目）	—	0	25	0	—	—	—	4	3	2	0		兼3	
合計（309科目）		—	66	553	0	—	—	—	9	8	4	2		兼284	

教 育 課 程 等 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
学位又は称号	学士(地域協働学)	学位又は学科の分野	学際領域
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 共通教育科目 52単位 (1) 初年次科目 12単位 大学基礎論, 学問基礎論, 課題探求実践セミナー, 英会話, 大学英語入門, 情報処理が必修。 (2) 教養科目 22単位 人文分野, 社会分野, 生命・医療分野, 自然分野, 外国語分野の 5分野のうち3分野以上から22単位を修得し, かつ「地域関連科目」 を14単位以上修得する。 (3) 共通専門科目 18単位 共通専門科目基礎科目及びキャリア形成支援科目から18単位を修得。 但し, 18単位のうち地域協働学部指定の科目を10単位以上修得。 (うち, 商品開発基礎演習, 社会調査論, 社会調査方法論は必修。)		1 学年の学期区分	2学期
2. 専門科目 72単位 (1) 専門必修科目 48単位 ①総合科目 12単位 地域協働論, 地域組織論, 産業論, 地域社会学概論, プロジェクトマネジメント演習, 地域協働マネジメント演習 I, 地域協働マネジメント演習 II が必修。 ②演習科目 16単位 地域協働研究 I、地域協働研究 II、地域協働研究 III, 地域協働実践・卒業研究が必修。 ③実習科目 20単位 地域理解実習, 地域協働企画立案実習, 商品開発プロジェクト実習, 地域協働マネジメント実習, 教えるプロジェクト実習が必修。 (2) 専門選択科目 24単位 地域協働マネジメント分野, 地域産業分野, 地域生活分野の3分野 から24単位を修得。実習先ごとに履修科目を指定。		1 学期の授業期間	15週
履修登録上限単位数 44単位 (1学年あたり) 総単位数 124単位		1 時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要					
(地域協働学部地域協働学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
初年次科目	大学基礎論	(③ 池田 啓実・⑤ 受田 浩之・⑦ 大石 達良・⑩ 吉岡 一洋) 協働活動において不可欠なこと（目を見て聴く、質問できる、遅刻をしない、片付ける）や、人としてのマナー（あいさつする、返事をする、お礼を言う、謝ることができる）について確認するとともに、人と向き合う（他者や地域に関心を向ける）意味や協働とは何かを、グループワークを通して考える。1グループ6名（計10グループ）を4名の担当教員が、ファシリテートする。なお、学生間及び専任教員と学生間における密接な人間関係を構築するため4月に学年合宿を実施する。合宿には専任教員全員が出席する。	専任教員による共同方式		
	学問基礎論	地域課題の解決に向けて必要となる3つの要素（地域主体の特性理解、地域資源の活用、組織運営）について考える。また、地域を理解するための基礎となるコミュニケーション力、共感力、関係性理解力、情報収集力、状況把握力は、協働活動においても不可欠であり、グループワークによる実践的なトレーニングを通じてこれらの能力の向上を目指す。1グループ6名（計10グループ）を4名の担当教員がファシリテートする。 (④ 鈴木 啓之) 地域主体の特性理解（行政、非営利組織・集落）、組織運営 (⑩ 石筒 覚) 地域の特性理解（企業）、地域資源の活用 (⑭ 中澤 純治) 地域資源の活用、地域主体の特性理解（企業） (⑰ 今城 逸雄) 地域の特性理解（企業、行政）	専任教員による共同方式		
	課題探求実践セミナー	(① 上田 健作・② 辻田 宏・⑥ 市川 昌広・⑦ 大石 達良・⑩ 吉岡 一洋・⑮ 大槻 知史・⑯ 中村 哲也・⑲ 俣野 秀典) 地域の歴史や文化、資源、経済社会状況、地域が抱える課題などについて、行政機関、企業、地域団体、非営利組織あるいは集落等が行う地域づくり実践活動の見学や活動参加、体験学習などを通じて考える。また、グループワークでは、地域でどのようなことが起きているのか、必要とされることは何かを議論し、課題の本質的な原因について考える。	専任教員による共同方式		
	英会話	自身の持つ英語力を最大限に利用し、コミュニケーションを行って、日常英会話の基礎的能力を修得する。本授業はプレースメントテストを実施し、その結果によって習熟度に応じたクラスを指定する。			
	大学英語入門	基礎的な英語力はもとより、専門教育での学究、国際交流や社会で使える4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）をバランスよく養う。（初級レベル）本授業はプレースメントテストを実施し、その結果によって習熟度に応じたクラスを指定する。			
	情報処理	高等学校で習ってきた情報知識・技能を復習し、さらに高めながら、自前のノート型パソコンを実際に活用した実践力向上を重視する。受講者全員のノート型パソコン持参を前提とした40人程度のクラスを基本にして、講義および実習・演習を融合した授業を実施する。			
	共通教育科目	倫理を考える	現代の格差社会や現代の不安、環境問題などへの理解を深め、現代の格差社会の問題に広く精通し、それを打開するための方策とは何か考察することを目指す。		
		核時代の倫理	原発問題や電力のグリーン化などエネルギー問題に関して広く関心を高め、脱原子力社会の実現に向けて真摯に思索できるようになるために、必要な知識や考え方を身につける。		
		食の哲学	人間の食という営みは社会文化的な営みでもあり、人間の思想や世界観、価値、規範といったものが如実に映し出される。私たちは、自分たちが当たり前としている食の営みを「標準」として考えがちである。自分たちの「食の当たり前」を見つめなおすために文化人類学の知見を参照しながら、自身がフィールドワークを行ってきた東南アジアのラオスをはじめ、アフリカやラテンアメリカといった、「異文化」の食の営みを中心に取上げ、人間の食という営みを手掛りとしながら人間と社会について考える。		
		人文分野	哲学を学ぶ	(授業担当者 41 角 忍) 哲学的な考え方にふれ、人間観と世界観とに関する問題意識を呼び起します。 次の順序で進める。 1. 哲学的な問いはどこから出てくるか？ 2. 西洋哲学一般の特徴としての有神論的世界観 3. 西洋哲学の諸問題	
			哲学を学ぶ	(授業担当者 42 原崎 道彦) ダイエット（私たちを健康にする食生活）の問題が私たちの社会にとって非常にヘヴィーな問題であり、私たちの食に対する意識を変えることを求めている。当授業では、私たちが普通に行っている食事のありかたの根本的な見直しを求める問題提起を行う。また、授業を参考にしながら「プチ・ダイエット・プログラム」を工夫してもらい、それを実行し、その体験をレポートしてもらい、という内容も含まれる。できるとき毎回授業の最後に、からだによくて美味しい食べものの試食を行う。	
哲学	人間の思想的哲学的営みにおいて死生観と宗教はその大きな原動力となってきた。そしてそれらは今日も特に死を前にした人間にとっては問われるものである。そうした人間の次元について概観する。				

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文分野	文化人類学入門	当授業では、文化人類学の基礎を学ぶとともに、概念としての〈文化〉について考える。「文化とは何か?」という定義をめぐる問いではなく、「文化という概念がいかに使われてきたか/使われているか?」という問いを設定する。そしてその問いについて考えることで、文化人類学における〈文化〉という概念の使い方とその歴史的な変化を学びつつ、フィールドワークや全体論、文化相対主義といった文化人類学の基礎についても学んでいく。そして、受講生各自が「文化」という言葉を批判的に使うことができることを目指す。	
	リラクセーションの哲学	リラクセーションは「たんなるリラックス」とは異なるものである。しかるべきメソッドに基づいてなされるリラクセーションは、私たちに深く非日常的な体験へといざなう。体験のその「深さ」こそが、リラクセーションで哲学することを可能とするのである。当授業は、リラクセーション体験を深めながら、その深い体験をもとに哲学しようとする授業である。	
	心理学を学ぶ	(授業担当者 153 日比野 桂) 心理学における基礎的な観点と知識を習得し、日常生活における人間の行動や判断が心理学でどのように説明されるかを理解する。	
	心理学を学ぶ	(授業担当者 44 池田 和夫) 心理学の諸領域の基礎的な知見を理解し、人間に対する新たな視点を獲得。 心理学の歴史および研究方法を知る。 心理学の基礎的な事項を理解する。 人間に対する多元的な視点を身につける。	
	対人コミュニケーション論を学ぶ	対人コミュニケーションについて、心理学(特に社会心理学)を中心に、社会学・言語学・文学などの人文社会科学を絡めた学際的なアプローチで、「人と人との間に伝えること・伝わること」のメカニズムを考える。また、日常生活や様々な職業の現場でこれらのメカニズムがどのように応用されているのかを検討する。	
	Psychology for beginners	日本語アクセントでもなんでも英語でのコミュニケーションを恐れない。また、科学的な心理学がどのようなものなのか理解し、それに関する先入観を修正する。 授業は、「模擬の」アメリカスタイルをとり、簡単な英語のディスカッションをすることができることを目指す。	
	総合恋愛学実践セミナー準備講座	高知県庁の少子対策課が実施している婚活支援事業のパンフレットに示された通り:「高知で恋しよ」である。「婚活」をキーワードに人文や社会科学の諸学問分野の特性を理解し、「婚活」をめぐる地域社会の問題を理解するための様々な観点を学び、実践的に考察する。また、「男女の恋愛・結婚」を考えることを通して、課題探究セミナーで、得られるのと同様のスキル(リサーチ&プレゼンテーション)を身につける。	
	地理学を学ぶ	(授業担当者 155 後藤 拓也) 日本の地域性がどのようなプロセスを経て変化したのかを具体的事例を用いて解説し、地域性の変化を理解するための思考法である「地理的思考」についても解説する。また、解説した「地理的思考」にもとづいて、グループワークで日本の地域性について調査報告してもらおう。	
	地理学を学ぶ	(授業担当者 262 遠藤 尚) モンsoonアジアにおける食と風土に関する地理学的な研究事例を学ぶことを通して、地域事象の地理学的な見方を身につけることを目標とする。	
	歴史を考える	戦国末期の四国の諸勢力と織豊政権との相互関係をふまえて、当該期の政治史に関する先行研究および史料を説明する。また、小牧・長久手の戦いに際して結ばれた長宗我部一織田・徳川同盟の意義に注目し、戦国末期の四国の政治史とくに土佐の大名長宗我部氏による四国統合の状況と織豊政権との関係について解説する。	
	映画を通して考える中国近世・近現代史の諸問題	映画作品を鑑賞し、その中から近世・近代といった現代中国(中華人民共和国や台湾)の都市、農村の実情を具体的に理解し、都市や農村社会の人的関係にみえる伝統的側面を理解する。	
風景と空間の科学	地理学の重要概念である環境、空間、景観、地域イメージなどの基本的な地理学概念について理解し、論理的に世界を見る態度を身につける。また、専門用語を駆使して自分の理論をつくることができる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 人文分野	土佐の自由民権運動	明治維新と明治国家の立上げから、憲法制定・国会開設まで土佐を中心に見ていく。	
		基礎から学ぶ日本近代史	日本近代史に関する基本的な書籍である 由井正臣『日本の歴史8 大日本帝国の時代』を精読することにより、日本近代史の基礎的な流れを正確に把握する。	
		「名場面」から読み解く中国古代史	中国古代史には、たとえば「蛇足」や「漁夫の利」、あるいは「鼎の軽重を問う」など、故事成語にもなるような「名場面」がふんだんに見られる。当授業では、それらを紹介しながら、その背景にあるこの時代の社会や制度、史料などといった様々な問題を紹介し、中国古代史研究の魅力について伝えてゆく。	
		空想の博物学	人文科学の基本概念（抽象的な概念）を理解し、人文科学の軽い作文、「読ませる」文章を書けるようになることを目指す。	
		文学を考える	（授業担当者 157 田鎖 数馬） 芥川龍之介の個々の作品を丁寧に読み解く。 芥川龍之介の初期から晩年までの思想や芸術観を解説する。	
		文学を考える	（授業担当者 49 福島 尚） 日本古典文学作品の中から説話をとりあげ、古典文法の教材や現代語訳の対象としてではなく、文学作品として、その内容・表現を味読する。	
		日本語の世界一五十音図をめぐって	仮名の一覧表である五十音図は、国語の基本中の基本として学校教育の最初に教わり、おそらく多くの人は特別な意識や疑問も無く、当然のものとして使用していると思われる。この五十音図を改めて見つめ直し、五十音図をめぐる諸種の話や問題点を提示して、日本語とその歴史に対する認識を深める。	
		四国方言	四国方言のおもしろさを5つの新しい視点から、具体例に基づきながら理解する。言語の変化について知り、方言への理解を深める。また、よりよき地方人をめざし、四国についての知識を身につけることを目標とする。	
		外国文学	近代ヨーロッパの小説やアメリカの作家について、中国文学、イギリスの劇文学、英独のパラードなど様々な国の様々なジャンルの文学作品を読み、考えていく。 (オムニバス方式/全15回) (68 斎藤 昌人/3回) 近代ヨーロッパの小説を何点か取り上げ、その中で感情がどのように表現されているかを検証していく。 (64 上岡 克己/3回) アメリカの作家ヘンリー・デイヴィッド・ソロー (1817-62) の生涯と作品を概説する。適宜資料を配布する。 (70 高橋 俊/3回) 【中国文学】中国の現代の小説を読む。 (65 山下 興作/3回) 【劇文学 (イギリス)】シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を扱う。 (173 持尾 伸二/3回) 【英独のパラードについて】—『スカボロー・フェア』と『魔王』の世界 —1)パラードとは何か、2)イギリスのパラード、3)ドイツのパラード	オムニバス方式
		桃太郎の表現史	各地域の「桃太郎」を中心に文学作品がその時代によって様々な解釈・創造されている実情を知り、表現生成の歴史について関心をもつ。	
日本語の探究	留学生からみた日本語をテーマに書かれたエッセイをもとに、日本語のトピックを扱う。また、自分自身で日本語の事象をみつけ、考察し、マンガで表現する。			
文学と社会	この授業は文学作品ばかりを取り上げて、それらについてテーマを論じたり感想を述べ合ったりする授業ではない。文学作品やその他のさまざまなテキストを分析する考え方を学び、それを通して現実をよりよく理解し、一見難解である対処する方法を身につけることをめざす。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文分野	彫刻の魅力	授業の前半では、彫刻の基礎的知識を座学および実技で習得する。後半では、彫刻の魅力について、プレゼンテーションを各自が行うための資料収集等を行う。	
	グラフィックデザイン入門	グラフィックデザインのベースとなる表現方法を理解し、デザイン作品の仕上げ方と表現における計画的活動を習得する。グラフィックデザイン分野から美術・工芸といった関連分野も体系的に表現に活かしていく。デザインする前に課題解決の方法や道筋を考えることも重要視する。地元企業や地場産業からのデザインの要請表現に対応していく。また、美術館や博物館とアート・デザイン系のワークショップのプロジェクトに参加することもある。材料は表現するテーマに応じて変更されるマーカー、ペン、水彩、色鉛筆、スプレー、ペンキ、木材、和紙等、様々な素材を使用する。	
	音楽解剖学入門	私たちが普段耳にする音楽は、どのように作られているのか。「音楽」とは何なのか。また、どのような時に「音楽」を意識するのか。作品の背景を探り、メロディやハーモニーなどの身近な素材はもとより、「詩」「絵画」といった他芸術、「身体」「数」など様々なイメージとの関わりからも多面的に音楽を解剖し、その秘密を解き明かしていく。西洋音楽をベースとするが、日本の音楽、多様な現代の音楽等も取扱い音楽を深く知ると共に、そこから広い視野と洞察力、分析力を養うことを目的とする。	
	マスメディアと音楽	20世紀において、音楽とマスメディアが相互に発展してきた歴史を振り返る。また、複製技術や録音テクノロジーの発達とともに、人々の音楽の聴取方法が変化してきた要因に着目し、テレビやラジオ、CMなどとのタイアップによりヒット曲を生み出すシステムについて探る。	
	ピアノ連弾をしよう	ピアノで連弾することにより、互いのパートを理解し、アンサンブルを楽しめるようにする。	
	デッサンの世界	デッサンの基礎から応用までを体験する。対象を凝視し、形態の構造等を理解した上で、それを平面に的確に描写していけるようになり、観察力、判断力、表現力を養成する。巨匠が描いた素描の模写も行う。	
	近代美術への接近	美術作品に接近することとは、それぞれの作品世界を身近に引き寄せながら自分自身の心の丈をありのままに重ね合わせ、そして共感しようとするいわば出会いの『試み』であり、それは意味のある体験となる。当授業では、国内の美術館コレクションのうち、西洋の近代絵画を中心に、少し足を伸ばせば実際に観ることができる巨匠の作品を幾つか紹介し、それらに関連する事柄についても取り上げながら美術の世界に接する端緒とする。	
	文化財保存科学概論	文化財保存科学とは、文化財の保存に寄与することを目的とし、人文的知識と自然科学的知識を持って学ぶ学際領域の学問である。文化財保護法が定義する文化財資料について、美術史や美学の解説および、伝承されてきた歴史的背景や文化財資料の伝統的な制作技術の解説により、伝統技術と文化財の関わりを理解する。また、基礎的な物理や化学の知識に則り、文化財を物質として捉えた具体的な保存方法や文化財資料の科学的な調査研究について具体的な例を用いて解説し、文化財資料の調査研究法を理解するといった文化財保存の理論的基盤を作ることが授業の目標である。	
	スポーツ科学実技（ゴルフ）	わが国の高度経済成長とともにゴルフブームが到来し、ゴルフは「生涯スポーツ」の代表の一つとして位置付けられる。当授業では、ゴルフの基礎知識、基本技術、エチケット・マナー等の習得を目的とする。	
	スポーツ科学実技（バレーボール）	バレーボールの知識、技能、態度などの基礎的技術の習得とチームプレーを理解し、実践することを目指す。	
	スポーツ科学実技（フィットネス）	健康づくりのための運動に関する基礎理論を学び、フィットネスプログラムを実践する。また、トレーニングプログラムを作成し、理論と実践を獲得することで、科学的根拠に基づく生涯スポーツの実践に結び付ける。	
	スポーツ科学実技（一から学べる筋力トレーニング）	筋力の維持・増強はスポーツ活動のみならず健康生活を営む上で極めて重要である。本授業では筋力トレーニングの理論と実践について初歩から学ぶとともに、目的に応じたトレーニング計画を立案する能力を身に付けることをねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文分野	スポーツ科学実技（剣道）	剣道の精神と特性を理解し、剣道の基本技術を習得することで、剣道の所作を正しく身につけることを目指す。	
	スポーツ科学実技（バスケットボール）	バスケットボールの知識や基礎技能の修得をはかり、チームプレーを理解し、実践することができることを目指す。	
	スポーツ科学実技（硬式テニス）	健康で、スポーツを楽しむことができるようになることを目的とし、硬式テニスを楽しむことができるようになることを目標とする。基本的な技能を習得し、ゲームを楽しむ能力を身につける。また授業全体を通して、仲間との交流、協力、安全性についても積極的に活動できるようにする。	
	スポーツ科学実技（バドミントン）	健康で、スポーツを楽しむことができるようになることを目的とし、バドミントンのシングル、ダブルスの楽しさを味わうことができることを目標とする。基本的な技能を習得し、ゲームを楽しむ能力を身につける。また授業全体を通して、仲間との交流、協力、安全性についても積極的に活動できるようにする。	
	スポーツ科学実技（スキー・スノーボード）	スキー・スノーボードにおいて、「滑れる」「曲がれる」「止まれる」から、「長く滑れる」「上手く滑れる」へとレベルアップをはかる。 (54 神家 一成・162 矢野 宏光/30回) (共同) ①オリエンテーション、用具の着脱法、初歩動作（基本姿勢、方向変換、平地移動、登行）②基礎技能（スケータリング、制動、木の葉落とし、リフト乗降）/基礎技術（ドリフターン）③基礎技術を活用して、多様な斜面を滑降する。④総合滑降（斜面の状況に応じてターンをコントロールする）	共同方式
共通教育科目 教養科目	社会起業論	地域や社会の抱える複雑で多様化した課題解決の新たな担い手として社会起業家、社会的企業が国内外で注目を浴びている。 講義では、社会起業家及び社会的企業について、経営学をベースに、歴史的背景や基礎的諸概念、マネジメントやビジネスモデルの特性について学ぶ。特に、高知県内及び全国の実践事例の詳細な分析を通じて、地域で果たすべき役割や存在意義、多様な主体とのパートナーシップの重要性を理解するとともに、自分事として社会課題の発掘とその解決へ向けた具体的なアクションプランを各自がイメージ、構築できるようになることを目指す。	
	食と農の経済学	農業は、食料生産に加え、健康、環境保全、あるいは循環型社会を推進するための役割を担っている。農産物の安全、安心が叫ばれ、農業・農村の有する多面的価値の評価が高まる中で、農業者には、農業・農村に対する意識や価値観の変革、消費者・都市生活者との新たな関わり方を模索するための経営戦略が求められている。講義では、食と農を経済学的に見る理論的な考え方を紹介すると同時に、高知県内の先進的な取り組みを紹介し、農業経営/農業者が、食、環境、地域社会とどのような「関わり」を築こうとしているのかについて解説する。	
	まちづくり論	まちづくりは、地域の人々の暮らしや環境などをより良く快適にするべく、多様な人々が関わり実には様々な形態で行われている。一方、その恩恵を受けながらも意識することなく生活している人が多く、社会の多面性に目を向け、課題に能動的にアプローチする意識転換が求められる。授業では高知市中心商店街でのまちづくりを中心に、人と人がつながる力やアイデアから生まれた活動事例などを通して、現在の社会が抱える諸問題を、地域で暮らす一員としての視点から考察を深めていく。	
	社会的経営論	ビジネス(business)は、営利事業だけを指すものではなく、すべての組織が事業を継続的に展開するうえで必要となる行為である。本講義では、ビジネスを広く捉えることで、その経営形態が営利であれ非営利であれ、事業活動とは社会的課題解決を担う活動であるという本質的な意味を理解する。具体的には、近年成長しつつあるソーシャルビジネスや非営利事業、身近な食品の安全とビジネスの問題を取り上げる。これによって、市民として、また将来の職業人としての教養を磨くことを目的としている。 (オムニバス方式/全15回) ①(①上田健作・⑬霜浦森平・⑳須藤順/1回) (共同) 授業のオリエンテーション ②(⑳須藤順/5回) 地域におけるソーシャルビジネスの現状及びその社会的意義について検討する。具体的には、事業、企業、経営という基礎的な概念を踏まえ、社会的活動を行う様々な組織体(株式会社、NPO法人、組合等)について学び、事業経営と社会的課題解決の関係性についてグループワークを通じて考えていく。 ③(①上田健作/4回) 高知県及び米国の病院事業を事例としてコミュニティ病院の機能を担うための病院経営に関する講義を行い、その内容に基づいて事業経営と社会的課題解決の関係性についてグループワークを通じて考えていく。 ④(⑬霜浦森平/4回) 食品の安全に関する問題状況及び消費者の意識及び行動に関する講義を行い、その内容に基づいて食品分野のビジネスの問題をグループワークを通じて考えていく。 ⑤(①上田健作・⑬霜浦森平・⑳須藤順/1回) (共同) グループワークによって授業全体の振り返りを行い事業経営と社会的課題解決の関係性について考えをまとめる	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教養 科目	社会 分野	スポーツ 文化論	現代社会において、スポーツは多くの人々にとって極めて身近なものとなっている。本講義では、その中でも特に学生にとって身近な存在である、メディアスポーツと学生スポーツを取り上げる。メディアとスポーツとの関係、メディアスポーツの問題点、学生スポーツの歴史的展開、運動部内での体罰・しごきなどについて、歴史的・社会的な知識や考え方を身につけるとともに、それをもとにして自己のスポーツ体験について考察することが、本講義の目的である。
			国際関係 を考える	パレスチナとイスラエルの動向を踏まえ諸問題について講義する。パレスチナ問題の歴史・現状について理解し、その将来を展望する。また1993年9月に調印された「中東包括和平合意」の意義と限界について理解し、中東平和の実現可能性について考えていく。
			政治を考 える	(授業担当者 276 根小田 渡) 当授業では、主に第二次世界大戦後の東アジアの国際政治の歴史と現状をふまえ、これからの日本外交のあり方について考えてみる。
			政治を考 える	(授業担当者 146 上神 貴佳) 政治学へのイントロダクションをテーマとして、初学者向けの実証的な政治学を理解する。「政治学概論」は、政治学を支える思想的側面をも扱う基礎レベルの講義であるのに対して、「政治を考える」は、日本政治を主な題材とする入門レベルの実証的な政治学の講義となる。
			社会学を 学ぶ	(授業担当者 147 肖 紅燕) 当時間では、チベットの最大都市ラサでの社会調査を通して、チベット高原に生きる人々の暮らしへの理解を深めることが目的である。主としてチベット族の社会と文化に焦点をあてて、その独自の社会制度の変遷について考えたい。なお、内容理解のため、映像資料も併用する。
			社会学を 学ぶ	(授業担当者 ⑨ 玉里 恵美子) 社会学の基礎的な考え方を習得した後、家族社会学や農村社会学の基礎概念を学ぶ。また、過疎化・高齢化の諸問題について理解し、限界集落の地域課題を考察する。最後に、「地域」に期待が集まる要因について理解する。 〈1〉社会学とは何か／〈2〉社会学史／〈3〉社会学の方法（社会調査）／〈4〉家族社会学の視点／〈5〉振り返り／〈6〉農村社会学の基礎①農村社会の基本構造／〈7〉農村社会学の基礎②農村社会の基本組織／〈8〉地方の過疎化・高齢化／〈9〉高知県の過疎化／〈10〉過疎化に伴う福祉問題／〈11〉振り返り／〈12〉農村活性化／〈13〉農村ジェンダー／〈14〉地域社会と大学との協働／〈15〉「地域」への期待／〈16〉期末試験
			法を学ぶ	(授業担当者 148 緒方 賢一) 民法親族・相続法の概要を理解し、現代の家族が抱える問題について法的な面から検討し、法と社会、家族の相互作用について考える。
			法を学ぶ	(授業担当者 231 赤間 聡) 法律学は2000年以上の歴史を誇るが、これは特に民法について言えることである。法律学の基礎は民法にあり、これを知らず、憲法、刑法、行政法などを勉強してもあまり意味がない。私法をしっかりと理解し、公法も勉強する。
			憲法を学 ぶ	(授業担当者 232 岡田 健一郎) 社会人として最低限必要な憲法の基礎知識を習得し、憲法が政治・経済・社会とどのように関わっているのかを理解する。また、憲法という尺度から社会問題を考えてみる。
			憲法を学 ぶ	(授業担当者 32 藤本 富一) 憲法の基礎知識（日本の憲法史を中心に） 日本の憲法史に多くの時間を割いている。その理由は専門科目として教育学部で開講している憲法（日本国憲法の内容）と違いを持たせて、より広範に憲法を講義したいという考えと、現在の改憲問題その他の憲法問題には日本国憲法の制定過程が大きな影響を及ぼしているという考えからである。社会の様々な事象を憲法に結びつけて考えるようになることを目標とする。
企業経営 を考える	(授業担当者 33 伊丹 清) 世界と日本の経済状況を理解した上で、流通業における優良企業のビジネスモデルについて理解する。			
企業経営 を考える	(授業担当者 34 山内 高太郎) 企業経営を考える上で重要な要素として、ヒト、モノ、カネがある。本講義では、主にカネの視点から企業経営を考える。 カネの計算、記録のために用いられる複式簿記の基礎について理解を深め、企業活動の結果を表す財務諸表を読み解く力をつけられるようにする。その上で、企業経営における利益やコストの重要性について考えとともに、これらの要因が企業活動に及ぼす影響と企業活動が引き起こす社会的な問題について理解を深める。			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 教養科目	社会分野	男女共同参画社会について、日本社会の現実的課題を通じ、人文社会科学の多様な観点から学ぶ。 ・性別をはじめ、あらゆる多様性への理解を深め、視野を広げる。 ・共生社会に向け、課題を見出し解決について考える。 (オムニバス方式/全15回) (35 中川 香代/10回) オリエンテーションを兼ねて男女共同参画社会の概要を解説。「男女共同参画社会の歴史を考える」/「地理学からみた男女共同参画」/「男女共同参画社会と労働法」/「高知県における男女共同参画」/人文社会科学分野の学内講師による男女共同参画に関する講義を実施 (92 岩佐 和幸/1回) 「育児の視点から見た男女共同参画」 (24 森田 美佐/1回) 「家族の視点からみた男女共同参画」 (32 藤本 富一/1回) 「法律の視点からみた男女共同参画」 (260 廣瀬 淳一/1回) 「大学における男女共同参画」 (273 小島 優子/1回) 「生活の中の男女共同参画」	オムニバス方式	
		企業と労働を考える	企業経営を考える上で重要な要素として、ヒト（人的資源）、モノ（物的資源）、カネ（金銭的資源）という3つの経営資源がある。 本講義では、主にヒトの視点から企業経営を考える。そして、「企業で働くこと」について、より広い視野で、現実をとらえ、社会的に考える力をつける。 1. 企業の人事労務管理についての基本を学ぶ 2. 労働市場と労働についての現状を学ぶ 3. 「働くこと」に関する社会的視点を養う	
		経済を考える	(授業担当者 149 霜田 博史) 日本経済をとりまく課題について、いくつかのトピックを取り上げて考察を進めていく。なお、別に取り上げるべき新しいテーマの必要性が出てきたときには、トピックを変更することもありうる。 ・経済学の基本的な用語について整理していきながら、日本経済が抱える問題について検討していく。 ・経済成長とはどのようなものか、ヒト・モノ・カネが簡単に国境を越えるようになってきているグローバル化の問題などを取り上げ、それらが生む問題と新たな発展の可能性について考えていく。	
		経済を考える	(授業担当者 233 新井 泰弘) 本講義では、ミクロ経済学と呼ばれる学問分野の導入を行う。ミクロ経済学の基本概念である需要曲線と供給曲線を用いて様々なトピックを分析する。	
		女性とライフコース	「女性の社会進出が進んだ」「いろんな分野で活躍する女性が進んだ」等の言葉を耳にするが、本当にそうだろうか。女性の生き方(ライフコース)は、確かに数世代前と比べると変化した。しかし女性の暮らしや生き方を丁寧に見ると全く変わらない部分も多く、そのことで、女性がイキイキと暮らすことが困難になる場合もある。そのような状況に陥らないために、学生自身が知っておくべきこと・考えておくべきことは何か。本授業はジェンダー・社会科学・生活科学の視点からこの問題に向き合う。	
		子どもの発達と生活	人間は様々な能力を持って生まれてくる。それら能力が、生活の中で環境との相互作用を通じ、どのように発達していくかを学ぶ。さらに、発達障害を取り上げながら、その特性と教育的関わり的重要性について学ぶ。	
		魚食文化で世界を見る	世界有数の魚食の民である日本人として、普段食べている魚がどこから来るのか、ローカルな消費とグローバルな消費がどのようにつながっているのかを学ぶ。また、水産業が環境問題や国際問題とも密接に関わっていることを理解し、広い視野で物事を見る目を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 社会分野	社会調査データの分析	<p>基本的な資料とデータの分析に関する解説をふまえたうえで、演習により基礎的な力をつける。官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を身に付けることができる。具体的には、単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、計算方法などについて学ぶ。また相関係数などの基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、疑似相関関係についても理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (9) 玉里 恵美子/6回 <1>～<2>記述統計データの読み方①単純集計/<3>～<5>記述統計データの読み方②度数分布、代表値、ばらつき/<6>質的データの読み方 (10) 石筒 寛/5回 <7>～<9>記述統計データの読み方③クロス集計/<10>記述統計データの読み方④相関係数、疑似相関/<11>高知県に関するデータを統計処理する (15) 大槻 知史/5回 <12>グラフの読み方/<13>～<15>パソコンで統計処理/<16>期末試験</p>	オムニバス方式
	森との共生を探る	<p>本講義では、森と人がどのように共生すべきかをテーマとする。日本の森林率は約7割である。森と人はどのような関係をもってきたのか、いま何が問題となっているのか、そして、これから何をすればいいのかを考える。授業で取り上げるフィールドは、森林率日本一の高知県の山である。高知県の森は荒廃林や過疎化、高齢化、そして限界集落といった日本でもっとも深刻な問題を抱えている。このフィールドとじっくり向き合うことで、森とどう共生すべきかの長期的なビジョンをいろいろな視点から一緒に考えていく。</p>	
	市民生活と法	<p>本授業は、我々の生活と密接に関係する「契約」を中心に講義を行う。普段何気なく行っていること（例えば、パンを買ってお金を払う）を、法的な視点から考察し、基本的な制度を理解することにより、最終的には法的なものの考え方を身につけていく。</p>	
	平和と軍縮	<p>本授業では、現在の世界情勢の動向を把握し、平和構築のあり方について認識を深めていくことと同時に、受講者自身が今日の平和構築の「当事者」として、自ら問題解決に向けて主体的に探求し、実践的に取り組んでいくようになることがテーマである。リレー講義・フィールドワークと、グループワーク・プレゼンテーションをミックスした形式で編成。これらのプロセスを通じて、現在のグローバル社会の現実と問題点を冷静に分析し、国際的平和維持システム構築の方向性を議論していくことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (9 2 岩佐 和幸/10回) <1>オリエンテーション+グループ形成/<3>グローバル化・新自由主義と社会的危機/<4>「惨事便乗型資本主義」と暴力：映画『ショックドクトリン』を観る/<6>「アジア太平洋戦争」と人々の戦争体験/<10>プレゼンに向けたグループワーク&資料調査法について/<11>プレゼンに向けたグループワーク/<12>プレゼンテーション1/<13>プレゼンテーション2/<14>プレゼンテーション3/<15>プレゼンテーション4 (2 7 6 根小田 渡/1回) <2>オバマ政権の「アジア重視戦略」を読み違える日本政府 (1 8 7 中西 三紀/1回) <5>軍事独裁政権と民衆にむけられる暴力 (2 3 2 岡田 健一郎/1回) <7>憲法9条と平和の構想力 (2 9 4 岡村 正弘/2回) <8>足下から平和を構築する/<9>足下から平和を構築する</p>	オムニバス方式
	日本の刑事司法を考える	<p>刑事司法に関する入門的な文献の講読を行う。全員が報告を担当できるよう、授業を組む。併せて、映像資料等を用いて、刑事司法への関心を深める。また、受講生の希望があれば、裁判傍聴を行うこともある。授業には主体的に取り組み、徐々にでも自分の意見を表明できるようになることを目標に取り組み。</p>	
メディア社会論	<p>現代はメディア社会ともいえるように、コミュニケーションや行政手続き、買い物といった社会的相互作用までもがコンピュータを通して行われるケースが増えている。当講義では、現代人の日常生活に浸透するメディアの存在・役割・影響について、デジタルメディアを中心に考えてゆく。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 社会分野	英語レクチャー (Culture and Society)	テーマに基づき、文化や社会の様々な観点から講義する。主な目的として、英語で講義を行うことにより、日本人学生に西洋の講義形式を経験させ、海外留学を考えている学生が準備できるということを組み込んでいる。当講義は、学生の理解を助けるため、コンピューターを利用した画像なども使用する。これらの主要なテーマに加え、国内外のジェンダーの問題を意識的、批判的に考えるようになることも、このコースの目的である。	
	環境社会論入門	環境問題を産業革命以来の近代社会の所産ととらえ、前近代社会から近代社会への社会変動の視点から分析することで、近代社会の特徴を明確に知ることを目的とする。その過程で、客観的なデータの収集と分析、それに基づいた論理的かつ批判的な思考、それらを適切に表現するための表現手法などについて、グループ・ディスカッションを中心としたワークの中で学んでいく。	
	消費者問題と法	消費者問題を通して法を学び、消費者トラブルの解決法を考える。	
	現代日本の社会と政治	高度経済成長が本格化する1960年代以降の日本政治の展開を、経済的・社会的変動と関連させながら振り返り、21世紀の日本の政治がどこに向かおうとしているのかを考えていく。	
	福島原発事故を考える	福島第一原子力発電所事故の影響は広範囲に及び、直接的に様々な被害を生じさせただけでなく、現代社会が抱える様々な問題を顕在化させた。「事故」は事故そのものを中核とする、現代日本最大の「社会問題」として把握することができる。 本講義の基本的な目的は、受講生に「事故」についての基礎的な情報を提供し、「事故」がはらむ様々な問題について考えてもらうことである。 (オムニバス方式/全15回) (156 小幡 尚/8回) <1>ガイダンス/<2>福島第一原子力発電所事故に関する文献の案内/<3>鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「内部被ばくを生き抜く」(2012)を鑑賞する。/<4>ゲストスピーカーをむかえ、「福島原発事故の記憶」「福島の現状」について語ってもらう。/<7>原子力の原理と歴史から福島原発事故を考える/<8>原子力の経済性から、福島原発事故を考える/<14>ドイツ脱原発の背景/<15>講義全体を総括するシンポジウム (230 松島 朝秀/1回) <5>放射能の基礎知識・事故と文化財 (93 遠藤 広光/1回) <6>福島原発事故で放出された放射性物質が環境や生物へ及ぼす影響。河川や海洋の汚染について、魚類の生活史を中心に紹介する予定。 (42 原崎 道彦/1回) <9>民主主義社会における責任の論理と福島原発事故 (40 武藤 整司/1回) <10>原発と倫理 (231 赤間 聡/1回) <11>(1) 原発規制のあり方、フクシマbefore and after. (2) 原発訴訟では何が争われているのか、(3) 伊方原発訴訟ともんじゅ訴訟 (4) 原発の安全性をめぐる工学論理と法律論理の違い (5) ドイツの原発訴訟、アメリカの原発訴訟。 (232 岡田 健一郎/1回) <12>原発事故被害者への補償 (92 岩佐 和幸/1回) <13>原発の政治経済学	オムニバス方式
	大学政策論入門	大学の役割や機能、制度などの概要を概観し、大学政策に関わる諸問題を考察することを通じて、現在の大学制度の全体像を理解することをねらいとする。	
	非営利法人経営論入門	近年、非営利法人の社会的役割が見直され、その存在意義や経営が重視されるようになった。本講義では、非営利法人の機能を整理したうえで、各非営利法人の制度や経営環境についての概要説明を行う。さらに、非営利法人の経営に関する諸問題についても論じる。	
サービスラーニング演習	当授業では、「自分で考えて行動する力」「前向きに行動する力」「チームワーク力」「他者に対する共感力」などの能力の向上を目指す。これらの資質は、社会で活躍するために最も求められているものでもある。授業は、受講生5名程度でチームを編成し、少人数演習活動を中心に行う。演習では、マナーや基礎トレーニングのほか、中山間地域が抱える課題について考える。実習先は、高知県内の中山間地域で、スポーツや健康に関心を持っている団体になる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	社会分野	中山間地域の生活と環境I 高知県の中山間地域およびそれに関連する地域をフィールドとし、地域再生または地域防災をメインテーマとして、そこでの生活様式やそれを取り巻く社会状況について理解し、それらと環境とのかかわりを考えることを授業の目的とする。あわせて留学生を交えて地域再生・地域防災に関する議論を継続的に実施することで、関連授業である中山間地域の生活と環境IIによる海外派遣時に、現地教員、学生、地域住民との議論の中から、わが国との違いを比較分析するためのコミュニケーション能力を身につける。
			中山間地域の生活と環境II 高知県の中山間地域およびそれに関連する地域と比較対象となるタイ、イタリアの地域をフィールドとし、地域再生または地域防災をメインテーマとして、生活様式やそれを取り巻く社会状況について比較分析するとともに、それらと環境とのかかわりを考えることを授業の目的とする。また、授業の一環として、タイ、イタリアから地域再生・地域防災を学ぶ短期留学生を支援すると共に、短期留学生と合同で高知の中山間地域の防災と地域再生に関する調査やサービラーニングを行う。
			地域協働企画立案 地域への理解を深めるとともに、「自分で考え前向きに行動する力」「チームで協力して取り組む力」「他者に対する共感力」などの能力の向上を目指す。これらの資質は、社会で活躍するために最も求められているものでもある。 実習（サービラーニング）は休日を利用して行い、高知県内でより良い社会づくりのために活動している地域や団体などとなる。取り組む姿勢と気づきが、授業の成否のカギとなる。
			地域協働実習I 休日を利用して高知県内の地域・団体で実習（サービラーニング）を行う。実習を通して地域や団体が抱える課題を発見し、解決のための企画をグループで考える。「状況分析力」、「課題探求力」、「発想力」、「組織・社会への貢献力」などの能力の育成を目指す。グループで協力してアイデアを行動に移すことが求められる。
			地域協働自己分析 地域協働実習Iで企画したことの実践を通して、「事業計画力」、「実行力」、「評価改善能力」などの「マネジメント力」の育成を目指す。社会での成果や失敗の経験から学んだことを自己分析し発表してもらう。実習は休日を利用して行う。実習先での企画実施のための準備やプレゼンテーションは、基本的に実習時間外に行う。
			社会協働実践 高知県内での地域や団体での長期の実践活動を通して、他者と協働しリーダーシップを持って取り組む姿勢を育成する。課題解決に向けた「マネジメント力」、「コミュニケーション力」、「行動持続力」の能力形成・向上を目指す。 休日を利用して実習先での滞在を行う場合がある。
			協働実践自己分析 これまで培ってきた能力や知識・技法等を活かし、地域の課題解決を目指すワークショップ等を設計し実施することで、「ファシリテーション力」「プレゼンテーション力」「組織運営力」の向上を目指す。 協働実践した活動を様々な角度から振り返るとともに、活動成果が自分自身にとり、どのような意味があるのかを内面化する。
			ソーシャルキャピタル論入門 高齢化や過疎化が進展し、南海大地震による甚大な被害が想定されている高知県では、日常生活に限らず、災害時においても、住民自身による「公助」が重要となり、「公助」を担保するためには、多様な住民間の多様なつながり（ソーシャルキャピタル）が必要となる。ソーシャルキャピタルの重要性を理解した上で、高知各地でソーシャルキャピタル醸成の担い手となるための機会や、住民間のつながり・学生と住民とのつながりには、学生が地域と積極的に協働することが有効であること、学生が地域から信頼・受容され、協働するためには、地域を共感的に理解することが必要であることを知る機会を提供する。
			地域の中で武道を育てる 武道の歴史や精神など武道の目的を明確に理解し、児童・生徒を対象とした剣道授業プログラムを作成することができる。また、剣道指導の実践を行い、児童・生徒とのコミュニケーションを学習し、技術の習得を目指す。
			スポーツ科学講義A 生涯スポーツと健康スポーツについて理解し、実践するための個人的・社会的条件について考える。 生涯を通じて楽しみながら実施し、健康や生きがいにつながる運動やスポーツの条件（個人的条件と社会的条件）や留意点を検討する。
			スポーツ科学講義B スポーツに関わる事象やスポーツ科学の研究成果について理解し、様々な視点からスポーツを捉え、スポーツ観を豊かにする。
			スポーツ科学講義C 基本的なテーマは、日本の三大プロスポーツである野球、サッカー、大相撲などの高度化スポーツの制度や組織、光と影、そして現在と未来。それぞれ異なるプレイスタイルや歴史を持っている三大プロスポーツを題材として、今日のプロスポーツビジネスやプロスポーツ選手が抱える問題点や課題を掘り下げる。
スポーツ科学講義D スポーツや健康に関心をもち、スポーツの語源や定義、歴史などからトレーニング方法まで、理解を深める。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	生命・医療分野 教養科目	<p>健康問題の現状を正しく理解し、生活に活かしていけるようになることを目指す。健康や運動に関する知識を理解する。自らの健康を保持増進するための知識の理解や自己の体力、健康の保持増進につながる行動は何かを判断する。</p> <p>自己の体力や運動能力や自らの健康、他者の健康や健やかで活力のある社会に関心を持つ。そして、生涯にわたって健康的な生活を営む態度や健康に関する様々な情報を読み解き、自らの体力向上や健康増進に役立てる能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (266 幸 篤武/8回) <1>オリエンテーション・健康生活チェックリスト/<2>運動と健康①運動不足の実態/<3>運動と健康②運動の健康に及ぼす効果Ⅰ/<4>運動と健康③運動の健康に及ぼす効果Ⅱ/<5>ストレスと健康/<6>うつ/<7>生活習慣病と運動/<8>運動と加齢 (255 小松 輝子/1回) <9>健康と施策 (135 池内 和代/1回) <10>思春期・青年期の健康 (136 栗原 幸男/1回) <11>健康と情報 (128 岩崎 泰正/3回) <12>アルコールの医学/<14>喫煙の医学的・社会的/<15>メタボリックシンドローム (253 北添 紀子/1回) <13>心の発達・精神の医学</p>	オムニバス方式
		<p>健康問題の現状を正しく理解し、生活に活かしていけるようになることを目指す。健康や運動に関する知識を理解する。自らの健康を保持増進するための知識の理解や自己の体力、健康の保持増進につながる行動は何かを判断する。</p> <p>自己の体力や運動能力や自らの健康、他者の健康や健やかで活力のある社会に関心を持つ。そして、生涯にわたって健康的な生活を営む態度や健康に関する様々な情報を読み解き、自らの体力向上や健康増進に役立てる能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (229 山脇京子/1回) <1>ライフサイクルと健康 (275 林 昌子/1回) <2>食生活と健康 (257 杉本 加代/1回) <3>生活習慣と健康 (252 青木 早苗/1回) <4>生活習慣と健康障害 (128 岩崎 泰正/3回) <5>アルコールの医学/<7>喫煙の医学的・社会的影響/<8>メタボリックシンドローム (253 北添 紀子/1回) <6>こころの発達・精神の医学 (266 幸 篤武/7回) <9>運動と健康①運動不測の弊害/<10>運動と健康②運動の効果Ⅰ/<11>運動と健康③運動の効果Ⅱ/<12>ストレスと健康/<13>うつ/<14>生活習慣病と運動/<15>運動と加齢</p>	オムニバス方式
		<p>わが国の戦後における高度経済成長は、科学技術の発展をもたらし、我々の生活と健康に大きく貢献してきた。しかし、あまりにも激しい時代の変動は、物質的な豊かさや科学技術の恩恵を受ける反面、我々の生活に多くの歪みをもたらした。その結果、これまでに経験しなかった新しい健康問題を生んでいる。本講義では、オムニバス方式により、以下のテーマを中心に取り上げ、その実態を理解するとともに関心を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (128 岩崎 泰正/6回) <1>オリエンテーション-運動と人間/<2>運動不足の実態/<3>ベッドレストスタディ/<4>運動処方/<10>アルコールの医学/<11>喫煙の医学的・社会的影響 (256 柴 英里/2回) <5>食物と健康①/<6>食物と健康② (31 原田 哲夫/2回) <7>24時間型社会と睡眠健康1/<8>24時間型社会と睡眠健康2 (253 北添 紀子/1回) <9>こころの発達・精神の医学 (274 寺下 憲一郎/1回) <12>食生活と健康 (137 高橋 永子/1回) <13>食生活と健康障害 (225 石上 悦子/1回) <14>現代の子育て (138 溝淵 俊二/1回) <15>がんを予防する生活習慣</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	生命・医療分野 教養科目	<p>健康問題の現状を正しく理解し、生活に活かしていけるようになることを目指す。健康や運動に関する知識を理解する。自らの健康を保持増進するための知識の理解や自己の体力、健康の保持増進につながる行動は何かを判断する。</p> <p>自己の体力や運動能力や自らの健康、他者の健康や健やかで活力のある社会に関心を持つ。そして、生涯にわたって健康的な生活を営む態度や健康に関する様々な情報を読み解き、自らの体力向上や健康増進に役立てる能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 2 8 岩崎 泰正/6回) <1>オリエンテーション・アルコールの医学/<3>喫煙の医学的・社会的影響/<12>運動と人間/<13>運動不足の実態/<14>ベッドレストスタディ /<15>試験 (2 5 3 北添 紀子/1回) <2>こころの発達・精神の医学 (2 7 2 岡田 久子/1回) <4>子どもの抱える健康課題 (2 2 8 森木 妙子/1回) <5>いのちと健康 (2 5 9 濱田 佳代子/1回) <6>性と健康 (2 2 7 大井 美紀/1回) <7>ライフサイクルとメンタルヘルス (2 5 6 柴 英里/2回) <8>食物と健康①/<9>食物と健康② (3 1 原田 哲夫/2回) <10>2 4時間型社会と睡眠健康 1 /<11>2 4時間型社会と睡眠健康 2</p>	オムニバス方式
		<p>受講生が現代社会におけるアルコールをめぐる医学的知識および社会的マナーとコミュニケーション能力を身につけ、健康的なアルコールとの付き合い方ができるようになること、およびアルコールと高知県の深いかわりについて知識と理解を深め、地域の問題を解決していく能力を身につけることが目的である。当授業においては、グループでの課題探求・発表、授業におけるグループワーク、諸団体や酒造の見学等を活用する。また学外から積極的にゲストを呼び、授業で話をしてもらう予定である。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (1 9 6 島内 理恵/10回) A. アルコールをめぐるコミュニケーションー急性アルコール中毒防止のためにー/B. アルコールによる健康被害ー内科および精神科を中心にー/C. アルコール依存症の自助グループー自助グループは高知県で生まれたー/授業全体の振り返りーグループワークによるアルコール学概論全体についての課題探求と発表を行う。(島内 理恵・2 3 立川 明/1回) (共同) オリエンテーションー授業スケジュールの詳細について説明し、コミュニケーションに関するワークを行う。(島内 理恵・2 2 永田 信治/5回) (共同) D. 土佐の酒文化と歴史ー酒の国で暮らす喜びー</p>	オムニバス方式・共同方式(一部)
		<p>(授業担当者 3 8 佐藤 淳郎)</p> <p>本講義で扱う内容は、テレビゲーム等のゲームの勝ち方等を学ぶものではない。ゲーム理論とは将来、経済学や教育学等で応用可能な意思決定に関するきちんとした数学的な理論である。その内容は決して易しいものではない。高度な数学的な思考力を必要とされる。その上で、ゲームとは何かについて理解でき、自分で戦略を立て、意思決定ができるようになることを目指す。</p>	
自然分野	<p>(授業担当者 3 9 山口 俊博)</p> <p>トポロジーは柔らかな幾何学ともいわれ、柔軟かつ、論理的な発想が求められる。1次元の話としてグラフ理論があり、地図の4色問題や時間割の作り方にも有効な応用を持つ。2次元の話として、閉曲面の分類が完成されていることを学ぶ。その中でも、射影平面は、これまで習ってきた初等幾何のいくつかの定理が、無限遠点を導入することにより、いとも簡単にわかる。ものの見方を変えることが、いかに重要かを学ぶいい素材である。この曲面を含め、3次元で作れない曲面がいくつかあり、「次元」とは何かについても、考察する機会になる。</p>		
	<p>(授業担当者 2 3 6 服部 裕一郎)</p> <p>サイコロを振れば1の目が出る確率は「6分の1」であるが、この「6分の1」とは一体どのような意味を持つか。このことはこれまでの中学高校数学で学習した内容であるが、改めてこのような素朴な確率の考え方の復習からはじめ、基本的な確率・統計学に関する内容を概説していく。授業では、実際に、確率実験なども行い、実感を伴って理解できるようにする。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目 自然分野	<p>自然現象を科学的な視点からとらえ、その法則性を知り、科学的にとらえることを楽しむことで、自然界の仕組みをより深く理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (245 中城 満/1回) <1>オリエンテーション・グループ分け・模擬授業① (小学校理科) (59 國府 俊一郎/2回) <2>力の釣り合い/<3>運動と力 (31 原田 哲夫/6回) <4>もの大きさと法則/<5>時間について/<6>化学反応はどうして起こる？自然の中でどんな化学反応が起きているのかを観察する。/<7>化学反応の法則に従って、化学物質を作る。/<10>生物学における自然の法則がどのようにして導かれるのかを、睡眠科学や昆虫学の例を引いて、そのプロセスに焦点を当てて紹介する。(その1)/<11>生物学における自然の法則がどのようにして導かれるのかを、睡眠科学や昆虫学の例を引いて、そのプロセスに焦点を当てて紹介する。(その2) (258 西脇 芳典/2回) <8>科学捜査を支える自然の法則 - 薬毒物 - /<9>科学捜査を支える自然の法則 - 微生物 - (164 伊谷 行/2回) <12>生物の多様性に見られる法則1/<13>生物の多様性に見られる法則2 (94 赤松 直/2回) <14>地学現象に関する自然法則1：アルキメデスの原理とアイソスタシー、コリオリの力と偏西風/<15>地学現象に関する自然法則2：面角一定の法則</p>	オムニバス方式
		<p>受講生は、食と食料に関して科学的な見方ができるようになる。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (95 芦内 誠/2回) <1>食物繊維の構造と機能。先端機能材料化の可能性について/<8>食べ物の味を化学する (189 手林 慎一/1回) <2>農薬を使うのか？ - 野生植物と栽培品種 - (192 村松 久司/1回) <3>食品製造における微生物汚染と衛生管理 (190 加藤 伸一郎/1回) <4>遺伝子組換え生物の作成とフードサイエンスにおける利用について概説する (101 大西 浩平/1回) <5>食料生産とバイオ燃料について (5 受田 浩之/1回) <6>食品の健康増進効果を測り、探し、確かめる。 (25 島村 智子/1回) <7>食品製造中に起こる成分間反応について学ぶ (261 若松 泰介/1回) <9>食における酵素の力 (99 曳地 康史/1回) <10>細菌の動物と植物に対する病原性の相違点を概説する (100 木場 章範/1回) <11>植物の潜在能力を利用した有用物質、環境・安全に配慮した食料 (96 枝重 圭祐/1回) <12>動物の生殖工学技術と食料生産 (188 上野 大勢/1回) <13>不良土壌における食料生産と食品の栄養強化へのアプローチ (97 岩崎 貢三/1回) <14>食品中のカドミウムにまつわる諸問題 (98 康 嶺梅/1回) <15>汚染土壌で安全な食物を生産するための戦略 (22 永田 信治/1回) <16>食品加工における微生物の役割</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目	自然分野	<p>動植物・微生物の生命現象を個体レベルから分子レベルまで概説するとともに、実用化への道を探る先端研究の紹介を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (99 奥地 康史/1回) <1>植物と細菌の相互作用と共進化 (100 木場 章範/1回) <2>植物の自己防衛能力 (96 枝重 圭祐/2回) <3>超低温凍結による動物遺伝子の保存/<12>かおりのかがく (97 岩崎 貢三/1回) <4>植物の命の秘めたる力 金属をためる植物たち (188 上野 大勢/1回) <5>植物のストレス解消法 (98 康 崧梅/1回) <6>風土病と微量元素の深い関係 (110 田中 壮太/1回) <7>土壌を支える微生物 (25 島村 智子/2回) <8>乳製品と健康の関係/<9>糖尿病の発症、診断、治療に関わるライフサイエンス (22 永田 信治/1回) <10>微生物が支えた古代からの暮らしと健康と産業 (189 手林 慎一/1回) <11>薬の起源ーココア・コーラとコカインー (129 金 哲史/1回) <13>植物と昆虫の戦いー化学生態学入門ー (95 芦内 誠/1回) <14>環境適応とバイオポリマーー先端機能材料の開発戦略ー (192 村松 久司/1回) <15>微生物や酵素を利用したモノづくり (101 大西 浩平/1回) <16>遺伝子組換え技術の基礎とライフサイエンスへの適用</p>	オムニバス方式
	物質の科学	<p>講義を聴くことにより、化学に関する知識を増やす。また、講義で聴いた内容に関して、良く理解し、また理解が及ばない場合は自分で調査することにより、指定した形式でレポートが書けるようになる。さらにその際、論理的に考察し、その課程が文章で書き表せることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (193 中野 啓二/3回) 授業の進め方と各教員のテーマ・日程を説明/「生活を豊かにしてきた触媒反応」/「分子の右手と左手を見分ける分離化学ー生体高分子を活用した複合材料の開発ー」 (102 市川 善康/1回) 「天然物化学」 (194 金野 大助/1回) 「原子構造と分子構造」 (103 北條 正司/1回) 「酒の熟成には、なぜ時間が必要なのかー水とアルコールの微視的混合の条件ー」 (82 柳澤 和道/1回) 「地球を救う魔法の水」 (246 恩田 歩武/1回) 「地球環境と再生可能資源のための触媒」 (195 梶芳 浩二/1回) 「電子・光を制御するセラミックス材料」 (196 島内 理恵/1回) 「エネルギー技術をささえるセラミックス材料」 (264 永野 高志/1回) 「地球環境に配慮した有機合成反応」 (265 松本 健司/1回) 「生物と鉄」 (258 西脇 芳典/1回) 「科学捜査を支える分析化学」 (182 岡村 慶/1回) 「海洋の現場化学計測法」 (270 波多野 慎悟/1回) 「高分子とナノテクノロジー」</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然分野	地球と宇宙	地球規模及び地球史的スケールで生物の進化、地球環境、鉱物資源を考える。 地球科学の基礎を理解し、新しい地球観・生命観を身につけ、さまざまな環境問題を地球史の視点から考えられるようになることを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (104 近藤 康生/8回) 氷期・間氷期の気候変動、地球史を通じた大陸の集合と分裂、植物の上陸、人類の進化など、地球表層の環境変化と生物進化との関連を中心として講義。 (143 臼井 朗/7回) 太陽系と地球、地球の構造と地質現象、海洋と地球環境、海洋の鉱物資源など、宇宙の中での地球について、基本的な事項を講義。	オムニバス方式
	自然科学の歴史	自然科学の成り立ちの歴史をたどることによって、自然科学があわせ持つ統一性と多面性に対する理解を得ることをテーマに、科学的なものの見方、考え方を捉えることを目的とする。自然科学と社会科学との関連にも注意を払いながら講義する。 (オムニバス方式/全15回) (105 西岡 孝/10回) <1>はじめに一授業の紹介も兼ねて、自然科学分野の成り立ち、自然科学の歴史を概観する。/<2>力学Ⅰ～宗教と科学～/<3>力学Ⅱ～ガリレオとニュートン～/<4>熱力学～技術と科学～/<5>近代化学の成立Ⅰ/<6>近代化学の成立Ⅱ/<7>近代化学の成立Ⅲ/<13>ファラデーと電磁気学/<14>アインシュタインと現代物理学/<15>量子力学～現代産業の基盤～ (106 松井 透/3回) <8>生物学の歴史/<9>顕微鏡の発明/<10>過去を復元する (289 加藤 和久/2回) <11>近世および近代の数学史Ⅰ<12>近世および近代の数学史Ⅱ	オムニバス方式
	花粉を科学する	当授業は、「花粉」を題材として、自然科学の世界に誘う。「花粉研究」と言ってもその内容は実に様々であり、分類や遺伝、進化など生物学の分野から、花粉症のほか、科学捜査やハチミツの製造に関するものまでである。花粉を学ぶことで、どのように科学され、私たちの生活との間にどんな（意外性のある）つながりがあるかについて知ることができる。「花粉」や「花粉学」を通して、自然科学を学ぶ楽しさや基本姿勢を身に付けることを目標とする。	
	土佐の自然と農業	高知県の自然環境や農業の特徴を、作物栽培、植物育種、家畜飼養、農業施設、植物保護など多様な領域を専門とする教員がそれぞれの立場から講義する。 受講生は、温帯南域（暖地）の特色を生かした栽培管理の基礎理論や地域農学に根ざした農畜産物の経営・流通、さらには先端技術を用いた最新の生産管理技術などを広く学びながら、高知県の農業と風土、地勢について、総合的に捉える姿勢を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (26 松島 貴則/1回) <1>高知県の自然環境と農業の歴史 (6 市川 昌広/1回) <2>高知県山村の過疎高齢化問題と人々の暮らし (204 西村 安代/1回) <3>高知の風土が育んだ農業と食文化 (89 尾形 凡生/2回) <4>高知県の施設野菜生産/<9>高知県の果樹生産 (202 宮内 樹代史/1回) <5>高知の自然エネルギーの農業生産への活用 (201 宮崎 彰/1回) <6>高知県の食用作物生産 (87 村井 正之/1回) <7>高知大学で育成したイネ品種 (247 濱田 和俊/1回) <8>高知県中山間地の特産園芸 (198 松川 和嗣/1回) <10>高知県の畜産 (222 伊藤 桂/1回) <11>高知県の土着天敵を利用した施設栽培果菜類の害虫防除 一天敵も地産地消でー (112 藤原 拓/1回) <12>高知県の施設園芸の持続的発展を目指して～浄化作物の活用～ (108 島崎 一彦/1回) <13>高知でみられる身近な植物 (200 安武 大輔/1回) <14>高知の植物生産環境とその制御による効率的農業 (203 古川 泰/1回) <15>高知の山地利用農業ー焼畑とその後の山地利用	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 自然分野	サイエンスリテラシーの化学	当授業に主体的に取り組むことにより、身の回りに存在する化学物質の知識を得ることができる。化学の知識を得ることにより、持続可能で健康的な生活を送るために必要な正しい選択ができるようになる。TBL型の授業形態に主体的に取り組むことにより、問題解決力、自己管理能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。	
		渚の自然史	自然環境とは何かを海岸の生物から学び、海岸の環境をどのように理解したか、自らの言葉で説明できる。	
		色彩の世界	色彩の基礎技術・知識を習得し、集中力・根気強さを養成し、手縫いの基礎技術を修得することを目指す。	
		環境を考える	持続可能な社会を実現するため、環境人材育成プログラムの一環として多面的な能力と知識を自ら開発することや課題探求学習により自ら定めた課題を解決し、課題発見能力、課題探求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を開発することを目指す。	
		黒潮圏科学の魅力	「黒潮圏科学」は文理融合して持続型社会を追究する新しい学問である。文系における人間の考え方や価値観の観点と理系における自然のしくみの理解と技術を駆使する観点が緊密に連携し合い、現在の人類が直面している問題を俯瞰的に把握し、これからの人間社会が目指すべき方向を考える。 (オムニバス方式/全15回) (3 6 飯國 芳明/1回) 〈1〉オリエンテーション（授業のスケジュールの提示とレポートの課題・提出についての説明、副読本の販売） (1 6 3 中村 洋平/1回) 〈2〉サンゴ礁における水産資源の持続的利用 (2 1 1 平岡 雅規/1回) 〈3〉青海苔の種分化 (3 1 原田 哲夫/1回) 〈4〉外洋棲ウミアメンボの世界 (1 1 1 新保 輝幸/1回) 〈5〉海のコモンズを考える (2 0 6 田口 尚弘/1回) 〈6〉動物の染色体から何が分かるか (1 3 0 石川 慎吾/1回) 〈7〉東アジアの植生と黒潮 (4 7 杉谷 隆/1回) 〈8〉環境認識と環境運動 (2 0 5 関田 諭子/1回) 〈9〉水中生活者の渦鞭毛藻類と人間活動 (8 8 大谷 和弘/1回) 〈10〉植物と共に生きるヒト (5 7 奥田 一雄 /4回) 〈11〉海と化学物質/〈13〉海藻類の多様な生活史とそこにみられる生物相互作用/〈14〉大地の生い立ちをさぐる/〈15〉自然界の共生をさぐる (1 6 4 伊谷 行/1回) 〈12〉浜辺のベントスにみる多様性と機能	オムニバス方式
		生物科学	人間を含めた生物的自然的理解を目的とする。生物を細胞の構造と働きから理解でき、生物および生物群の間の関係や生物の存在と活動を科学的に理解ができる。また、地球環境を生物的自然的の切り口で捉えてみることができる。人間はどのような生命活動をコントロールしようとしているのかなど生物の機能を改変する人類の試みを認識することができる。	
		心の仕組みと脳発達障害	「こころ」が神経活動の所産であることを、具体例を挙げて説明し、脳のモジュールの働きが悪くなると、「こころ」のどのような働きが悪くなるのか。また、脳がどのようにできてくるのかを、子供の「こころ」の発達的变化と関係させながら述べ、発達上の脳の障害が、子供の「こころ」のどのような障害を生じるかを解説する。その中で、「こころ」が育つために、社会環境との関わりがいかに大切であることを明らかにする。	
初学者の為の物理入門	物理の理解の基礎である力学を自分の感覚になじむまで理解出来るようになる事をテーマとする。 1. つりあい、慣性の法則、放物運動、振動を理解する。 2. エネルギー、運動量の保存を理解する。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然分野	大地の災害	<p>豪雨時の地盤災害や火山活動による地盤災害の実態を知り、地盤災害の現象を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (114 横山 俊治・295 日浦 啓全/2回) (共同) <1>(1)オリエンテーション、(2)防災意識を尋ねるアンケート実施/<15>試験 (日浦 啓全/6回) <2>(1)アンケートの集計結果とコメント、(2)災害から逃げられるか/<3>水防と治水、自主防災の意識の変化(ビデオ)/<4>雨の降り方を科学する(降雨指標と災害発生予測)/<5>土石流と土石流災害(メカニズム、予知は出来るか?対策工)/<6>地すべり/<7>地すべり(2):(対策の考え方、ビデオ)-土地利用と地盤災害-(横山 俊治/7回) <8>火山とは何か-マグマの種類(火山岩の種類)・噴火様式・火山地形の関係を見る-/<9>マグマの種類と溶岩の産状/<10>カルデラ火山と円錐火山/<11>円錐火山の一生/<12>有珠火山の一生(カルデラ火山から円錐火山へ)/<13>火山でおきる土砂災害-山体崩壊の特徴/<14>火山でおきる土砂災害-地すべり</p>	オムニバス方式・共同方式(一部)
	地震の災害	<p>今世紀前半にも発生が予測される南海地震を初めとする4つの巨大地震について理解を深め、その災害の予想から防災対策のあり方を学ぶ。</p>	
	流れと波の災害	<p>気象災害に関する基本的事項が理解でき、流れと波に関する防災対策について自分の意見がもてる。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (115 佐々 浩司/9回) <1>オリエンテーション(授業計画、評価方針)/<2>日本の国土の特徴と自然災害/<3>気候と天気、低気圧と高気圧/<4>災害をもたらす気象擾乱/<5>豪雨災害/<6>突風・強風災害/<7>気象情報の活用と観点望気/<8>中間試験/<16>期末試験 (144 原 忠/7回) <9>洪水災害・浸水災害と防災対策(1)/<10>洪水災害・浸水災害と防災対策(2)/<11>海面の変動と海の波/<12>高波と高潮災害/<13>海岸侵食と保全対策/<14>津波災害/<15>津波防災対策</p>	オムニバス方式
	災害と生きる	<p>社会の防災力に関する現状と課題を理解し、災害医療についての認識を深める。</p>	
	魚と食と健康	<p>日本は、世界でも有数の魚の消費国である。この需要を満たし、魚を安定的に供給する上で、安全・安心な魚を作り育てることがますます重要となってきた。本授業では、このような魚を飼育するために重要となる栄養、魚の育種、魚を健康に育む環境、それらを食べる人間にとっての栄養的価値、食生活における魚介類の依存度などについて学び、これらをふまえて、健康で安全な魚介類を持続的に生産することについて理解できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (85 関 伸吾/2回) <1>魚類養殖のメリット・デメリット/<3>魚における性の操作 (163 中村 洋平/1回) <2>環境劣化が魚類資源に及ぼす影響 (209 深田 陽久/2回) <4>魚類生理学に基づく養殖漁業/<5>未利用資源の養魚飼料への利用 (60 益本 俊郎/1回) <6>魚食と健康 (210 山口 晴生/1回) <7>魚介類の大量死をもたらす赤潮問題 (86 足立 真佐雄/2回) <8>フグ毒の話/<9>貝毒・魚毒による中毒問題 (55 大島 俊一郎/4回) <10>魚の病気とヒトの健康/<11>魚病と薬剤の使用/<14>水産物の色彩について/<15>水産無脊椎動物の新しい利用法について (248 今城 雅之/1回) <12>魚病と公衆衛生 (109 森岡 克司/1回) <13>魚の品質の評価並びにその保持技術について</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教養 科目	自然 分野	<p>海洋生物学</p> <p>土佐湾、黒潮、四万十川などの海洋環境資源が豊かな高知において、海洋生物の面白さ、多様性、重要性を認識させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(116 木下 泉/3回) 魚類学(何故、魚類学なのか?黒潮、土佐湾そして魚類/魚類の成り立ち/魚類の進化と個体発生/テスト)</p> <p>(211 平岡 雅規/3回) 海洋植物学</p> <p>(163 伊谷 行/4回) 海洋底生生物学(底生生物の多様性/岩礁域の生態学/堆積物底の生態学)</p> <p>(212 齊藤 知己/5回) ウミガメ学/ウミガメ回遊学/深海生物学/テスト</p>	オムニバス方式
			<p>自然環境と人間</p> <p>GPSはGlobal Positioning Systemの略であり、全球測位システムと呼ばれる。GPSはカーナビゲーションシステムの普及により我々に身近な存在であるが、受信電波の誤差情報から対流圏スケールの大気中の水蒸気情報が「GPS可降水量」として抽出されることはあまり知られていない。本講義では一見無関係のGPSと気象が「GPS可降水量」を介して深い関わりを持つことを、高知の気象環境を題材に概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(213 森 牧人/1回) <1>ガイダンス(授業計画の説明)/GPSと気象</p> <p>(107 荒川 良/1回) <2>自然環境と外来生物</p> <p>(199 福田 達哉/1回) <3>花の不思議</p> <p>(214 是永 正敬/1回) <4>地球環境の変化と疾病</p> <p>(85 関 伸吾/1回) <5>水生生物からみた河川環境評価</p> <p>(117 河野 俊夫/1回) <6>自然エネルギー活用の技術</p> <p>(113 松本 伸介/1回) <7>音環境のはなし</p> <p>(222 伊藤 桂/1回) <8>ハダニの社会からみた環境の多様性</p> <p>(204 西村 安代/1回) <9>植物と光環境</p> <p>(189 手林 慎一/1回) <10>化学の目で見る生態学</p> <p>(86 足立 真佐雄/1回) <11>環境ホルモンの話</p> <p>(116 木下 泉/1回) <12>日本の食料自給率の向上を目指して:フィールドワークを通じての生物の生き様の観察の重要性</p> <p>(118 笹原 克夫/1回) <13>森林の国土保全機能ー森林の土砂水流抑制効果についてー</p> <p>(208 佐藤 周之/1回) <14>水環境の修復技術</p> <p>(163 中村 洋平/1回) <15>環境問題と魚類研究</p>	オムニバス方式
			<p>生態系への人為的インパクト</p> <p>我々が地球上に生きる生物の一員としての自覚を持ち、環境に対して配慮できる人間となれること、および文系・理系を問わず、環境問題に関する新聞記事を読んだ際に、的確に理解し、自分で考え、客観的に批判できる能力を持てるようになること。</p> <p>(オムニバス方式/全16回)</p> <p>(30 櫻井 克年/8回) <1>生態学的な考え方(その1)/<2>生態学的な考え方(その2)/<3>生態系(エコシステム)について、様々な視点から解説する。/<4>生命と環境について、主に相互の連関について様々な視点から解説する。/<5>熱帯の環境問題について、複合的な視点から解説する。/<6>熱帯の農業生態系について、複合的な視点から解説する。/<7>砂漠化について、複合的な視点から解説する。/<8>自然生態系と社会生態系について、60分間のレポート試験を行うと共に、一般的な解説を加える。</p> <p>(29 深見 公雄/8回) <9>1. 海洋生態系全般の解説/<10>2. 富栄養化と赤潮問題/<11>3. ダム建設の功罪ー長良川河口堰を例にー/<12>4. 地球温暖化問題/<13>5. 人工化学物質汚染/<14>6. 外来種による生態系破壊/<15>7. 干潟の役割とその保全意義/<16>試験</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教 養 科 目	自然 分 野	森林の成り立ち、森林と農地や水域とのつながりについて理解し、森林資源の管理・育成や森林資源の利用について考える。 (オムニバス方式/全15回) (119 塚本 次郎/3回) 森林とは何か-生態と環境の視点から-/熱帯のデンプン資源植物サゴヤシ-インドネシア・マレーシアのサゴヤシ林の調査から- (203 古川 泰/1回) 森林と文明-人類社会と森林の歴史- (27 松本 美香/1回) 世界の森林の現状と木材貿易 (226 市榮 智明/1回) 熱帯雨林の生態と環境 (30 櫻井 克年/1回) 東南アジアの農林業 (215 松岡 真如/1回) リモートセンシングによるアジア域の森林観測 (6 市川 昌広/1回) 森林を育てる-日本の育林技術- (120 後藤 純一/1回) 地球環境と森林資源の利用 (216 鈴木 保志/1回) 森林からの木材生産と森林環境 (249 野口 昌宏/1回) 木材とは何か-その性質と利用- (217 市浦 英明/1回) 森林からの生産物の化学的利用法 (60 益本 俊郎/1回) 森林と海洋生物の繋がり (121 大谷 慶人/1回) 現代社会における森林の役割-癒しと森林-	オムニバス方式
			全ての生物は概日時計を使い、一日を周期とする環境の変動に適応している。本講義ではこの適応について人間を中心に他の動物に至るまで広く解説する。また、急速な発展を見せる時間生物学や睡眠科学の領域で様々なトピックスを織り交ぜながら楽しく紹介したい。約1週間や約1ヶ月、約1年を周期とする生物リズムも扱う。	
			形の幾何学を題材とし、その中に潜む数学的思考方を学ぶ。 図形の数学的思考方を理解し、実際に折り紙を折るなどのことを行い図形の数学を体験して、理解度を深める。	
			持続可能な社会を実現するため、環境人材育成プログラムの一環として多面的な能力と知識を自ら開発することや課題探求学習により自ら定めた課題を解決し、課題発見能力、課題探求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を開発することを目指す。	
			高知の自然と地質資源	高知県について、地質、地下資源、観光名所などの自然環境と、それらを利用した産業や伝統的特産品を紹介するとともに、自然遺産や産業遺産の保全・活用について考える。

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教養 科目	自然分野	<p>農場における作業や周辺の自然環境の観察、生産現場の見学などを通して食料生産の実態に触れ、「農」と「食」、そしてその営みをとる「自然」について体験的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (89 尾形 凡生/4回) <1>演習ガイダンス/高知県の農業と自然/<10>園芸施設での生産体系と野菜苗の植え付け体験/<14>わが国の農業のかかえる諸問題—ディスカッション/<15>演習を振りかえるレポート作成 (201 宮崎 彰/2回) <2>イネの収穫/<3>稲の調整 (204 西村 安代/1回) <4>高知の施設園芸と施設内管理作業体験 (26 松島 貴則/2回) <5>高知県の農業生産法人の経営/<6>高知県の農業生産法人の見学とディスカッション (107 荒川 良/2回) <7>高知県土着昆虫の農業利用/<8>天敵利用型農法による生産の実践 (108 島崎 一彦/1回) <9>園芸施設での観賞植物の生産 (87 村井 正之/1回) <11>高知県の風土に適した水稻育種 (202 宮内 樹代史・200 安武 大輔/1回) (共同) <12>農業用機械の構造説明とトラクターへの試乗 (198 松川 和嗣/1回) <13>土佐褐毛和種の飼育と繁殖</p>	オムニバス方式・共同方式(一部)
		土佐の海 の環境学 I：柏島 の海から 考える	<p>高知県の柏島の海とそれに関わる人間の生活や社会を題材に、広く海の問題とその解決策について考えることを通して、海と人間との豊かな関係とは何かということを考えていくことや、座学の講義で自然科学・社会科学の両面から海の問題についてアプローチする。また、実際に柏島の海に触れ、地域住民とコミュニケーションするフィールド実習を行い、学生各々が現場から問題を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (111 新保 輝幸/6回) <1>講義(島が丸ごと博物館) 柏島の海の魅力/<2>講義(柏島の海をめぐる問題)/<6>講義(柏島の海の法律問題：権利関係と利用調整)/<13>講義(海業の発想と実践—柏島問題の解決に向けて)/<14>講義(持続可能な「里海」づくり：自然と共存する処方箋)/<15>講義(サンゴの海の経済問題：そのパースペクティブ) (88 大谷 和弘/1回) <3>講義(自然を化学・科学で読み解く) (235 堀 美菜/1回) <4>講義(漁業と漁村の経済) (164 伊谷 行/1回) <5>講義(海洋ベントスとその生息環境) (93 遠藤 広光/1回) <7>講義・グループディスカッション(柏島周辺の魚類) (163 中村 洋平/1回) <8>講義・グループディスカッション(サンゴ礁の攪乱と持続的利用) (10) 石筒 寛/1回) <9>講義・グループディスカッション(「環境問題」をみる視点) (大谷 和弘・中村 洋平・伊谷 行・遠藤 広光・石筒 寛・堀 美菜/3回) (共同) <10>柏島現地実習(ガイダンス/柏島踏査/柏島の歴史・文化に関する現地住民の方へのインタビュー/シュノーケリング練習/シュノーケリングによる海洋生物観察/海洋漂着物調査(ビーチ・コーミング)/現地講義「柏島の歴史と文化を掘り起こす(幡多ゼミ顧問・山下正寿氏)」/座談会ほか)</p>	オムニバス方式・共同方式(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自然分野	<p>森林の多様な環境機能の発現の仕組みを観察し、森林機能の高度発揮を支える林業技術の体験を交えて学ぶとともに、森林管理により生み出される森林生産物について、その特性や高付加価値化のための加工技術について体験を交えて学ぶ。また、森林の重要性とそれを支える仕組みへの理解を促すことで、forest guardianの育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (119 塚本 次郎・203 古川 泰・27 松本 美香/4回) (共同) 地域の森林・林業と人工林管理の基礎の学習。 (120 後藤 純一・216 鈴木 保志/4回) (共同) 選木、間伐、小径の林地残材の搬出実習。 (249 野口 昌宏/4回) 建築、家具や様々な製品に使われている木材をラボ実験や実習を通じて学ぶ。 (121 大谷 慶人・217 市浦 英明/4回) (共同) 木材主要成分であるセルロースをラボ実験を通じて学び、地域の産業である紙パルプ産業について理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同方式(一部)
		<p>TOEIC英語</p> <p>○171 今井 典子 担当クラス 受講生が、TOEIC Testで600点以上のスコアを獲得できるように英語力の向上を目的とする。</p> <p>○280 松吉 明子 担当クラス TOEICの試験を受けたことがない人や、スコアが400に満たない人が、試験形式に慣れスコア500以上を目指すためのコースである。 授業はテキストに沿って進め、リスニングはシャドーイング、ディクテーションなどの練習方法を使って聴解力を鍛え、リーディングは適宜文法の説明をしながら速読の練習をしていく。</p> <p>○64 上岡 克己 担当クラス TOEICに関する英語を学ぶが、同時に英語の総合的な能力を伸ばす。</p> <p>○284 中川 芙佐 担当クラス TOEIC対策の授業。英語力を向上するという意思をもち、そのための勤勉な学習姿勢が必要。</p>	
	外国語分野	<p>国際英語</p> <p>○172 藤崎 好子 担当クラス 国際的な場面で必要な英語での適切なコミュニケーション能力の養成と海外留学のための準備教育。</p> <p>○284 中川 芙佐 担当クラス 聞く英語と文字で見る英語のギャップを埋め、学習者自身が理想的な英語を再現する。</p>	
	<p>教養英会話</p> <p>○281 Sean Burgoine 担当クラス 英語でコミュニケーションをする努力が要る。 授業では英語を話すことを促す。</p> <p>○282 Paula Dian Fabian 担当クラス 英語のトピックについて議論することにより簡単な会話を続けることができ、国際的なコミュニケーションをするために基礎的な会話技術を修得することができる。また記述やプレゼンテーション、グループワークを通じて達成する。</p>		
	<p>リーディング・スキル</p> <p>○283 榊田 隆宏 担当クラス テキストの章ごとに1文ずつ順次学生に英語の音読と和訳をしてもらう。その後でリスニングを実施する。</p> <p>○65 山下 興作 担当クラス 英文の隅々まで正確に読みながら英文読解力の向上をはかるとともに、英文を読む楽しみを味わう。</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	外国 語 分 野	ドイツ語 I	1年生第1学期から履修可能なドイツ語の初級科目。 ○173 持尾 伸二 担当クラス ドイツ語とはどんな言葉かを学び、基礎的な文法を修得し、文章が正確に読めて理解できることを目指す。また、ドイツ語を学ぶことにより、異文化理解を深める。 ○66 高橋 克己 担当クラス ドイツ語初級履修としてドイツ語の基礎を学ぶ。 ○67 小澤 万記 担当クラス 単文が理解できることや辞書が使える。また、日常的に使われる短い文を覚えるなど、初歩のドイツ語を身につけ、ドイツ語の基本的な組み立てを理解できるようにする。 ○68 斎藤 昌人 担当クラス ドイツ語に親しみ、ドイツ語の発音や簡単なドイツ語表現の理解などといった、発音、基本的な文法の習得、最低限の語彙のマスターを目指す。 ○239 Hug Stefan 担当クラス ドイツ語の根本的な文法を勉強して、簡単な会話を練習しながら言語習得について考える。コミュニケーション用のドイツ語の基本能力を養成しながら言語習得の基本を学ぶ。	
		ドイツ語 II	「ドイツ語I」の単位修得者が履修可能な「ドイツ語I」のステップアップ科目。 ○68 斎藤 昌人 担当クラス ドイツ語Iで学んだことを確実なものにし、簡単な文章の理解や簡単なドイツ語を書くなど、さらに発展的なことを学ぶ。 ○239 Hug Stefan 担当クラス ドイツ語の根本的な文法を勉強して、コミュニケーション用のドイツ語能力の養成や簡単な会話を練習しながら言語習得の基礎を学び、考える。	
		フランス 語I	フランス語の初級を学ぶ。授業の進度は受講生の理解度にかかる。	
		フランス 語II	フランス語の初歩的な文法、購読、作文、発音などを学ぶ。授業の進度は受講生の理解度にかかる。	
	教養 科目	中国語 I	1年生第1学期から履修可能な中国語の初級科目。 ○70 高橋 俊 担当クラス 初歩的な文法などといった中国語の基礎を学習し、簡単な会話ができるようになることを目指す。 ○71 中森 健二 担当クラス 36の母音を発音できる。21の子音を発音できる。4つの声調と、その2音節の組み合わせ20通りを発声し分けられる。中国語の約400の音節を、中国語ローマ字（ピンイン）表記を見ながら発音でき、耳で聴いてピンインで書くことができる。入門テキストの文章を、ピンインを見ながら正確に読み、辞書を引いて日本語に訳すことができる。 ○285 高西 成介 担当クラス 中国語とはどのような言語なのかから発音など基礎を学ぶ。また、1課終了ごとに課文の暗誦を求める。	
		中国語 II	「中国語I」の単位修得者が履修可能な「中国語I」のステップアップ科目。 ○70 高橋 俊 担当クラス 中国語の中級文法を身につけ、中国語で日常会話ができるようになることを目指す。 ○71 中森 健二 担当クラス 中国語入門から一步、二歩と進む。日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストに挙げる中国語の基本文型と同程度の難易度の作文ができ、ピンインで表記できる。初級テキストの内容と同程度の文章を、辞書を引いて日本語に訳すことができる。 ○285 高西 成介 担当クラス 発音の復習から始める。教室内で恥ずかしがらず、大きな声をだす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	外国語分野	韓国語 (朝鮮語) I	韓国語の文字や発音から挨拶などの基礎的な会話や文法を学習する。
		韓国語 (朝鮮語) II	入門から次のステップへ。話し手が聞き手の同意を求める表現から話し手の意思や推測の意味を表す表現など。
		スペイン語I	読む、書く、聞き取る、話すなどの練習を通して言語能力を高め、異文化へ理解を深めることをめざす。
		スペイン語II	読む、書く、聞き取る、話すなどの練習を通して言語能力を高めるための授業。
共通教育科目	基礎科目	基礎教育英語	<p>○63 加藤 勉 担当クラス 現代日本がかかえる諸問題について、英語で書かれた新聞記事を読むことにより、英語読解力の向上を図るとともに、現代日本における諸問題に対する理解の向上を目指す。</p> <p>○174 西尾 美徳 担当クラス 外国語の読解力を向上させるには、語彙や文法等の言語そのものに関する知識だけでなく、言葉の背景にある文化全般に関する幅広い知識を身につけることが大切である。当授業では、英語の背景にある文化的知識や常識をたくさん吸収してもらいたい。</p> <p>○61 藤吉 清次郎 担当クラス 速読と多読を通して、英語の読解力を向上させる。また、読んだ内容をもとに、英作文能力や要約能力を養う。カルチュラル・スタディーズに関する素養を身につける。</p> <p>○168 宗 洋 担当クラス 20世紀初頭のアメリカ文化についての研究書を読む。 訳の担当学生を事前に指名しておく。訳および一文ずつの構文の解説を求める。 その他の学生は担当者の訳・構文の取り違いを指摘してもらう。 従って全ての学生が予習し、訳を作り、構文解釈を行って授業に参加することが求められる。</p> <p>○62 吉門 牧雄 担当クラス この授業では、イギリスの民話を英語で精読することによって、より高度な英語力の習得を目指す。</p> <p>○169 関 良子 担当クラス 教科書『アメリカの名演説 — リスニング・テキスト』を基に、英語のリスニング能力と読解力を向上させることを目指す。 また、アメリカの現代社会や文化に大きな影響を及ぼした著名人の演説を聞き、読むことで、アメリカの社会や文化について見識を養い、関心を高めることを目的とする。</p> <p>○170 古閑 恭子 担当クラス テキスト、DVD、CD教材を使い、4技能、特にリスニング力の向上を目指す。テキストに沿って授業を進め、1課終了ごとにミニテストを行う。</p> <p>○284 中川 芙佐 担当クラス 日系アメリカ文学 (ヤングアダルト向き) で第二次世界大戦と日系米人を多面的に学ぶ。</p> <p>○288 David William Leslie 担当クラス ペアワークで様々なことを英語で話していく基礎的な英語の知識が必要である。</p>
		基礎教育英語 (リスニング)	生きた教材として映画や電子メディアを使い、社会的、文化的課題について個々でまたはペアで調べ、準備し、プレゼンし、聞き手と話し合う。映画で取り上げられた社会的文化的問題について学び、プレゼンを行う。
		基礎教育英語 EPIC1A	主な15の講義の中で、下記のような言語能力を向上させるために学修する。①言語を正確に又的確に使用できる。②語彙と文法の上達。③文脈を読んで言語を使う。一般的な課題から少し専門的な課題まで、自発的に、または準備された状況で、正確に流暢にアイディアや意見を表現することを目的とし、会話や討論技術を上達させる。
		基礎教育英語 EPIC1B	学生は筋の通った記事を展開し、作成する。それは、学生独自の調査を反映させたものであり、そして様々な情報源 (本、ネット、TVなど) から得たハイレベルな内容を含むものとする。

授 業 科 目 の 概 要					
(地域協働学部地域協働学科)					
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考		
共通 教育 科目	共通 専門 科目	基礎 科目	基礎教育 英語 EPIC2A	電子メディアを使用し、地域的な方言や個々の言語を分析する。また、長いスピーチや討論、議論の聞き取りを上達させることを目的とする。イギリスのドキュメンタリー番組「7UP」を視聴し、7年間取材を受けた異なるバックグラウンドを持った人々の生活を学び、生きた会話（作られていない本物の会話）をする人々の言葉の分析に焦点を当てる。登場する人々は、俳優ではないので、間違ふこともあるし、教材のリスニング問題に出てこないような特徴的な言語を使う。取材を受けた人々の生活や意見は、興味深いグループディスカッションをするよい材料となる。	
			基礎教育 英語 EPIC2B	社会的または文化的課題について、生きた教材として映画や電子メディアを使い、個人でまたはペアを組んで、調査し、準備し、プレゼンを行い、聞き手と話し合う。映画で取り上げられた文化的、社会的課題について英語で討論し、プレゼンを行う。	
			基礎教育 英語 EPIC3A	本や雑誌などといった現代の印刷物やTVやラジオなどといった放送を分析し、修辭的な構造や鍵となる一節を見分けることができることを目的とする。	
			基礎教育 英語 EPIC3B	西欧や日本の社会の中で、主要な文化の変化をもたらした社会的、政治的な力について分析し、調査し、討論する。主に1960年代の音楽、ファッション、映画、有名人、政治、その時代の出来事を見て、考察することを通して英語を学修する。学習方法として、1960年代の音楽の聞き取り練習、討論や短いプレゼンができるように語彙の勉強、そして、アイデアや意見を日誌につづることを行う。特に、会話ができるよう様々な視覚的な刺激（映画、音楽、ビデオクリップ、歴史的映像）を用いて、スピーキングやリスニングを行う。	
			基礎教育 英語 (CBLT英語)	CBLTとは、直接言語学習に関係ない内容を学習することで言語を学ぶコースである。 1960年～1969年までを1年ずつ検証し、音楽、ファッション、映画、有名人、政治、その時代の出来事などに注目することを通して英語学習を進める。学習が進むにつれ、ディスカッションや短いプレゼンテーションを行うためのボキャブラリー強化、考えや意見を英語で記録するなどあり、映画、音楽・映像クリップ、歴史的映像など、多様に視覚的・感覚的に好奇心を刺激しながら、会話に繋げることが出来るようなスピーキングとリスニングに焦点をあてている。	
			基礎教育 ドイツ語	○68 斎藤 昌人 担当クラス 比較的簡単なドイツ語の文章を読み進め、それによって初級で習得した知識を確実なものにすることを目指す。 ○239 Hug Stefan 担当クラス 一年生として学んだコミュニケーション用のドイツ語を使用しながら、様々な文脈に必要な表現力を育てる。 ○67 小澤 万記 担当クラス 受講生がドイツ語の基本的な組み立てを理解できることを目指し、特にドイツ語を読む力を身に付ける。	
			基礎教育 中国語	中国語の発音を覚え、正しく文章を朗読する。文法を理解したうえ、コミュニケーションの技能を高める。	
			日本古典 文学の基 礎	前半は、源氏物語第1部前半の中で、特に主要な場面を読み進めながら、その全体的なあらすじを確認していく。後半は、源氏物語が平安時代から現代までにどのように読まれてきたか、その享受の諸相について概観する。	
			地誌学	系統地理学の基礎概念を理解し、国土・産業などの日本のありさまを全般的に理解する。	
			日本言語 文化研究 の基礎	辞書等を参照しながら、標準的な日本古典文を正確に読解できるようになる。 本講義では、受講生の日本古典読解力の状況に応じて、日本古典語の語法等について確認しながら、『徒然草』を選読する。取り上げる章段は、当該回の前の回に指示する。授業のその場では、受講生を指名して、音読・現代語訳・解釈を求める。	
歴史研究 の基礎	4年生で卒論を作成できるように、1～3年生で何を学び留意すべきかを、授業を通じて意識する。論文や史料読み、内容を理解できようになり、史料から、注目できる問題を設定できることを目指す。				

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目	西洋史研究の基礎	「西洋史研究の基礎を学び、実践する」西洋史研究のために必要な基礎的な知識を学ぶと同時に、西洋史研究の成果に触れ、その研究手順と思考方法を理解する。	
	哲学と科学	科学的認識とは何かということを、科学史と科学論という二つの観点から明らかにする。	
	人間関係論/社会心理学入門	専門科目では割愛されつつある社会心理学の古典的な、しかし、いちばん汎用性の高い理論を紹介するのがこの共通専門科目である。学問が発展し、成熟すると、理論やトピックが細分化されてしまい、初学者には分かりにくい。その一方で、逆説的だが、社会心理学の基礎となる古典的な理論は、一般向けビジネス書で紹介される「実学」的知識として多くの人の興味を集めている。古典的な理論をそのまま用いた研究は少ないため、それらの理論的知見は専門科目よりも共通教育科目の枠で紹介される方がふさわしい。	
	比較文化論入門	「比較」することの意義は「多視点」からみることによって物事の本質により深く迫ることにある。5人の講師がさまざまなテーマについて論じる。社会や文化についてこれまでとは違った視点から一緒に考える。 (オムニバス方式/全15回) (67 小澤 万記/9回) ＜1＞オリエンテーションならびに「日本文化論」について/＜2＞「翻訳」について/＜3＞「日本の近代」について/＜7＞「動物的/人間的」/＜8＞society/＜9＞1755年リスボン大地震の意味/＜10＞クールジャパンと情報文化1/＜11＞クールジャパンと情報文化2/＜12＞クールジャパンと情報文化3 (145 佐野 健太郎/3回) ＜4＞『産業連関表』から見た高知県経済/＜5＞馬路村農協のゆず加工品の経済効果/＜6＞高知県の農業と製造業の連携は可能か (172 藤崎 好子/3回) ＜13＞言語学と英語/＜14＞英語と英語方言/＜15＞英語方言の変異形	オムニバス方式
	日本語表現技法	受講生が、客観的な事実や状況を正確に伝える文章や、自分の意見・意図を筋道立てて述べ、相手を納得・共感させ動かす文章が書ける力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (122 村上 英記/7回) ＜1＞オリエンテーション/＜5＞日本語表現ワークショップへようこそ/＜6＞日本語を楽しもうフォト五七五/＜7＞日本語レポートに求められるもの(1)－レポート・論文の形式に慣れよう/＜8＞日本語レポートに求められるもの(2)－レポートのアウトライン/＜9＞日本語レポートに求められるもの(3)－はじめての図・表・引用/＜10＞日本語レポートに求められるもの(4)－相互に添削をしてみよう (114 横山 俊治/8回) ＜2＞論理的思考はないが論理的文章はある－書くことが思考を駆動する/＜3＞論理は文と文の間にある一文を接続する方法/＜4＞論理的な文章には型がある－パラグラフライティング/＜11＞日本語の特徴(1)－自由度の高い日本語の語順/＜12＞日本語の特徴(2)－修飾の順序ルール/＜13＞日本語の特徴(3)－「、」（てん）の打ち方/＜14＞日本語の特徴(4)－「ハ」と「ガ」の使い分け/＜15＞まとめ	オムニバス方式
	生涯教育論	受講生は、現代の「学び」の意義について深く考え、生涯にわたる学習の保障原理としての教育のあり方について理解する。具体的には、受動的な学びの呪縛から抜け出られない中で、学ぶ者自身が主人公になっていく学びを生み出している生涯教育・社会教育実践を広く数多く取り上げ、そこに見られる「学び合い」「育ち合い」の関係における人間の成長と発達を考察して、生涯教育・社会教育に関する基礎的理解を深める。	
	ファシリテーション演習	ファシリテーションとは、自身や他者との関わりの成果を最大限に高めるための考え方やスキルのことであり、知的相互作用を活性化させたい多くの組織・集団において特に重要性が高まってきている。話し合いのファシリテーションを実践できるようになるために、レクチャーとワークを交互に織り交ぜながら進めるスタイルを本演習では採用し、実際に体感しながらファシリテーションの知識・技術を習得していく。	
	企画立案事業計画基礎演習	事業計画を立案するためには、企画を実施したいという思いだけでなく、目的と手段を段階的に整理する思考力と、関係者の理解と協力を得るために、考えを分かり易く伝える力が求められる。授業では、地域の諸課題に対して各種団体・地域等が実施する事業の計画方法や実施プロセスを概観し、地域や活動の課題について知るとともに、共感力、状況判断力、論理的思考力を培う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	非営利組織経営基礎演習	今日、非営利組織は地域課題を解決するための地域協働の重要なアクターの1つとして期待されている。本授業では、非営利組織に関する基本的な理解を行った上で、非営利組織マネジメントの重要な要素である事業計画の立案について基礎的な学習を行う。高知県の非営利組織を題材とするケースメソッドを用いて事業計画（中長期及び単年度）における成果目標の設定の仕方、特に質的な成果目標の設定について学ぶ。	
	商品開発基礎演習	高知県で販売される商品の多くは県外で加工されたものであり、県内で提供されているサービスもまた県外で開発されたケースが多い。その一方で、地域の特性を活かしている商品・サービスもあることから、それらの違いを通じて、地域資源発掘の前提となる地域特性をどのようにとらえるかを学び、さらに、特性がどのような商品・サービスに活かされているかを事例を交えて分析する。また、商品開発に向けたアイデアの出し方やコンセプトの作り方、資源の発掘、活用方法、デザインのポイントなどについて学ぶとともに、地域資源を活用した商品・サービスの事例をふまえて、商品がで上がるまでのプロセスを概観し、市場ニーズに合った商品開発の方法を考える。	
	社会調査論	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。具体的には、社会調査士、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について学習する。 <1>社会調査士/<2>社会調査の目的/<3>～<4>社会調査の方法論/<5>社会調査の倫理/<6>～<8>社会調査の種類と実例/<9>～<11>量的調査と質的調査・統計的研究と事例研究/<12>国勢調査と官庁統計/<13>～<14>質問紙調査/<15>フィールドワーク/<16>期末試験	
	社会調査方法論	調査設計と実施方法について解説する。社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。具体的には、調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールド・ノートの作成、コードブック作成）などについて学習する。 <1>調査目的/<2>調査方法と調査方法の決め方/<3>調査企画/<4>調査の設計と仮説構成/<5>全数調査と標本調査/<6>無作為抽出/<7>標本数と標本誤差/<8>サンプリングの諸方法/<9>～<11>調査文・調査票の作り方/<12>調査の実施方法①調査票の配布・回収/<13>調査の実施方法②インタビューの仕方/<14>調査データの整理①エディティング、コーディング、データクリーニング/<15>調査データの整理②フィールドノートの作成/<16>期末試験	
	統計解析の基礎	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を解説し、演習によって学ぶ。具体的には、確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎について学ぶ。 <1>～<2>統計基礎①社会調査と統計学/<3>統計基礎②尺度と変数/<4>統計基礎③度数分布とグラフ/<5>基本統計量①代表値/<6>基本統計量②散布度/<7>基本統計量③歪度・尖度・正規分布と標準偏差/<8>確率論の基礎、検定・推定の理論/<9>推定理論とその応用/<10>相関係数・偏相関係数/<11>独立性の検定、属性相関係数(クロス集計) /<12>平均の差の検定/<13>変数のコントロール/<14>～<15>回帰分析の基礎/<16>期末試験	
	多変量解析	基礎的な多変量解析法について、基本的な考え方と主要な計量モデルについて解説し、演習によって習得する。具体的には、重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析、因子分析など）をとりあげる。 <1>～<3>基本的な考え方（関連と因果、三元クロス表の分析、偏相関係数）/<4>～<7>重回帰分析/<8>～<9>分散分析/<10>～<13>因子分析/<14>～<15>パス解析/<16>期末試験	
	質的調査法	さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する。具体的には、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析の他、新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法（内容分析等）などについて解説し、実施にインタビュー調査を行って分析方法を理解し習得する。 <1>質的調査の種類/<2>質的調査のメリット・デメリット/<3>質的調査の妥当性/<4>～<5>研究計画とリサーチ・クエスチョン/<6>リサーチ・クエスチョンのブラッシュアップ/<7>～<9>質的データの分析方法/<10>～<11>最終課題に向けた準備/<12>～<13>質的調査の実際/<14>質的調査と調査倫理/<15>最終課題報告会/<16>まとめと振り返り	
	社会調査実習		専任補充予定

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	憲法I	社会人として必要な憲法の基礎知識を習得し、憲法が政治・経済・社会とどのように関わっているのかを理解する。また、憲法という尺度から社会問題を考える。	
	政治学概論	現代政治学の基礎をテーマとして、より包括的に政治学を理解する。政治学を支える思想的側面をも扱う基礎レベルの講義となる。	
	法学入門	我々が生活する社会環境と法について学ぶ。とくに、経済社会のあり方や企業と我々の生活との関連を法律を通して考える。	
	現代の企業行動	マーケティングの側面から現代企業の行動を読み解くことを目指す。	
	民法I	民法総則、物権法、債権法の基礎を学ぶ。民法の基礎的知識を身につけ、民法総則、物権、債権の概要について理解する。また、社会問題について、民法的な観点から検討する。	
	社会学概論	日本人とは辺境人である。「日本人とは何か」という大きな問いに、著者は正面から応える。常にどこかに「世界の中心」を必要とする辺境の民、それが日本人なのだ。日露戦争から太平洋戦争までは、辺境人が自らの特性を忘れた特異な時期だった。丸山眞男、澤庵、武士道から水戸黄門、養老孟司、マンガまで、多様なテーマを自在に扱いつつ日本を論じる。読み出したら止まらない、日本論の金字塔を一緒に読んでいく。なお、内容理解のため、映像資料を併用する。	
	地域経済概説	地域経済論の入門編として、近年脚光を浴びている、観光振興による地域経済活性化についての諸議論をもとに、地域経済論の学習のため（あるいは、地域社会に貢献したり、自分自身の今後の人生を価値あるものにするため）に必要な、基本的な諸知識、及び、ものの見方や考え方を修得する。	
	微分・積分学の基礎	高校の数IIIレベルの微分・積分をマスターし、さらに、大学初年級の「解析学」への入門をめざす。 <1>数列の極限1/<2>数列の極限2/<3>無限級数1/<4>無限級数2/<5>関数1/<6>関数2/<7>関数の極限1/<8>関数の極限2/<9>中間試験/<10>微分法1/<11>微分法2/<12>いろいろな関数の導関数1/<13>いろいろな関数の導関数2/<14>微分法の応用1/<15>微分法の応用2/<16>期末試験 /<17>積分とその基本的な性質1/<18>積分とその基本的な性質2/<19>積分とその基本的な性質3/<20>積分とその基本的な性質4/<21>簡単な置換積分法・部分積分法1/<22>簡単な置換積分法・部分積分法2/<23>簡単な置換積分法・部分積分法3/<24>簡単な置換積分法・部分積分法4/<25>中間試験/<26>いろいろな関数の積分1/<27>いろいろな関数の積分2/<28>積分の応用1/<29>積分の応用2/<30>積分の応用3/<31>積分の応用4/<32>期末試験	
	物理学の基礎	基礎分野である物理学ではどのように概念をとらえるのか、力学や電磁気学を通じて理解を深める。	
	化学の基礎	化学の基礎原理についてと生活の基礎知識としての化学。原則として高等学校で化学を履修しなかった学生を対象に、大学における学修の入門と位置づけられる基礎的内容を習得させる。 (オムニバス方式/全32回) (290 山崎 慎作/16回) <1>オリエンテーション/<2>(1)物質の構成/<3>(2)粒子の結合/<4>(3)粒子の相対質量と物質質量/<5>(4)物質の三態/<6>(5)気体/<7>(6)溶液/<8>(7)酸と塩基の反応/<9>(8)酸化還元反応/<10>(9)電池と電気分解/<11>(10)典型元素とその化合物/<12>(11)典型元素とその化合物/<13>(12)遷移元素とその化合物/<14>(13)金属イオンの反応/<15>総合演習と予備日/<16>期末試験 (83 藤山 亮治/16回) <17>有機分子の立体的な形を理解するために/<18>(1)炭素の結合/<19>(2)有機分子を理解するための混成軌道/<20>(3)σ結合とπ結合について/<21>(4)有機化合物の構造(官能基と異性体)/<22>(6)アルケンとアルキン多重結合/<23>(6)アルケンとアルキン多重結合/<24>(7)重合と高分子化合物/<25>(8)アルコール/<26>(9)アルデヒドとケトン/<27>(10)炭水化物/<28>(11)カルボン酸とエステル/<29>(12)油脂/<30>(13)アミノ酸/<31>(14)タンパク質、酵素/<32>期末試験	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目	基礎科目	高校生物の再履修として高校生物の内容をひとわり理解する。 (オムニバス方式/全30回) (302 種田 耕二/15回) 1学期-細胞の働き, 細胞膜の性質, 細胞と生物のからだ, 生殖の方法, 動物の生殖と発生, 発生の仕組み, 遺伝の法則, 遺伝の様式, 遺伝子と染色体, 刺激の受容と応答, 神経系の働き, 内部環境の調整 (132 佐々木 邦夫/3回) ガイダンス/動物の多様性(動物の分類と系統)/細胞の構造, 細胞膜の半透性, 光合成, 窒素同化, 細胞分裂, 植物の刺激と反応<2> (106 松井 透/1回) メンデル遺伝, 生殖, 生殖細胞の形成と受精(植物), 植物の多様性と系統<1> (223 岡本 達哉/1回) メンデル遺伝, 生殖, 生殖細胞の形成と受精(植物), 植物の多様性と系統<2> (84 松岡 達臣/1回) 刺激の受容, 筋肉の構造と収縮, 神経系 (57 奥田 一雄/1回) 細胞の構造, 細胞膜の半透性, 光合成, 窒素同化, 細胞分裂, 植物の刺激と反応<1> (123 藤原 滋樹/2回) DNAの構造, DNA複製, 転写と翻訳, タンパク質の機能<1><2> (219 湯浅 創/2回) 代謝, 酵素など<1><2> (130 石川 慎吾/1回) 生物群集, 生物間の関係, 生物群集の遷移, 生物と環境<1> (166 三宅 尚/1回) 生物群集, 生物間の関係, 生物群集の遷移, 生物と環境<2> (267 比嘉 基紀/1回) 生物群集, 生物間の関係, 生物群集の遷移, 生物と環境<3> (93 遠藤 広光/1回) 生物と環境(動物)	オムニバス方式
		人類が住む表層地球と固体地球との関わりを大きなスケールで把握する。 第1学期: 高校地学基礎の範囲を学習し, 第2学期の演習につなげる。 第2学期: 演習問題等を解くことにより第1学期で学んだ事柄を確実に自分のものにするを目標とする。	
		○179 土基 善文 担当クラス 極限の概念の理解と $\epsilon - \delta$ 論法の理解し $\epsilon - \delta$ 論法の理解とそれが利用できることを目指す。	
		○180 小野寺 栄治 担当クラス 数列の極限・関数の極限・連続関数の基本性質についてエプシロン-デルタ論法を用いて厳密に説明できるようになる。	
		○181 大浦 学 担当クラス 高校のときに直感的に理解した微分と積分をエプシロン-デルタ論法を用いて厳密に理解する。 ○74 諸澤 俊介 担当クラス 受講生が一変数関数の微分や積分を理解し, 計算ができることを目指す。	
		1変数関数の微分と積分の基礎を習得し, 関数の連続性の理解を目指す。	
		多変数の微分と積分を理解する。	
		一変数関数の微分と積分と多変数関数の微分と積分について学んでいく。微分と積分の意味を理解し, 正確に計算できるようになり, 授業で学んだ定理などを様々な場面で応用できるようになることを目指す。	
○76 逸見 豊 担当クラス 線形代数学は微分積分学と並んで, 数学の基礎である。授業では線形代数学の中でも行列や数ベクトルを中心に, 理論的側面から学ぶことを目的とする。 ○77 福間 慶明 担当クラス 数ベクトル空間を学ぶ。行列についての基本的概念を理解し, 連立一次方程式をベクトル空間の概念を用いて解く方法も理解する。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	線形代数学概論B	○78 下村 克己 担当クラス 行列と行列式の意味が分かり、計算ができることを目指す。 ○76 逸見 豊 担当クラス 線形代数学は微分積分学と並んで、数学の基礎である。授業では線形代数学の中でも行列や数ベクトルを中心に、応用面を重視しさまざまな計算ができるようになることを目的に学ぶ。	
	論理と集合	○179 土基 善文 担当クラス 数学の基礎となる論理の言葉について、集合のはなしを中心にして講述する。 ・論理についての理解 ・集合の演算についての理解 ・写像についての理解 ・関係についての理解 ○79 野間口 謙太郎 担当クラス 数学の基礎となる論理と集合について講義する。 論理、論理演算についての理解 集合、集合演算についての理解 写像についての理解	
	確率・統計学概論	条件付確率、事象の独立性、確率変数、期待値・分散などの基本的知識の修得を目指す。 ・確率の性質を学ぶ ・条件付確率と事象の独立性の理解 ・確率変数と期待値・分散の理解 ・様々な確率分布の理解	
	物理学概論I	○80 中村 亨 担当クラス 力学、熱学、電磁気学などの古典物理学の基礎的知識を学ぶ。 ○81 津江 保彦 担当クラス ニュートンの3法則を基に、質点や質点系が示す自然界の振る舞いについて理解する。ニュートン力学を学び、ニュートン力学からわかる自然現象や物理学の考え方と方法を理解する。また、物理学の前記分野に関する専門的な知識・技法を身に付ける。	
	物理学概論II	熱の科学と電磁気学の初歩の学修を通して、物理学的世界像を見る。 ・物理学の考え方と方法を理解し、自然科学の基礎として必要な物理学諸分野の中から、熱の科学、電磁気学を学ぶ。 ・近代物理学の一端を垣間見る。 ・専門の基礎となる知識・技法を身につけることを目的とする。	
	化学概論I	○82 柳澤 和道 担当クラス 受講生が、普段何気なく接している物質を科学的に認識する基礎的な知識を習得し、身の回りの現象を化学的な変化として理解する習慣を身につける。環境問題と化学とを結び付け、解決の方策を自ら探る。 ○290 山崎 慎作 担当クラス SI基本単位・物質分子科学・法則と化学史 ○182 岡村 慶 担当クラス 大学で使用する基礎的な化学に関する知識のうち、無機化学の基礎を習得する。	
	化学概論II	○83 藤山 亮治 担当クラス 有機分子の立体的な形を理解し、その中にある電子の挙動について学ぶ。上級有機化学への入門である。共有結合の理解、有機化合物の構造、反応速度と平衡など有機化学の基礎概念を講義する。本講義は基礎有機化学および有機化学I, II, IIIへと連結している。 ○23 立川 明 担当クラス 身のまわりの現象について一般論や間違った情報に惑わされることなく、自ら正しい判断ができるために必要な化学の知識や、チーム基盤学習(TBL)により、論理的思考力、説明力、発問力を身につける。また、分子模型を組み立て、操ることにより、有機化学の学習を続ける上で必要となる三次元的空間認識力を身につけることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	生物学概論I	<p>○291 谷地森 秀二 担当クラス 地球に生きている生物の種数は膨大な数にのぼる。その一方、生物の世界に共通する現象もある。本講義では「多様性と共通性」を念頭に、生物学の基本的な事項を平易に概説する。</p> <p>○84 松岡 達臣 担当クラス まず、DNAやタンパク質などの生命を担う分子構造と機能、生命情報の流れについて基礎的な学習を行う。次のステップでは、細胞分裂の調節機構、がん化のしくみ、細胞小器官の構造と機能などのテーマについて講義を行う。</p> <p>○241 加藤 元海 担当クラス 生物と統計学、動物の適応戦略、動物個体群の動態、生態系の動態、ヒトの生理学など、数学を用いて生物をみる。</p>	
	生物学概論II	<p>○292 富永 麻理 担当クラス ヒトの体の構成成分や生体物質の代謝（合成と分解）を理解し、基礎生化学を習得する。 遺伝子技術を応用した近年の生物学的トピックスについても学ぶ。</p> <p>○219 湯浅 創 授業代表クラス 生命の単位となる細胞の構造と機能を理解する。また、多細胞生物の個体が示す高次の生命活動（細胞周期制御、細胞間相互作用、発生、遺伝など）も、細胞の営みであることについても理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (219 湯浅 創/8回) 〈1〉ガイダンス、タンパク質の構造/〈2〉染色体・DNAの構造/〈3〉DNAからタンパク質へ/〈4〉遺伝子とは何か/〈5〉バイオテクノロジーの基本技術(1)/〈6〉バイオテクノロジーの基本技術(2)/〈7〉分光光度計の話/〈8〉まとめと中間試験 (123 藤原 滋樹/8回) 〈9〉『生物学の基本』（生物の分類と系統、進化、細胞説、生物体のつくりと階層性）/〈10〉『細胞のプロフィール』（多様な細胞の形、細胞小器官の構造と機能、細胞膜の構造と機能）/〈11〉『細胞のプロフィール』（細胞を構成している物質）、『何が細胞の形や機能を決定しているか』（タンパク質の構造と機能）、『タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う』（タンパク質のさまざまな機能(酵素、運搬、ホルモン、受容体、細胞骨格など)）/〈12〉『細胞のプロフィール』（細胞膜の構造と機能続き）、『タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う』（細胞膜に埋め込まれた膜タンパク質の重要な機能）、『細胞が生きて活動していくために』（何をすることもエネルギー、代謝経路のネットワーク）/〈13〉『多細胞生物への道(1)細胞間の情報交換』（細胞接着、細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝える、信号分子による転写の調節）/〈14〉『多細胞生物への道(2)細胞の数を増やす』（細胞周期と体細胞分裂、細胞周期の調節、突然変異とDNA修復機構）/〈15〉『多細胞生物への道(3)発生と分化』（初期発生と器官形成、細胞間のコミュニケーションによる分化のしくみ）/〈16〉期末試験</p>	オムニバス方式
	地球科学概論I	<p>太陽系の中の一惑星である地球について、地球の構成と成り立ちや地球表面および内部で過去から現在まで様々な活動・変動が起こっている地球科学的过程を理解し、説明できるようになる。</p>	
	地球科学概論II	<p>○124 石塚 英男 授業代表クラス グローバルな地球観を学ぶため、自然現象を正しく考察できるようになる。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (124 石塚 英男/11回) 〈1〉履修制限の抽選、はじめに（講義のテーマ、予定、テキスト紹介）/〈6〉海洋底の素顔－調査方法/〈7〉海洋底の素顔－研究成果/〈8〉海洋底の素顔－モデリング/〈9〉プレートテクトニクス-1（プレート運動の実証）/〈10〉プレートテクトニクス-2（プレート運動と地殻変動）/〈11〉プレートテクトニクス（新しい地球観）/〈12〉日本の地質（四国四万十帯：付加体形成のしくみ）/〈13〉世界の地質（南極大陸：地球最古の岩石と自然）/〈14〉地球発達史/〈15〉まとめ (167 中川 昌治/5回) 〈2〉地球の構造と構成物質/〈3〉火山と火成岩/〈4〉地層と堆積岩/〈5〉地下資源/〈16〉期末試験</p> <p>○183 池原 実 担当クラス 46億年の地球史における大陸や海洋の成立・発達プロセスと役割を理解する。 地球史における現代の位置づけを認識するために、地質学的な時間・空間スケールを理解する。 地球規模で生じる気候変動などを考察する上で重要となってくる海洋での様々な現象の実態やその役割を理解する。</p>	オムニバス方式
情報科学概論I	<p>情報科学における基礎分野、特に理論分野を中心に学ぶことで、情報科学の様々な分野を知り、「情報とは何か」と自分自身に問うことができ、日常的に情報科学の視点で物事を捉え、そこから未知の問題を発掘しようとする姿勢や未知の問題に対して情報科学のどの分野の知見が応用できそうか、アタリをつけられる。といった情報科学的センスを養う。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	情報科学概論II	コンピュータのハードウェアの仕組み、情報システムの役割、インタフェースデザインのあり方について理解を目指す。	
	基礎物理学実験	<p>○80 中村 亨 担当クラス 基礎的な物理現象や研究の方法の体験。関連する技術の習得。</p> <p>○115 佐々 浩司 授業代表クラス 先人達が重要な物理法則を実証するために行ってきた基本的な実験の過程を辿ることによって実験的研究の方法を体感するとともに関連する実験技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (115 佐々 浩司/2回) 実験の心得、レポートのまとめ方、データや誤差の取扱い、グラフの描き方など (佐々 浩司・296 山形 英樹/13回) (共同) 計測練習、誤差評価計算練習、グラフ作図演習/2名ずつ1グループが各テーマに分かれて実験を実施。実験テーマは、フックの法則、反発係数、気柱振動、ボイル・シャルルの法則、電気抵抗、ボルダの振子、振れ振子による剛性率、ヤング率の測定、粘性係数、液体の表面張力、光スペクトル、ニュートンリング、回折格子、光の速度、ダイオードの特性、R-C回路の特性、リサージュ図形、フランク・ヘルツの実験、ステファン・ボルツマンの法則/補実験</p>	オムニバス方式・共同方式(一部)
	基礎化学実験	<p>○193 中野 啓二 授業代表クラス 実際に化学実験を行うことにより、化学薬品や実験器具の取り扱い方、実験操作方法について習得する。また実験を通して基礎的な化学反応を理解し、化学実験研究における基本的な考察力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (265 松本 健司/5回) 無機化学実験を担当し、錯イオンや金属イオンの性質を炎色反応や呈色反応などの実験を通じて学習する。 (246 恩田 歩武/5回) 有機化学実験を担当し、官能基の化学的な性質および有機化学反応により性質の異なる化合物が生成することを実験を通じて学習する。 (193 中野 啓二/5回) けん化、重合反応、アミドの合成するとともに、化学物質の毒性調査を行い生活と関わる化学物質についての知識を身に付ける。</p> <p>○197 上田 忠治 授業代表クラス 化学物質の性質や化学変化の観察を通じて、実験に対する基本態度や正しい化学知識を身につける。また化学的な問題解決能力を養成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (197 上田 忠治/5回) 実験を通じて、誤差、精度について学ぶ。金属イオンの特徴および分離に関する基礎的な実験を行う。 (270 波多野 慎悟/5回) レポートの書き方の講義を行い、実験レポート作成を通じて論理的な考え方を身につけていく。また、高分子や金属塩の合成実験を通じ、薬品の取扱い、加熱・ろ過などの基本操作を学ぶ。 (271 藤代 史/5回) 実験を通じて、現象を理解し文章で記述する能力を身につける。特に、光や熱についての簡単な実験を行い、自然科学の基礎に触れる。</p> <p>○109 森岡 克司 担当クラス(集中) 身近な現象を通じて”化学”に慣れ親しみ、化学実験を実際に行うことで、化学薬品や実験器具の取り扱い方及び基本的な実験操作法を習得することを目指す。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎生物 学実験	<p>○131 鈴木 知彦 授業代表クラス 基礎的な生物学の実験・実習を修得することを目的とする。特に教員免許の取得に必要な実験として、中学校や高等学校での実験に不可欠な基礎的な実験技術を体得する。生物の形態の観察法やスケッチ、検索表の使い方に慣れるとともに、計測したデータの統計処理の仕方を学ぶ。生体成分の分析や定量法などの生化学的な実験や生理現象についての定量的な実験の基礎についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (131 鈴木 知彦・130 石川 慎吾・132 佐々木 邦夫・84 松岡 達臣・93 遠藤 広光・223 岡本 達哉・106 松井 透・166 三宅 尚・57 奥田 一雄・205 関田 諭子・241 加藤 元海・133 川村 和夫・123 藤原 滋樹・219 湯浅 創・250 宇田 幸司・251 砂長 毅・267 比嘉 基紀/1回) (共同) <1>合同ガイダンス (石川 慎吾・三宅 尚・比嘉 基紀/2回) (共同) <2>照葉樹林の野外での観察/<3>植物の外部形態の観察・検索表 (松井 透・岡本 達哉/2回) (共同) <4>顕微鏡による植物の構造観察/<5>葉の計測と簡単な統計計算 (奥田 一雄・関田 諭子/2回) (共同) <6>生体染色と原形質分離/<7>植物色素の分離 (松岡 達臣/2回) <8>メダカの呼吸運動と温度/<9>ゾウリムシの食胞形成 (川村 和夫・藤原 滋樹・砂長 毅/2回) (共同) <10>タンパク質の定量法/<11>動物組織の染色法、酵素の活性染色法 (佐々木 邦夫・遠藤 広光/2回) (共同) <12>魚類の種の査定法/<13>魚類の形態観察とスケッチ (湯浅 創・宇田 幸司・鈴木 和彦/2回) (共同) <14>DNAの抽出と電気泳動I/<15>DNAの抽出と電気泳動II</p> <p>○291 谷地森 秀二 授業代表クラス (集中) 1. 鳥類の外部形態と内蔵の観察, 羽毛標本作製過程の学習や中型哺乳動物の外部形態と内蔵の観察, 骨格標本作製過程の学習また, 生態と形態が深く関連していることを, のいち動物公園において生体を観察して確認する。 2. 植物観察とスケッチ, 植物の採集と標本の作成や植生調査の方法と樹冠投影図の作成など植物分類の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (291 谷地森 秀二/15回) 1. 鳥類の外部形態と内蔵の観察, 羽毛標本作製過程の学習/2. 中型哺乳動物の外部形態と内蔵の観察, 骨格標本作製過程の学習/3. 生態と形態が深く関連していることを, のいち動物公園において生体を観察して確認する。 (297 鴻上 泰/15回) 1. 植物観察とスケッチ, 植物の採集と標本の作成/2. 植生調査の方法と樹冠投影図の作成/3. 植物研究における植物園の役割を牧野植物園において学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	基礎地学 実験	<p>○254 川畑 博 授業代表クラス 地球規模スケールの現象や地球史的スケールの現象を理解する。また、地球構成物質の各単位を理解し、実体の観察から帰納的な結論を得る方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (254 川畑 博/7回) 〈1〉オリエンテーション/〈2〉生痕化石の観察/〈3〉岩石の肉眼観察/〈6〉地質図学/〈7〉測色学実習/〈14〉次元とスケーリング則/〈16〉まとめ (220 松岡 裕美/1回) 〈4〉粒度表の作成と津波堆積物の観察 (268 藤内 智士/1回) 〈5〉地形図の種類と読図 (104 近藤 康生/1回) 〈8〉示準化石の観察 (167 中川 昌治/1回) 〈9〉鉱物の肉眼鑑定 (221 橋本 善孝/1回) 〈10〉断層岩の観察と記載 (126 安田 尚登/1回) 〈10〉断層岩の観察と記載 (125 小玉 一人/1回) 〈12〉古地磁気学実習 (114 横山 俊治/1回) 〈13〉空中写真判読 (124 石塚 英男/1回) 〈15〉偏光顕微鏡による岩石の観察</p> <p>○268 藤内 智士 授業代表クラス 地球規模スケールの現象や地球史的スケールの現象を理解する。また、地球構成物質の各単位を理解し、実体の観察から帰納的な結論を得る方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (268 藤内 智士/6回) 〈1〉オリエンテーション/〈4〉野外調査の基礎、河川堆積物の観察/〈6〉地形図の種類と読図/〈8〉地質図学/〈13〉測色学実習/〈16〉まとめ (122 村上 英記/1回) 〈2〉次元とスケーリング則 (167 中川 昌治/1回) 〈3〉鉱物の肉眼鑑定 (254 川畑 博/1回) 〈5〉岩石の肉眼鑑定 (114 横山 俊治/1回) 〈7〉空中写真判読 (104 近藤 康生/1回) 〈9〉示準化石の観察 (220 松岡 裕美/1回) 〈10〉粗粒堆積物観察・粒度分析 (221 橋本 善孝/1回) 〈11〉断層岩の観察と記載 (126 安田 尚登/1回) 〈12〉海底堆積物・コア観察 (143 臼井 朗/1回) 〈14〉海底資源物質の観察 (125 小玉 一人/1回) 〈15〉古地磁気学実習</p>	オムニバス 方式
	海洋生物 学基礎実 習	<p>海洋生物に関して、題材を身近なところに求め大局的な基礎研究をこころがけ、フィールドに出て観察から始める。そして、海洋生物を物として捉えず、環境とともに時空間的に変化する彼らの生き様を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (116 木下 泉/12回) 実習の説明及び諸注意/海洋観測データ整理/魚卵・仔稚魚の同定(魚類初期生活史学) 1/魚卵・仔稚魚の同定(魚類初期生活史学) 2/レポート発表、アンケート記入 (164 伊谷 行/5回) 干潟域の生物/採集物観察・同定 (211 平岡 雅規/5回) 海藻の採集/海藻組織の観察 (212 齊藤 知己/5回) 海域でのベントスの同定・海産脊椎動物学(魚類除く)/ウミガメの繁殖研究と保護活動 (木下 泉・齊藤 知己/3回) (共同) 土佐湾沖合での魚卵・仔稚魚とベントスの採集および海洋観測</p>	オムニバス 方式・共同 方式(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 基礎科目	環食同源論入門	<p>自然環境の維持や保全と安全な食料の生産とは相反するものではなく、繋がっていることを基本概念とした授業で、環境への負荷を軽減しながら食糧生産をする方法の研究の重要性や食糧生産においても環境への負荷がかかっていることを理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (60 益本 俊郎/4回) <1>環食同源とは 環境保全と食料生産の両立。/<4>環食同源の中の水の役割〜ちょっと変わった水環境の修復技術〜/<6>水産分野の環食同源用。/<15>ふりかえりとレポート作成 (209 深田 陽久/1回) <2>農業資材をリサイクルして付加価値のある養殖魚を創出。 (99 曳地 康史/1回) <3>減農薬につながる植物の生体防御機構の解明。 (112 藤原 拓/1回) <5>施設園芸における環食同源。 (5 受田 浩之/1回) <7>微細藻類の培養を基軸にした環食同源コンセプトの実践。 (189 手林 慎一/1回) <8>廃棄農業資材を利用した害虫の駆除。 (89 尾形 凡生/1回) <9>中山間地域の特性を活かした果樹栽培技術。 (22 永田 信治/1回) <10>四国の暮らしと文化から知る「環境と食」〜それを支える微生物の役割。 (218 池島 耕/1回) <11>熱帯のエビ生産と環境：エビはどこから、どうやって来る？ (120 後藤 純一/1回) <12>バイオマスのエネルギー利用の可能性。 (88 大谷 和弘/1回) <13>食品の健康増進機能を考える〜薬食同源と環境〜。 (207 久保田 賢/1回) <14>食と健康。</p>	オムニバス方式
	微生物学概論	本講義では、まず、微生物学の歴史について解説する。続いて、微生物とはどのような生物かを具体的に示し、微生物の恐ろしい点や有益な点についても解説する。	
	植物遺伝学概論	遺伝学の基礎を十分理解し、栽培植物の遺伝や育種の概要を把握する。また、栽培植物の品種改良における各種の方法を遺伝学に基づいて解説する。	
	植物生態学概論	様々な植物の成長や繁殖に関する戦略を知ることによって、学生が身近な植物の成長様式に疑問を持つことが出来るようになり、その問題に対する解を見つけることが出来るようになることを目指す。	
	分析化学概論	生物系の学生を対象とし、定量分析に関わる基礎概念並びに理論を習得する。	
	生命の科学	生き物の仕組みを科学的に解説し、「生命」現象とは何かを理解するとともに生物学と化学の関連性を理解する。また、マスメディアで取り上げられている健康や環境などに関する話題について、その原理や現象について平易に解説するとともに社会的な問題について考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 共通専門科目	基礎科目 遺伝資源の利用と保全	<p>遺伝子組換えなど新しい技術による生物育種と生物生産について、リスクコミュニケーションを含めた社会に理解される科学技術の有り方や、生物育種のもととなる野生生物について、遺伝学的見地からその保全を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (22 永田 信治/8回) <1>オリエンテーションと概説<2>遺伝子組換え技術とその利用<3>遺伝子組換え作物と安全性評価<4>遺伝子資源、生物育種の問題点<5>食品生産におけるリスク<6>様々なリスクの評価とコミュニケーション<7>遺伝子資源の活用とその未来<8>前半の講義についてのレポートの作成、提出 (85 関 伸吾/8回) <9>「生物多様性と遺伝資源」野生集団の中で、生物多様性の重要性、その中での遺伝資源の存在意義について<10>「遺伝的多様性の維持機構」野生集団の中で、遺伝的多様性がどのように維持されているのか<11>「地理的分化」同じ種であっても、地理的に性格が違う。それがもたらす問題点について<12>「近親交配、メタ集団」近親交配の何が問題なのか？メタ集団とは何か？その意味、問題点について<13>「メタ集団・雑種化（異系交配弱勢）」メタ集団と地理的分化の違いについて概説し、保全について<14>「外来種問題（遺伝的攪乱）」外来種の侵入によりもたらされる遺伝的攪乱の問題について<15>「野生集団の遺伝的保全」野生集団を保全する方法とは？遺伝学的見地を含めた野生集団保全の方法について<16>後半の講義についてのレポートの作成、提出</p>	オムニバス方式	
	基礎科目 植物バイオテクノロジー概論	<p>現代の植物バイオテクノロジーの概要を把握し、その中でも特に遺伝子組み換えによる形質転換および組織培養による個体作出にかかわる基本的な生物学的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (89 尾形 凡生/12回) <1>イントロダクション：バイオテクノロジーとは何か「生物工学には何ができるのか」、生物学史から学ぶ(1)「ヒトはいかにして生命科学に向き合ったか」－生物学の発展と衰退を左右する科学者の態度<2>生物学史から学ぶ(2)「メンデルは何に気づき、何を示そうとしたか」/<3>生物学史から学ぶ(3)「ワトソンとクリック」－若者達が世界を震わせたわずか2ページの論文/<4>生物学史から学ぶ(4)「セントラルドグマ」－生命科学のパラダイムシフト(1回目)複製、転写/<5>生物学史から学ぶ(5)「セントラルドグマ」－生命科学のパラダイムシフト(2回目)翻訳/<6>生物学史から学ぶ(6)「PCR遺伝子を解読するための工学的進歩」/<7>遺伝子組み換えの基本技術(1)/<8>遺伝子組み換えの基本技術(2)/<13>植物組織培養「1細胞あれば十分だ。あとは増やしてみせる－細胞増殖技術の進歩の歴史」/<14>植物組織培養「遺伝子組み換え作物の作出工程への植物組織培養工学の関わり」/<15>遺伝子組み換え作物の実用化、遺伝子組み換えの規則・法律「なぜターミネーター遺伝子の獲得を目指すか」/<16>期末試験 (99 曳地 康史/4回) <9>表現型から遺伝子を解析する「遺伝子が生命のいとなみ方を決める(1)」/<10>表現型から遺伝子を解析する「遺伝子が生命のいとなみ方を決める(2)」/<11>遺伝子から個体の表現型を解析する「植物を設計する(1)」/<12>遺伝子から個体の表現型を解析する「植物を設計する(2)」</p>	オムニバス方式	
	教育学概論D	教育の意義、意味、歴史・思想、子どもの社会的発達、学校教育など「教育」に関する基本的な事柄を学び、今日の教育現象・教育問題について考察していくための視角を身につける。		
	教育心理学概論B	教育心理学に関する基本的概念について理解し、学校教育を心理学的に考察する視座を得ることを目的とする。		
	教育心理学概論C	教育心理学に関する基本的概念について理解し、学校教育を心理学的に考察する視座を得ることを目的とする。		
教育心理学概論D	今日の子どもの発達状況や学校教育に関わる課題に興味をもち、教育心理学的な視点から探究する態度を身に付けることで、子どもの発達段階を踏まえた教育指導ができるようになる基礎的力を育てる。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 共通専門科目 キャリア形成支援科目	CB I 実習I	長期のインターンシップを通して、「働くこと」の本質理解や実習後に各自が取り組むべき社会的課題を探究するとともに、【察する力】や【組織への貢献】【社会への貢献】【状況分析力】【状況対応力】などの能力形成・向上を目指す。	
	CB I 実習II	長期のインターンシップを通して、「働くこと」の本質理解と実習後に各自が取り組むべき社会的課題を探究するとともに、【察する力】や【組織への貢献】、【社会への貢献】、【状況分析力】、【状況対応力】などの能力形成・向上を目指す。	
	CB I 実習III	長期のインターンシップを通して、「働くこと」の本質理解と実習後に各自が取り組むべき社会的課題を探究するとともに、【察する力】や【組織への貢献】、【社会への貢献】、【状況分析力】、【状況対応力】などの能力形成・向上を目指す。	
	CB I 実習IV	長期のインターンシップを通して、「働くこと」の本質理解と実習後に各自が取り組むべき社会的課題を探究するとともに、【察する力】や【組織への貢献】、【社会への貢献】、【状況分析力】、【状況対応力】などの能力形成・向上を目指す。	
	CB I キャリア開発講座A	CB I 実習でインターン中の学生に対して、企業・組織に関する理論的なフォローアップを行う。各学生の实習自体も題材にして働くことの意味や、企業組織・企業活動についての認識を深めることを目的とする。	
	CB I キャリア開発講座B	CB I 実習でインターン中の学生に対して、企業・組織に関する理論的なフォローアップを行う。各学生の实習自体も題材にして働くことの意味や、企業組織・企業活動についての認識を深めることを目的とする。	
	CB I 自己分析	CB I 実習成果の振り返りと習得素養の内面化（落とし込み）として、実習の内省化をし、インターンシップ成果報告をする。また各自が取り組む社会的課題について検討し、各自の社会的課題へのアクションプランの報告やCB I 実習成果のまとめと社会的課題アクションプラン報告のレポート化などを行う。	
	CB I 企画立案	本授業では、長期社会協働インターンシップ（CB I）に臨むにあたって必要となる資質、「働くこと」の本質理解のほか、【前向きに行動する力】や【謙虚に受容する力】、【チームワーク力】、【信念を持ち続ける力】、【構造的な理解力】、【論理的な表現力】などの各能力の向上を目指す。これらの資質は、21世紀の社会で活躍できる人材に求められているものでもある。 (③ 池田 啓実・④ 鈴木 啓之・⑦ 大石 達良・70 高橋 俊・23 立川 明/16回) ガイダンス・第1回すじなし屋@客人・受講生/第2回すじなし屋@客人・受講生/合宿/課題Ⅰの仮説と検証方法素案の共有と素案の検討/課題Ⅰの仮説検証実践①の報告と実践のPDCAチェック・課題Ⅰの仮説検証実践②の検討/課題Ⅰの仮説検証実践②の実施経過報告と実践計画のバージョンアップ/課題Ⅰの仮説検証実践②の報告と実践のPDCAチェック/課題Ⅱの検討成果の報告と実践のPDCAチェック/課題Ⅲの報告とバージョンアップの相互支援/課題Ⅲ改訂版の報告・首都圏CB I実習に関する相談会/課題Ⅳ-①の報告/課題Ⅳ-②の報告/首都圏CB I実習マッチングバスツアーの準備/総括報告/総括報告の資料提出	共同方式
	キャリアパス演習ープライベートデザイン講座ー	人の数だけ違う、人生の私的な部分を考える。 仕事とプライベートの双方が充実してこそ、健全な社会人として生活できるのではないかと人生の分岐点をシミュレーションし、他者の選択との比較を通して自らの個性を浮き彫りにし、自分自身が幸せだと思える生き方を探る。	
	チームワークを考える	社会に出たとき、すぐに求められる能力、課題解決力、コミュニケーション力、マネジメント力、自己管理力ワークの要請を目指す。グループワークを円滑に進め、チームとして機能することを促進するために必要なファシリテーション力を養成していく。	
地域政策演習（ふるさと活性ゼミ）	「地域」の課題探究および発展の方策について発表を行い議論することで「出身地」あるいは別の地域について理解と関心を深めながら社会的な知見を広める。また、集団での「考察」や「討論」を重視することで、高年次に結びつく研究や進路（就職や院進学）に有利な「討論や面接に強い」学生になるための初期条件の形成や、多様な価値観や思考を共有することでより良い創造を行えるという感性を身につけた学生になることなどを旨とする。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	日本語	日本語I	スピーチ、討論、調査報告、レジュメ、レポートの作成、発表など、さまざまな言語行動場面で使われる適切な文型表現を学習し、各テーマで自ら調べ考えたことを文章・口頭で表現できるように重点をおいている授業である。	
		日本語II	絵や文字、図、表、映像などを用いて4技能を学んでいく。 方法として、毎時間2つの語彙を使って、作文を書き、前の時間で書いた作文をクラスで添削する。また、一人が写真の説明をし、その説明を聞いて、何のことが当てたり、「仕事の名前」を当てる。グループ活動として、絵を見て語彙を考えることや、漢字の「へん」と「つくり」を合わせて創作漢字を作成し発表する。日本語文字クイズとしてグループで同じ意味の語彙を考え発表する。	
		日本語III	論理的な文章を書く力を養うとともに、自分の考え、意見を論理的に発表する能力の育成を目標とする。	
		日本語IV	ビジネス文書の論理的展開に注目し、実務に役立つ文章作成技能についての知識と技能の基本が習得できる。ビジネス日本語のコミュニケーション・スキルを向上させる。	
	日本事情	日本事情I	高知発「日本事情」として、高知から日本を、そして自国事情を考える。	
		日本事情II	読んで理解し、自分の言葉でまとめて表現する。 「今、日本で何が起きているのか。その原因と解決策は・・・。そしてそれについて自分は、どう考えるのか」を自分の言葉で表現する。	
		日本事情III	日本人とのコミュニケーションや日本社会の諸問題について、講義・文献の講読・発表・ディスカッションなどを通して多面的に考察できるようになる。	
		日本事情IV	日本社会や日本文化（現代社会の諸問題および季節の行事やマナーなど）について、講義・文献の講読・発表・ディスカッションなどを通して多面的に考察できるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(地域協働学部地域協働学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	必 修 科 目	総 合 科 目	<p>産業振興を基盤とする地域再生のキーである「地域協働」の意義と役割に関する研究の到達点と課題について、専任教員が担当する専門選択科目の視点からレクチャーし、学部における専門的学びの全体像を俯瞰する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① (① 上田 健作・④ 鈴木 啓之/1回) (共同) 公的な領域における協働、特に非営利組織と行政との地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>② (⑬ 俣野 秀典/1回) 知識をいかに共有・活用し、新しい知識に結びつけるかという視点から、地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>③ (⑧ 内田 純一/1回) 住民を主体とする地域組織等が行う公民館活動や自治活動の観点から地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>④ (③ 池田 啓実/1回) 組織学習論の視点から、組織のイノベーションに不可欠な組織内及び組織間の学習における協働の意義と役割について講義する。</p> <p>⑤ (⑬ 霜浦 森平・⑥ 市川 昌広/1回) (共同) 第1次産業を中心とする地域資源の管理並びにそれらを活用した六次産業化の推進における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑥ (⑩ 石筒 寛/1回) 地域産業政策の策定における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑦ (⑰ 今城 逸雄/1回) 商店街振興を中心に中心市街地の活性化策における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑧ (⑫ 吉岡 一洋/1回) 地域特産品等のデザイン策定における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑨ (⑭ 中澤 純治/1回) 産業間協働の成功例を示しながら、地域産業振興における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑩ (② 辻田 宏・⑯ 中村 哲也/1回) (共同) 地域スポーツ振興の地域再生・活性化における意義並びに地域スポーツ振興における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑪ (⑨ 玉里 恵美子/1回) 地域福祉の充実における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑫ (⑮ 大槻 知史・⑳ 須藤 順/1回) (共同) コミュニティでのソーシャルキャピタルの形成及びコミュニティ・ビジネスの形成における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑬ (⑦ 大石 達良/1回) 企業が国際的にビジネス展開する際の企業間における協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑭ (⑮大槻 知史/1回) 地域防災の推進における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p> <p>⑮ (⑤ 受田 浩之/1回) 高知県でのフードビジネス振興における地域協働の意義と役割についてレクチャーする。</p>	専任教員によるオムニバス方式共同方式(一部)	
			産業論	戦後の経済発展とグローバル化のもとで地域経済は近年急速に変化しつつあり、産業構造や貿易形態、企業のあり方も著しい変貌を遂げつつある。ここでは、地域経済を捉える新たな視点である地域経済循環の概念を学び、高知県において特徴的な農業及び企業誘致を行った半導体産業という産業を取り上げ、地域経済に与える影響、地域産業構造の変化、企業行動の変容等を、理論・統計データを通じて検討することにより、地域経済が直面する産業構造の変化やグローバルな競争、またそれらが高知県に及ぼす影響と今後の地域経済のあり方について包括的に学ぶ。	
			地域社会学概論	地域社会の構造と機能について、農村社会学と都市社会学の基礎的な知見について解説し、理解を深める。本授業では、特に日本の農村社会学の基本的な理論であるイエ・ムラ理論について解説し、それによって日本の農村社会の構造について理解を深め、過疎化や高齢化によって農村がどのように変容し、またどのような課題を抱えているのかを具体的な事例に沿いながら理解していく。さらには、過疎地域における生活問題や地域再生の課題についても解説し、地域協働活動を行っていくための基礎知識を習得する。	
			地域組織論	受講生は、地域という場において人々が織りなす社会的な関係（地域生活における組織の必要性）の意義について深く考え、地域における諸組織の主体的力量形成と相互発達のあり方について理解する。具体的には、人々が意識的に参画し、生活文化の協同的再創造としての地域づくり実践を広く取り上げながら、地域組織の意義と今日的可能性、地域組織の歴史的理解、地域組織の多様性と重層性、地域組織と行政、地域組織の主体形成と相互発達、地域組織を支援する専門的職員などに関する講義を行い、合わせてグループ活動を取り入れ、地域協働を担う基礎的能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	プロジェクトマネジメント演習	<p>地域課題解決に向けた地域協働プロジェクトに関する具体的な事例を参考に地域協働プロジェクトにおけるP D C Aの要諦を学習する。特に、点検・評価を視野に入れた単年度及び中長期事業計画の策定方法に重点を置いて学習することで、プロジェクトマネジメントにおける点検・評価を織り込んだ計画策定の重要性を理解する。第4回から第15回までの授業では、(1)事例を基にしたレクチャー及び演習課題提起、(2)事業計画策定演習、(3)プレゼンによる演習成果の検証の順で行う。演習及びプレゼンはグループワーク(1グループ6名程度)によって進める。成績評価は、レポート(5回)によって行う。</p> <p>①(⑪ 松本 明/3回) 地域環境計画を題材に地域協働プロジェクトにおけるP D C Aの全体像を理解する。</p> <p>②(⑬ 霜浦 森平/3回) 四万十川流域における農村ツーリズムによる6次産業化事業を事例として、地域協働プロジェクトにおけるP D C Aの要諦を学ぶ。</p> <p>③(⑳ 須藤 順/3回) 地域資源を活用した6次産業化による食料品開発、販路開拓事業(株式会社「四万十ドラマ」<高知県四万十町>)を事例として、地域協働による商品開発プロジェクトにおけるP D C Aの要諦を学ぶ。</p> <p>④(① 上田 健作/3回) 「集落活動センター」(高知県仁淀川町長者地域及び香南市西川地区)による地域イベント事業を事例として、N P O・行政の協働による地域協働プロジェクトのP D C Aについて要諦を学ぶ。</p> <p>⑤(⑮大槻 知史/3回) 高知県における自主防災組織等による地域防災事業を事例として、地域協働プロジェクトにおけるP D C Aの要諦を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	地域協働マネジメント演習 I	<p>高知県をはじめとして日本の地方圏では、少子高齢化、人口減少、地域産業の停滞といった厳しい状況が同時に進行しており、これらは中山間地域だけでなく、高知市周辺部においても深刻である。本授業では、1、2年生次において実施した実習とそれに基づく調査研究の経験や他の地域協働マネジメント分野の授業などを踏まえ、行政や地域住民の助言を得ながら、地域が抱える様々な課題に対して、原因や背景を分析する。本授業は「地域協働マネジメント実習」を担当する教員が実習先地域(6箇所)において、地域住民も受講可能な方式で開催する。担当体制は、1実習先につき2名(計12名)の教員を配置する。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行い、かつ互いの専門性を補い合うことで指導効果を高める。</p>	専任教員による共同方式 専任補充予定
	地域協働マネジメント演習 II	<p>「地域協働マネジメント演習 I」を通じて得られた地域の課題分析の結果を踏まえて、学生が活動を行う地域で、学生、教員、地域住民が参加するワークショップを開催する。各地域が有する特性や資源の経済的、社会的価値の考察、地域内及び地域間での情報の共有・蓄積方法の検討を行い、課題解決に向けたアクションプランを3者協働で立案する。また、3年生第2学期に実施する「教えるプロジェクト実習」のための必要な地域ニーズの収集・検討を行う。本授業は「地域協働マネジメント実習」を担当する教員が実習先地域(6箇所)において、地域住民も受講可能な方式で開催する。担当体制は、1実習先につき2名(計12名)の教員を配置する。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行い、かつ互いの専門性を補い合うことで指導効果を高める。</p>	専任教員による共同方式 専任補充予定
専門科目	必修科目	演習科目	地域協働研究 I
		<p>「課題探求実践セミナー」及び「地域理解実習」で活動を行ったフィールドに関連して、経済・産業構造、生活・社会環境、各種活動に関わる団体や組織(地域主体)の特性などの分析を行い、地域が抱える課題の本質的な原因や構造を理解する。本演習では、ディスカッションのほか、研究論文作成、個別面談を実施し、1年間の地域協働の学びを総括する。クラスは、6クラス(1クラス10名)を設ける。クラスは、1年次第2学期に実施する「地域理解実習」クラスの担当教員が2名1組で1クラスを担当する。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行い、かつ互いに専門性を補い合うことで指導効果を高める。</p> <p>(① 上田 健作) N P Oと行政の協働による地域課題解決の視点</p> <p>(② 辻田 宏) 地域スポーツ振興政策及び健康スポーツ推進による地域振興の視点</p> <p>(③ 池田 啓実) 地域協働を創出する組織学習の視点</p> <p>(④ 鈴木 啓之) 住民と行政の協働による地域課題解決の視点</p> <p>(⑤ 受田 浩之) 地域協働による食料品開発及びフードビジネス人材育成の視点</p> <p>(⑥ 市川 昌広) 地域資源管理に基づく資源活用による農村振興の視点</p> <p>(⑦ 大石 達良) 地域資源を活用した国際ビジネス展開の視点</p> <p>(⑧ 内田 純一) 公民館活動及び住民自治活動を通じた地域協働創出の視点</p> <p>(⑨ 玉里 恵美子) 地域協働による地域福祉の増進の視点</p> <p>(⑩ 石筒 覚) 地域資源を活かした6次産業化を推進する地域産業政策の視点</p> <p>(⑫ 吉岡 一洋) 意匠及びデザインを地域商品及び地域の広報に活用する視点</p> <p>(⑬ 霜浦 森平) 6次産業化による地域資源を活かした商品開発及び観光開発の視点</p> <p>(⑭ 中澤 純治) 地域資源を活かした新ビジネス及び農村ツーリズムの推進による地域産業振興の視点</p> <p>(⑮ 大槻 知史) ソーシャルキャピタルの醸成による地域協働創出の視点</p> <p>(⑯ 中村 哲也) 地域スポーツ団体等の地域協働による地域振興の視点</p> <p>(⑰ 今城 逸雄) 地域協働による中心商店街活性化の視点</p> <p>(⑱ 侯野 秀典) 大学の知的資源等を活用した産官学民協働による地域振興の視点</p> <p>(⑲ 須藤 順) ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスの創出によるコミュニティ振興の視点</p> <p>(⑳ 湊 邦生) 東アジアにおける地域社会比較を踏まえた地方開発の視点</p> <p>(㉑ 齊藤 雅洋) 社会教育を通じて地域協働を担う地域主体を形成するという視点</p>	専任教員による共同方式 専任補充予定

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	必 修 科 目	地域協働研究Ⅱ	「地域協働企画立案実習」及び「事業企画プロジェクト実習」で活動を行ったフィールドにおける経済・産業構造、生活・社会環境、地域主体特性などを踏まえて、地域が抱える課題の本質的な原因や構造を理解した上で、課題解決に向けた方策を理論的に検討する。本演習では、ディスカッションのほか、研究論文作成、個別面談を実施し、1年間の地域協働の学びを総括する。本授業のクラスは、「地域協働企画立案実習」及び「事業企画プロジェクト実習」のクラス(定員10名)と同じ学生集団で編成する。クラスは、「地域協働企画立案実習」及び「事業企画プロジェクト実習」の担当教員(2名)が担当する。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行い、かつ互いに専門性を補い合うことで指導効果を高める。(① 上田 健作・② 辻田 宏・③ 池田 啓実・④ 鈴木 啓之・⑤ 受田 浩之・⑥ 市川 昌広・⑦ 大石 達良・⑧ 内田 純一・⑨ 玉里 恵美子・⑩ 石筒 覚・⑪ 松本 明・⑫ 吉岡 一洋・⑬ 霜浦 森平・⑭ 中澤 純治・⑮ 大槻 知史・⑯ 中村 哲也・⑰ 今城 逸雄・⑱ 俣野 秀典・⑲ 須藤 順・⑳ 湊 邦生・㉑ 齊藤 雅洋)。なお、(⑪ 松本 明)は、地域計画と地域の環境資源を活かした新ビジネスの創出の視点から指導を行う。	専任教員による共同方式 専任補充予定
		地域協働研究Ⅲ	「地域協働マネジメント実習」及び「教えるプロジェクト実習」でのフィールドにおける課題の解決に向けた方策を理論的に構築する。演習では、ディスカッションのほか、研究論文作成、個別面談を実施し、1年間の地域協働の学びを総括する。本授業のクラスは、「地域協働マネジメント実習」及び「教えるプロジェクト実習」のクラス(定員10名)と同じ学生集団で編成する。クラスは、「地域協働マネジメント実習」及び「教えるプロジェクト実習」の担当教員(2名)が担当する。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行い、かつ互いに専門性を補い合うことで指導効果を高める。(① 上田 健作・② 辻田 宏・③ 池田 啓実・④ 鈴木 啓之・⑤ 受田 浩之・⑥ 市川 昌広・⑦ 大石 達良・⑧ 内田 純一・⑨ 玉里 恵美子・⑩ 石筒 覚・⑪ 松本 明・⑫ 吉岡 一洋・⑬ 霜浦 森平・⑭ 中澤 純治・⑮ 大槻 知史・⑯ 中村 哲也・⑰ 今城 逸雄・⑱ 俣野 秀典・⑲ 須藤 順・⑳ 湊 邦生・㉑ 齊藤 雅洋)	専任教員による共同方式 専任補充予定
		地域協働実践・卒業研究	3年次までに行ってきた実習及び「地域協働マネジメント分野」、「地域産業分野」、「地域生活分野」で受講した内容を踏まえて、地域協働型プロジェクトの企画立案を行い、それを実践する。プロジェクトでは、協働パートナーとなる地域の主体の特性を理解した上で、地域が有する様々な資源を活用できるための協働の組織化を行う。卒業研究では、地域協働実践を通じて個人の知識がより高次の知識へと発展するプロセスを理論化し、各地域における地域再生・発展のためのエッセンスを明らかにする。この「プロジェクト実施」及び「卒業研究」を通じて、「地域協働マネジメント力」を完成させるとともに、「最後の関所」となる卒業判定を行う。本授業のクラスは、3年次の「地域協働研究Ⅲ」と同じクラス(定員10名)で編成する。担当教員(2名)も同一担当者をもって当てる。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行い、かつ互いに専門性を補い合うことで指導効果を高める。(① 上田 健作・② 辻田 宏・③ 池田 啓実・④ 鈴木 啓之・⑤ 受田 浩之・⑥ 市川 昌広・⑦ 大石 達良・⑧ 内田 純一・⑨ 玉里 恵美子・⑩ 石筒 覚・⑪ 松本 明・⑫ 吉岡 一洋・⑬ 霜浦 森平・⑭ 中澤 純治・⑮ 大槻 知史・⑯ 中村 哲也・⑰ 今城 逸雄・⑱ 俣野 秀典・⑲ 須藤 順・⑳ 湊 邦生・㉑ 齊藤 雅洋)	専任教員による共同方式 専任補充予定
		地域理解実習	「地域理解実習」では、「地域協働型産業人材」の4類型に対応する実習先(12箇所)で地域の特性理解を目的としたサービスマーケティング及び関係者へのヒアリングを通じて、地域の特性と課題及びその関係性を理解・分析し、グループワークによって共有を行う。実習は授業61回分(122時間)で行う。実習の内訳は、事前・中間・事後指導(58時間)と現地研修(64時間)とする。現地研修の都合上、土日開講も行うので、集中開講形式とする。1クラス6名以内で12クラス編成する。クラスは、原則、学生の希望選択によって決定する。1クラスに1名の専任教員(計12名)を配置し、事前学習・実習・事後学習を指導する。専任教員全員で学年共通の地域理解実習プログラムを策定し、実習担当教員は、それを基にそれぞれの専門的視点を活かして実習指導を行う。	専任教員による共同方式 専任補充予定

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	必 修 科 目	実 習 科 目	<p>「地域協働企画立案実習」では、1年次に履修した「企画立案事業計画基礎演習」又は「非営利組織経営基礎演習」において修得した知識を活用して次の実習を行う。「地域協働型産業人材」の4類型ごとに設けられた6箇所の実習先において、地域課題を探求・理解するとともに、資源を発掘し、それらを活用するための多様な企画を立案するサービスマーケティング及びPBLを通じて、課題解決に向けて活動する意味を考える。実習は授業60回分（120時間）で行う。実習の内訳は、事前・中間・事後指導（60時間）と現地研修（60時間）とする。現地研修の都合上、土日開講も行うので、集中開講形式とする。1クラス10名を6クラス編成する。1クラスに2名（計12名）の専任教員を配置し、この2名が事前学習・実習・事後学習を指導する。専任教員全員で学年共通の実習プログラムを策定し、それを基に、実習担当教員が各々の専門的視点を活かして実習指導を行う。</p> <p>(1) 上田 健作) NPOと行政の協働による地域振興イベント等の企画立案指導 (2) 辻田 宏) 地域スポーツ振興及び健康スポーツ推進のための企画立案指導 (3) 池田 啓実) 地域協働による産業振興策及び協働型人材育成事業の企画立案指導 (4) 鈴木 啓之) 住民と行政の協働による防災活動及び生きがい作り活動の企画立案指導 (5) 受田 浩之) 食料品開発及びフードビジネス人材育成事業の企画立案指導 (6) 市川 昌広) 地域資源管理に基づく資源活用プロジェクトの企画立案指導 (7) 大石 達良) 地域資源を活用した国際ビジネス展開の企画立案指導 (8) 内田 純一) 地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育のための企画立案指導 (9) 玉里 恵美子) 地域資源を活かした福祉サービス開発及び仕組みづくりの企画立案指導 (10) 石筒 覚) 地域資源を活かした地域産業振興策に関する企画立案指導 (11) 松本 明) 地域の環境資源を活かした新ビジネス創出の企画立案指導 (12) 吉岡 一洋) 地域商品及び地域イベント等を広報するための意匠及びデザインの企画立案指導 (13) 霜浦 森平) 地域資源を活かした商品開発及び観光開発の企画立案指導 (14) 中澤 純治) 地域資源を活かした新ビジネス創出及び農村ツーリズムの企画立案指導 (15) 大槻 知史) ソーシャルキャピタルを醸成する地域防災活動及び防災関連商品開発の企画立案指導 (16) 中村 哲也) 地域スポーツ団体等による地域協働事業の企画立案指導 (17) 今城 逸雄) イベント等を通じた中心商店街活性化事業の企画立案指導 (18) 侯野 秀典) 大学の知的資源等を活用した産学官民協働事業の企画立案指導 (19) 須藤 順) 地域資源を活かした商品開発、観光開発、ソーシャルビジネス創出の企画立案指導 (20) 湊 邦生) 東アジアという視野に基づく土地等の地域資源活用に関する企画立案指導 (21) 齊藤 雅洋) 地域の自然環境及び文化的資源を活かして地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育のための企画立案指導</p>	専任教員による共同方式 専任補充予定
		事 業 企 画 プ ロ ジ ェ ク ト 実 習	<p>「事業企画プロジェクト実習」では、2年次第1学期までに履修する「商品開発基礎演習」で修得した知識を活用して次の実習を行う。2年次第1学期の「地域協働企画立案実習」において企画した案を基にして、地域課題の解決にむけた「商品・サービス・事業等」を具体化するための事業計画等の立案を行い、実習先と協働して「商品・サービス・事業等」を生み出す。(i) 第1学期に個人ベースで企画立案した地域資源の活用方法を基に、グループ単位で「商品・サービス・事業等」の開発構想を策定する。(ii) グループとして策定した開発構想を具体化するための事業計画案を個人ベースで策定する。(iii) 個人で策定した計画をすり合わせ、グループとして1つの事業計画案にまとめて関係者に提案する。(iv) 関係者の意見を踏まえて計画を改善し最終計画案を策定する。実習は授業60回分（120時間）で行う。実習の内訳は、事前・中間・事後指導（56時間）と現地研修（64時間）とする。現地研修の都合上、土日開講も行うので、集中開講形式とする。「地域協働企画立案実習」と同一の実習先（クラス）とし、「地域協働企画立案実習」を担当した教員（1クラス2名）がクラスを持ち上がる。</p> <p>(1) 上田 健作) NPOと行政の協働による地域振興イベント等企画の実施計画策定指導 (2) 辻田 宏) 地域スポーツ振興及び健康スポーツ推進に関する企画の実施計画策定指導 (3) 池田 啓実) 地域協働による産業振興策の実行計画及び協働型人材育成事業企画の実施計画策定指導 (4) 鈴木 啓之) 住民と行政の協働による防災活動及び生きがい作り活動企画の実施計画策定指導 (5) 受田 浩之) 食料品開発及びフードビジネス人材育成事業に関する企画の事業計画策定指導 (6) 市川 昌広) 地域資源管理に基づく資源活用プロジェクト企画の事業計画策定指導 (7) 大石 達良) 地域資源を活用した国際ビジネス展開に関する企画の事業計画策定指導 (8) 内田 純一) 地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育のための企画の実施計画策定指導 (9) 玉里 恵美子) 地域資源を活かした福祉サービス開発及び仕組みづくり企画の実施計画策定指導 (10) 石筒 覚) 地域資源を活かした地域産業振興策の企画の実施計画策定指導 (11) 松本 明) 地域の環境資源等を活かした新ビジネス創出企画の事業計画策定指導 (12) 吉岡 一洋) 地域商品及び地域イベント等を広報する意匠及びデザイン企画の実施計画策定指導 (13) 霜浦 森平) 地域資源を活かした商品開発及び観光開発企画の事業計画策定指導 (14) 中澤 純治) 地域資源を活かした新ビジネス創出及び農村ツーリズム企画の事業計画策定指導 (15) 大槻 知史) ソーシャルキャピタルを醸成する地域防災活動の実施計画及び防災関連商品開発の事業計画策定指導 (16) 中村 哲也) 地域スポーツ団体等による地域協働事業企画の実施計画策定指導 (17) 今城 逸雄) イベント等を通じた中心商店街活性化企画の実施計画策定指導 (18) 侯野 秀典) 大学の知的資源等を活用した産学官民協働事業企画の実施計画策定指導 (19) 須藤 順) 地域資源を活かした商品開発、観光開発、ソーシャルビジネスの事業計画策定指導 (20) 湊 邦生) 東アジアという視野に基づく土地等の地域資源活用プロジェクト企画の実施計画策定指導 (21) 齊藤 雅洋) 地域の自然環境及び文化的資源を活かして地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育のための企画の実施計画策定指導</p>	専任教員による共同方式 専任補充予定

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考
専門科目	必修科目 実習科目 地域協働 マネジメント実習	<p>「地域協働マネジメント実習」では、「事業企画プロジェクト実習」において策定した事業計画を実行して、事業結果の点検・評価を行い評価案にまとめる。</p> <p>(i) 開発を行った商品の加工・販売実践を協働して行うほか、地域イベント企画の実践、集落活動支援事業企画の実践など、2年次までに身に付けた能力や知識及び技法を活かして地域協働活動を行う。(ii) 事業結果を評価し個人ベースで評価案にまとめる。実習は授業60回分(120時間)で行う。実習の内訳は、事前・中間・事後指導(42時間)と現地研修(78時間)とする。現地研修の都合上、土日開講も行うので、集中開講形式とする。「地域協働企画立案実習」と同一の実習先(クラス)とし、「地域協働企画立案実習」を担当した教員(1クラス2名)がクラスを持ち上がる。</p> <p>(1) 上田 健作) NPOと行政の協働による地域振興イベントの実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(2) 辻田 宏) 地域スポーツ振興及び健康スポーツ推進事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(3) 池田 啓実) 地域協働による産業振興策及び協働型人材育成事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(4) 鈴木 啓之) 住民と行政の協働による防災活動及び生きがい作り活動の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(5) 受田 浩之) 食料品開発及びフードビジネス人材育成事業を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(6) 市川 昌広) 地域資源管理に基づく資源活用プロジェクトの実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(7) 大石 達良) 地域資源を活用した国際ビジネス展開事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(8) 内田 純一) 地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(9) 玉里 恵美子) 地域資源を活かした福祉サービス及び仕組み創出事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(10) 石筒 覚) 地域資源を活かした地域産業振興実行計画の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(11) 松本 明) 地域の環境資源を活かした新ビジネス創出事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(12) 吉岡 一洋) 地域資源を広報するための意匠及びデザイン企画の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(13) 霜浦 森平) 地域資源を活かした商品開発及び観光開発事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(14) 中澤 純治) 地域資源を活かした新ビジネス及び農村ツーリズム開発事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(15) 大槻 知史) 地域防災活動及び防災関連商品開発事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(16) 中村 哲也) 地域スポーツ団体等による地域協働事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(17) 今城 逸雄) イベント等を通じた中心商店街活性化事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(18) 俣野 秀典) 大学の知的資源等を活用した産学官民協働事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(19) 須藤 順) 地域資源を活かした商品開発、観光開発、ソーシャルビジネス創出事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(20) 湊 邦生) 東アジアという視野に基づく土地等の地域資源活用プロジェクトの実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p> <p>(21) 齊藤 雅洋) 地域の自然環境及び文化的資源を活かして地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育事業の実施を指導、事業結果の点検・評価及び事業評価案の作成指導</p>	専任教員による共同方式 専任補充予定

授 業 科 目 の 概 要			
(地域協働学部地域協働学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目 実習科目 専門科目 選択科目	教えるプロジェクト実習	「教えるプロジェクト実習」では、2年次までに履修した「ファシリテーション演習」又は「チームワークを考える」で修得した知識を活かして以下の実習を行う。 (i) 「地域協働マネジメント実習」において作成した事業評価（個人）案を基にチームとしての事業評価案をまとめる。(ii) 事業評価案に基づき改善策を検討するためのワークショップの実施計画を立案する。(iii) 個人の案を基にチームとしての実施計画案を策定し、実習先関係者と協働して最終計画を決定する。(iv) 当該計画に基づきワークショップを開催、運営し、合意形成によって関係者間で事業改善案を策定する。(v) 合意された事業改善案を報告書にとりまとめる。実習は授業60回分(120時間)で行う。実習の内訳は、事前・中間・事後指導(56時間)と現地研修(64時間)とする。現地研修の都合上、土日開講も行うので、集中開講形式とする。「地域協働企画立案実習」と同一の実習先(クラス)とし、「地域協働企画立案実習」を担当した教員(1クラス2名)がクラスを持ち上がる。 (① 上田 健作) NPOと行政の協働による地域振興イベント等の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (② 辻田 宏) 地域スポーツ振興及び健康スポーツ推進事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (③ 池田 啓実) 地域協働による産業振興策及び協働型人材育成事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (④ 鈴木 啓之) 住民と行政の協働による防災活動及び生きがい作り活動の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑤ 受田 浩之) 食料品開発及びフードビジネス人材育成事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑥ 市川 昌広) 地域資源管理に基づく資源活用プロジェクトの事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑦ 大石 達良) 地域資源を活用した国際ビジネス展開事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑧ 内田 純一) 地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育に関する事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑨ 玉里 恵美子) 地域資源を活かした福祉サービス開発及び仕組みづくり事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑩ 石筒 覚) 地域資源を活かした地域産業振興策実施の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑪ 松本 明) 地域の環境資源等を活かした新ビジネス創出事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑫ 吉岡 一洋) 地域商品及び地域イベント等を広報する意匠及びデザイン製作事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑬ 霜浦 森平) 地域資源を活かした商品開発及び観光開発事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑭ 中澤 純治) 地域資源を活かした新ビジネス創出及び農村ツーリズム事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑮ 大槻 知史) 地域防災活動及び防災関連商品開発事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑯ 中村 哲也) 地域スポーツ団体等による地域協働事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑰ 今城 逸雄) イベント等を通じた中心商店街活性化事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑱ 侯野 秀典) 大学の知的資源等を活用した産学官民協働事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (⑳ 須藤 順) 地域資源を活かした商品開発、観光開発、ソーシャルビジネスの事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (㉑ 湊 邦生) 東アジアという視野に基づく土地等の地域資源活用プロジェクトの事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導 (㉒ 齊藤 雅洋) 地域の自然環境及び文化的資源を活かして地域協働を創出する生涯学習及び社会人教育に関する事業の事業評価案改善指導、事業改善ワークショップの企画立案・実施計画策定指導、並びに報告書の作成指導	専任教員による共同方式 専任補充予定
	組織学習論	この授業は、ピーター・センゲが提唱する学習する組織の5つの基本的な構成要素の解説を核に学習する組織の基本的考え方の理解を図るとともに、野中・紺野のSECIモデルや伊丹の「場の論理」、さらには意思決定プロセスに関する代表的理論の「ゴミ箱モデル」の紹介を通して組織における学習の重要性についての理解促進も目指す。また、オットー・シャーマーの「U理論」を参考に、質の高い学習する組織の実現に必要な人材の資質についても解説する。なお、解説する理論やモデルに関する理解の質を高めるため、「組織が対象とするニーズに十分に答えるためには組織はどうか」というテーマを設定し、紹介する理論毎に、解説内容を踏まえた視点からチーム単位でテーマについて検討を行い、成果を全体で共有する方式をとる。また、実践面から組織学習の価値や活用のあり方を理解する機会として、一連の検討作業をPDCAサイクルとして活用する。	
	地域計画論	本講義では、環境・経済・社会・個人が調和した持続可能な地域づくりについて、地域資源を生かした活性化、協働のまちづくりといった現代的な地域再生課題を視野に入れつつ、ケースメソッド方式やグループワーク手法を取り入れながら、最新事例の理論、技術、技法の評価を行い、実践に必要な基本的知識と企画構想力の獲得を目指す。	
非営利組織マネジメント論	この授業では、今日、地域諸課題の解決に向けた地域協働の主体の一つである非営利組織のマネジメントに関する理論及び技法を学ぶ。特に、非営利組織における単年度及び中長期事業計画の策定及び点検・評価に関する具体的手法及び手順を高知県内の非営利組織のケースメソッドを活用したアクティブラーニングによって学習し、地域協働を担う非営利組織経営に不可欠なPDCAのうち点検・評価を可能にするP(Plan)の力を身に付けることを目的とする。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域協働学部地域協働学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	選 択 科 目	地域資源管理論	日本の農山村社会・文化について学び、農山村資源利用に関わる歴史、政策の考察を踏まえてその在り方について理解する。さらに、近代における農山村の変容と様々な問題について理解し、将来の資源利用・管理の在り方について考える。さらに東南アジアの農山村の資源利用・管理についてアジア地域の相対的な視点を持つ。	
		行財政論	この授業では、日本の行財政について、国と地方の行財政関係、地域社会の現実との関係での行財政の役割について学習する。そのために、①国・都道府県・市町村の行財政関係の基本的理解、②地域社会の課題解決のために国・都道府県の制度がどのように活用されているかの事例研究を柱に、授業計画を編成する。②については、少子高齢化や人口減少のいわば「先進県」である高知の各地域の施策等を取り上げて論ずる。これらのことにより、行財政制度および各種政策に係る地域での協働マネジメントに必要な知識を教授する。	
		会計学概論	「なぜ会計がされるのか？」に重点をおいて会計実務を分析し概説する。会計記録は、取引を促進し、取引の継続を確かなものにする制度である。それは実務者による使用と判断を基礎にして形成発展するものである。本講義は、会計細則の暗記ではなく、実際の会計実務にふれ、そこから会計の有用性を体験することを、学習の目的とする。	
		ナレッジマネジメント論	ナレッジ・マネジメント（知識経営）は、「知」の創造・共有・活用を説明する理論と実践であり、企業経営を知識という視点から捉える新たな経営学の基礎理論・方法論である。知識経営論について正しく理解するために、本講義では、前半に経営学における組織論の変遷過程を取り上げ、その中でミクロとマクロの組織論の基礎を修得する。そして後半に知識ベース企業理論、特に組織的知識創造理論を取り上げ、いくつかのケースをもとに、組織内の個人やグループが保有する知識をいかに共有し、活用し、新しい知識の創造に結びつけるかを議論する。	
		社会教育論	この授業では、社会教育の基礎的な知識の習得を通じて、社会教育の仕事やしくみ、その社会的意義について理解することを目的としている。社会教育の仕事は成人の学習支援である。これまで社会教育の仕事は、自治体の教育委員会や公民館、図書館、博物館の専門職に限られていたが、現在は自治体の教育委員会以外の部局にも広がり、社会福祉の関係職員やNPOの職員も担うようになった。こうした状況をふまえて、この授業では社会教育関係職員や市民活動団体の関係者等の組織や仕事、全国各地の社会教育関係職員や市民活動団体関係者の活動・実践・運動を紹介し、社会教育がもつ可能性と限界を受講者に考えてもらう。また、様々な外圧によって、社会教育の行政・施設・職員のあり方が変容していることも解説する。	
		起業・経営実務講座	(㊸ 藤岡 正樹・㊹ 須藤 順) 起業経験のある2人の専任教員が複数名の県内企業家を話題提供者に招き、ワークショップ形式の授業を通じて起業に必要な心構えや資質、必要とされる知識・スキルの獲得、起業における協働の必要性及び協働を組織化する手法の獲得を目的としている。	共同方式
		行政実務講座	行政実務の領域は多岐にわたるが、本講義では、主要な行政実務領域として、法務（行政実務に関わる基本的な法律や政策法等の解釈・運用、条例策定の要諦等）、税財政実務と財務管理、各種住民サービスの供給、人事管理と人材育成、議会運営実務と選挙管理、政策立案、政策評価、情報公開、住民参加制度および行政と住民との協働などを取り上げ、主として実務家の知見に基づいて解説する。それにより、行政職員の職務の全体像と地域社会の円滑な運営上必要な行政の役割について、理解を促したい。	
		金融・税務実務講座	企業経営に必要な金融及び税務の実用的知識を講義によって教授する。本講座では、特にベンチャー企業経営及び中小企業経営において「地域協働」を視野に入れた経営を担うための実務的知識を身に付けることを目指している。	
		実践情報処理	高知の自然、環境、産業、観光、サービスおよびこれらの複合課題の中から受講者自ら課題を設定し、ICTを駆使した情報収集、分析、資料作成とプレゼンテーションにグループで取り組むことにより、課題を発見し、プロセスを考え、実践し、それぞれが設定した課題解決目標に到達する。この中で情報処理のスキルやインターネット利用のルール、マナー、他人の著作物の利用方法、情報処理の方法などを実践的に学ぶ。	
		海外特別演習	本学が教育研究交流(協定校)を行っているタイ(タマサート大学)、インドネシア(タンジュンブラ大学)、イタリア(サッサリ大学)において短期研修を行うものである。研修内容は、地域づくりに関する実習(フィールドワークまたはインターンシップ)である。実習は、協定校の教員が主として指導し、協定校との交流実績を有する本学教員が現地でのモニタリングを行う。本授業は、本学部における事前学習及び事後学習の履修を前提に、海外での実習を単位認定するための科目である。なお、当該科目の履修は、希望者について本学部実習科目の成績を踏まえた審査を行った上で許可する。	
外国語特別演習	海外特別演習の履修が認められた者に対して実践英会話の訓練を集中で行い、短期研修に必要な語学力(英語)を強化することを目的としている。			

授 業 科 目 の 概 要					
(地域協働学部地域協働学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	選 択 科 目	地 域 産 業 分 野	地域デザイン論	地域振興を図るための特産品の開発・販売、イベントや観光情報の発信等においては、デザインが重要である。本授業では、地域の特性を広く人々に理解してもらえるデザインとは何かを考え、地域事例を基にこれからのデザインのあり方を本質から学ぶ。デザイン領域と隣接する美術・工芸領域についても横断的に調査・研究を進める。	
			フードビジネス論	高知県の実情を踏まえ、市場から求められる食品開発に関して、マーケティングの考え方、製品開発の要諦を総合的に学ぶ。具体的には、マーケティングのSTP (Segmentation, Targeting, Positioning)、4Pミックス (Price, Product, Place, Promotion)を理解した上で、製品 (Product) の開発に必須とされる食品成分及び、調理・加工の科学を系統的に学び、さらに食品の有する健康増進効果についても一定の医学的裏付けに基づいて理解する力を身につける。	
			六次産業化論	本講義では、農産物加工・販売、直売、農村交流体験などの六次産業化の取り組み(高知県内の取り組みを含む)について理論的・学術的視点から解説するとともに、取り組みが有する経営技術的特徴や中山間地域における取り組みの意義について重点的に学ぶ。六次産業化の「地域実践」を担う人材に必要な視座を、理論レベルおよび実践レベルの両面から身につけることを、本講義の目的としている。	
			農業振興論	本講義では、農業経済学をベースに、まず日本における1次産業の全体像を理解し、現在農業政策等で示されている幾つかの将来像を検討して6次産業化による1次産業振興の位置と役割について考える。特に、中山間地域における小零細経営に関して、高知県の事例を基にしたケースメソッドを活用したグループワーク等によりそのあり方を検討する。	
			地域産業政策論	地域社会を維持していくために、地域の企業や産業が果たす役割は極めて重要であり、それらに対して行政は様々な形で支援を行ってきた。授業では、戦後の日本において国家レベルで実施された地域政策について概観した上で、国内外の事例を基に、企業誘致型開発や内発的発展の意味を考察する。また、高知県の産業振興計画をはじめとする地方自治体が策定した施策の現状と課題をふまえて、地域資源を活用した産業化のあり方をグループワークを通じて検討する。	
			食品生化学	近年、食と健康の関わりが世間の注目を浴び、多くの人々の関心が長年親しんできた身近な発酵食品に集まっている。健康に寄与してきた食品の成り立ちと健康機能を、特に発酵食品とそれを作り上げてきた微生物の働き、細胞内外での営みを生物学的視点と生化学的視点で理解し、我々の生活する環境や習慣を伴った過去の食の成り立ちと、我々の未来の食を考え、想像することがメインテーマである。食と健康に貢献する話題を取り上げ、微生物の発酵生化学とそれを利用した微生物産業の将来を展望する能力を養う。	
			国際ビジネス展開論	本授業は、受講生が国際ビジネスの理論と現状を理解し、その上で中小企業の国際展開についてその実態と地域経済との関係について検討することを目的とする。授業では、企業の「貿易」と「海外進出(直接投資)」の2つの形態による国際ビジネスの展開について、まず基礎的理論について、次いで現状について考察を行う。考察に当たっては、とくに地方における中小企業の国際ビジネスの検討に力点を置く。授業形態は、講義を中心とするが、適時、学生同士のグループディスカッションも行いながら進める。	
			森林経営学	林業の動向と木材需給、森林経営の組織と運営、農業経営の診断と設計、林産物市場と林産物流通、農山村の生活・社会と森林経営等に関して講義を行い森林を経営するにあたり必要な事項について多面的に学ぶ。	
			地域産業連関論	近年、地域の産業構造を把握する手法として地域産業連関表が再び注目を集めている。ここでは、地域産業連関表に関する基礎的知識を修得し、産業連関論の立場から地域経済に対する政策提案ができることを目指す。具体的には、①地域経済構造の特徴を把握すること、②政策的介入の影響を産業連関モデルによって把握すること、③任意の分析対象地域に対して産業連関表を作成することである。	
			中心市街地活性化論	中心市街地は都市の商業活動の場として地域経済を担うとともに、地域のハレの場としての役割も担ってきた。そこでは様々な祭や催しが行われ、また文化の発信地として、人々が出会い交流する中で、地域の固有性を生み出し育んできた。しかし近年、ライフスタイルの変化や、都市機能の拡散などにより、中心市街地の衰退が全国的に進んでいる。歴史的に形成され、都市の顔とも言うべき中心市街地は、地域における役割を終えつつあるのだろうか。商業と都市の変遷と関連政策の考察に加え、高知市中心市街地で活性化に取り組む人へのヒアリングを通して、その問題と対策を考える。	
国際農林水産物市場論	国際的な経済学的見地に立って、国際食料及び林産物市場の特徴とその問題点について理解するとともにわが国の食料及び木材市場の構造を輸入との関係で理解して、農林水産物貿易及びその政策について考えるための基礎理論と素養を身につける。				

授 業 科 目 の 概 要					
(地域協働学部地域協働学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	選 択 科 目	地 域 生 活 分 野	生涯学習論	受講生は、現代社会における「学び」の意義について深く考え、生涯にわたる学習の保障原理としての教育のあり方について理解する。具体的には、広く地域社会で展開する学習文化活動の事例を数多く取り上げながら、生涯学習社会の意義、人間の発達段階と発達課題、生涯学習の内容と方法、国際化と生涯学習、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、学習を支援する専門的職員の役割などに関する講義を行い、もって地域協働を担う基礎的能力を養う。	
			ダンス	各種スポーツの特性や社会的・教育的意義を理解した上で、「フォークダンス」「リズムダンス」等を取り入れた健康づくりに資するパフォーマンスを実践し、指導方法を習得するとともにこうしたパフォーマンスの地域づくりにおける役割及び効果を考える。	
			地域スポーツ振興論	地域スポーツ振興及びその担い手の育成について、産官民のそれぞれの立場からのアプローチや課題を探るとともに、個別の解決策とともに「地域協働」の観点からその解決策を探求する。また、担い手の育成については、スポーツの地域貢献や地域住民の健康・スポーツ活動への取組の現状及び問題点を探る中で、人、物、組織の「地域協働」の在り方を考え、スポーツ教育（学）の成果も活かしながら、担い手に必要な能力像とその育成方法及びプロセスを明らかにしていく。また、スポーツ法及び条例等の理解を深め、国及び地方自治体のスポーツ政策の現状と課題を論ずるとともに、高知県を事例として政策各論をより具体的に検討し政策の実現の方策について考える。授業は、基本的にTBL（Team-Based Learning）によって実施する。	
			地域スポーツ社会学	今日のスポーツは、地域社会において経済や政治、教育や文化、福祉等々の結びつきをますます強めている。また、運動不足やストレスの増大、自己実現や人間的幸福の追求などを背景にして、地域住民のスポーツに対する要求もかつてなく高まり多様になってきている。本講義では、こうしたスポーツと社会、スポーツと人間とのかかわりを持続可能な地域社会の発展との関係で捉え、それらを総合的に分析し、今後の地域社会におけるスポーツの発展に関する課題とその解決方法について考察・論究する。	
			地域福祉論	地域福祉の理論を学ぶとともに、地域住民や公私の社会福祉関係者が協働して「共助のまちづくり」をしていくプロセスを理解する。過疎化と高齢化が深化する高知県では、人口減少、家族の小規模化、村落組織の崩壊などの地域特性がみられる。地域住民の孤立化を防ぐためにも、小地域福祉活動や自主防災組織による地域住民の再組織化による地域再生が求められている。また、社会福祉協議会やボランティア団体・NPO組織による地域福祉活動を知るとともに、地域住民と協働しながら「共助のまちづくり」実践を行っていくための基礎知識を習得する。	
			環境社会学		専任補充予定
			コミュニティ振興論	コミュニティ論をベースとして21世紀におけるコミュニティ振興のあり方を総合的に学ぶ。都市部と農村部におけるコミュニティ振興に関する高知県内外の事例を活用して両者の違いを理解し、それぞれの振興のあり方を地域協働の視点から考え、コミュニティ振興を担う地域協働リーダーとしての知見を身に付けることを目的としている。なお、本講義では農村部のコミュニティ振興に関しては6次産業化に焦点を当てて考察する。	
			地域防災論	南海トラフ地震に対して、学生自身が身を護り、また、自分の居住地域をはじめとした高知県下の各地で地域防災の担い手となるための知識とマインドを身につけることを目的とする。そのために、地震と対策についての基礎知識を学びつつ、仮想被害シミュレーターを用いたロールプレイングおよびグループワークによる議論を通じて、地域防災における合意形成の困難さと外部者による支援のあり方を理解する。さらに、地域で実用化できる小さな防災対策として地域防災マイクロサービスを考える。	
			比較地域社会論	地域社会について「比較」という観点から学んでいこうとするものである。地域協働学部ではさまざまな地域社会に入り込んだ「学び」が展開されるが、それらについて学ぶためには、その地域社会だけを知らずにはならない。むしろ、他の地域社会との比較を行い、共通点・相違点を見出すことも、自らが関わる地域社会を理解するために必要である。 この授業では、まずさまざまな社会を対象に行われてきた比較研究を検討し、比較社会研究の意義・課題および方法論について学ぶ。その上で、高知県内各地の地域社会について意見を交換するほか、外国の地域社会の事例を学び、それらと高知県の地域社会の国際比較を行っていく。この授業を通じて、自らが関わる地域社会について、比較という手法を用いて問い直してみる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(地域協働学部地域協働学科)					
科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備考		
専門 科目	選択 科目	地域 生活 分野	ソーシャル キャピ タル論	高齢化が進展し、南海大地震が想定される高知県では、ソーシャルキャピタルの形成が重要である。本講義では、グループワーク形式の授業を通じて、1) ソーシャルキャピタルの重要性の理解、2) 地域や社会でソーシャルキャピタル形成の担い手となる動機付け、3) ソーシャルキャピタル形成支援の際の留意点の理解、を受講生に提供することを目的としている。 具体的には、a) 生活史の振り返りや東日本大震災の事例紹介を通じたソーシャルキャピタル（特に社会的ネットワーク）の重要性の理解、b) ディスカッション・ゲーミング等を通じたソーシャルキャピタル形成の困難さの理解、c) 住民、住民リーダー、地域支援関連職等へのヒアリングを通じたソーシャルキャピタル形成支援時の留意点の理解、の3点を踏まえ、最終的には受講生が朝倉地区でソーシャルキャピタルの形成を支援するためのアイデアを検討し、提案を行う。	
			非営利組 織論	地域課題解決の主体として注目される非営利組織に関して組織としての基本的性質及びその社会的機能に関する経済学の議論、政治学の議論、経営学の議論、社会学の議論を紹介して論点の商材を考える。また、非営利組織と行政の協働及び非営利組織と企業の協働についてその意義とあり方を高知県内の事例を題材に学習する。特に、協働に関する学習においては、ケースメソッドを用いたグループワークによって非営利組織と行政の協働企画や非営利組織と企業の協働企画を立案する訓練も行う。	
			環境文化 論	環境問題を産業革命以来の近代社会の所産ととらえ、前近代社会から近代社会への社会変動の視点から分析することで、環境問題の構造を明らかにすることを目的とする。あわせて、中山間地域の住民の環境問題に対する意識と都市住民のそれを比較しながら、環境問題の特質を理解する。その過程で、客観的なデータの収集と分析、それに基づいた論理的かつ批判的な思考、それらを適切に表現するための表現手法などについて、グループワークでの討議を通じて学習する。	
			家庭経営 学	家庭経営学とは、家族成員の誰もが、個人の福利（well-being）の獲得を通して、より自分らしく生きること（クオリティ・オブ・ライフの向上）を目指す総合的・実践的学問である。本講義では、中学・高校の家庭科免許のために必要な理論と実践をふまえつつ、家族の機能や、個人・家族と家族を取り巻く社会・経済・政策等の関係を学ぶ。またジェンダー平等の視点から捉え、受講生の家庭生活をめぐる諸問題に対する理解、生活者としての主体形成（生きる力の醸成）の実現を試みる。	